

Ⅱ 18 歳以上の区民の方が対象

～ 暮らし・保健・環境の分野など ～

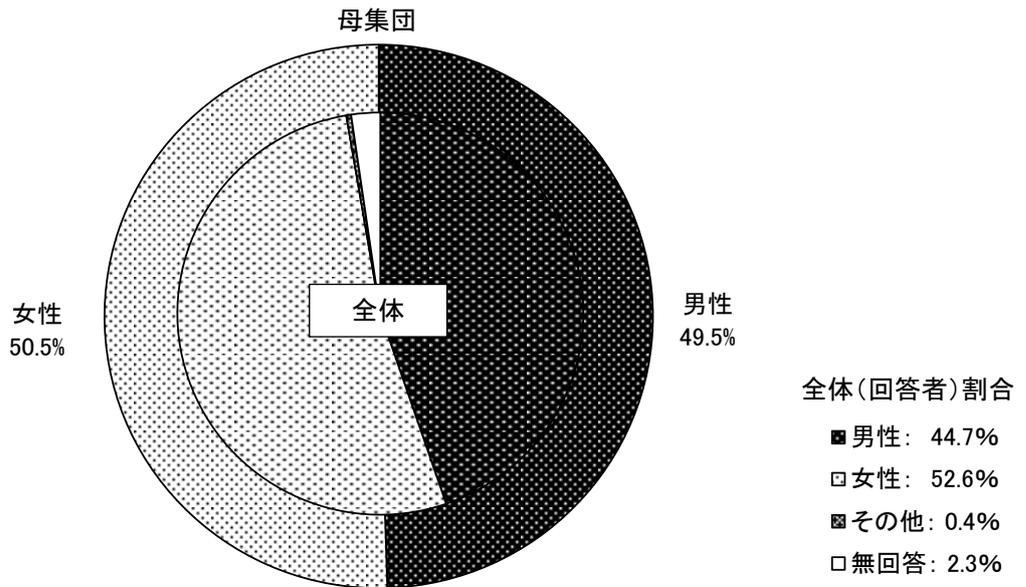
1 回答者の属性について

(1) 性別

母集団：大田区 18 歳以上の人口 (n=636, 231) 令和 5 年 1 月 1 日現在

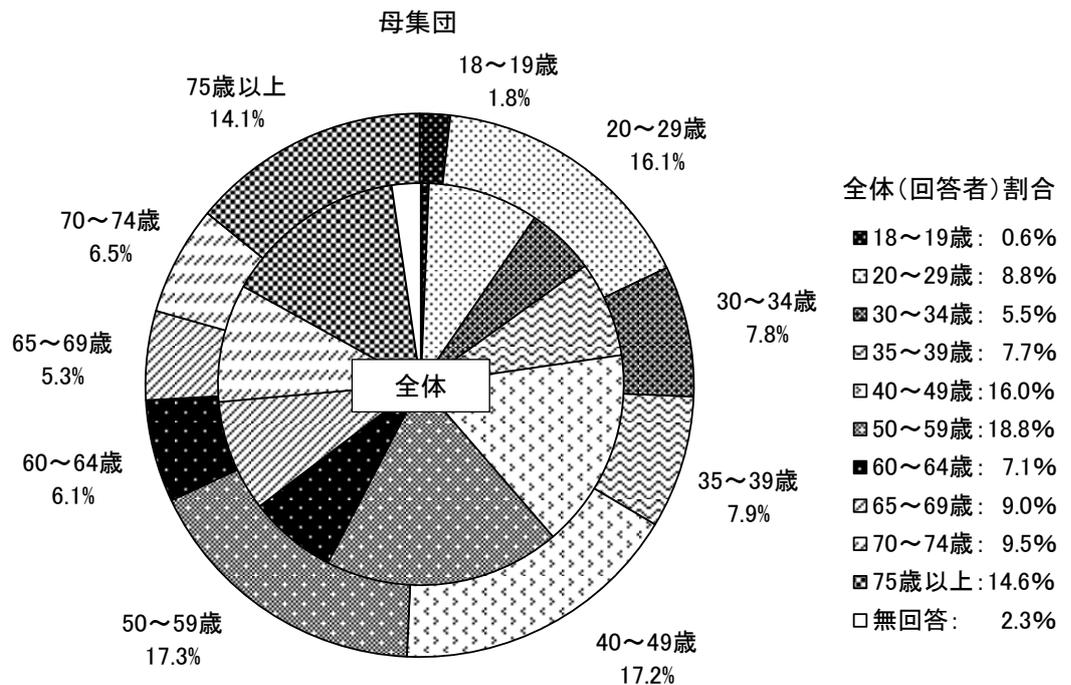
全 体：有効回収数 (n=780)

全体 n=780



(2) 年齢

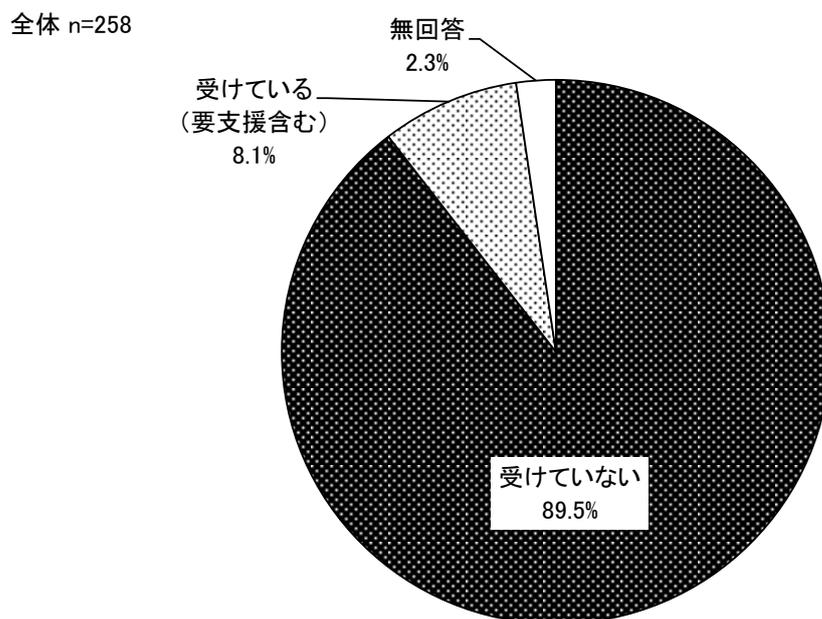
全体 n=780



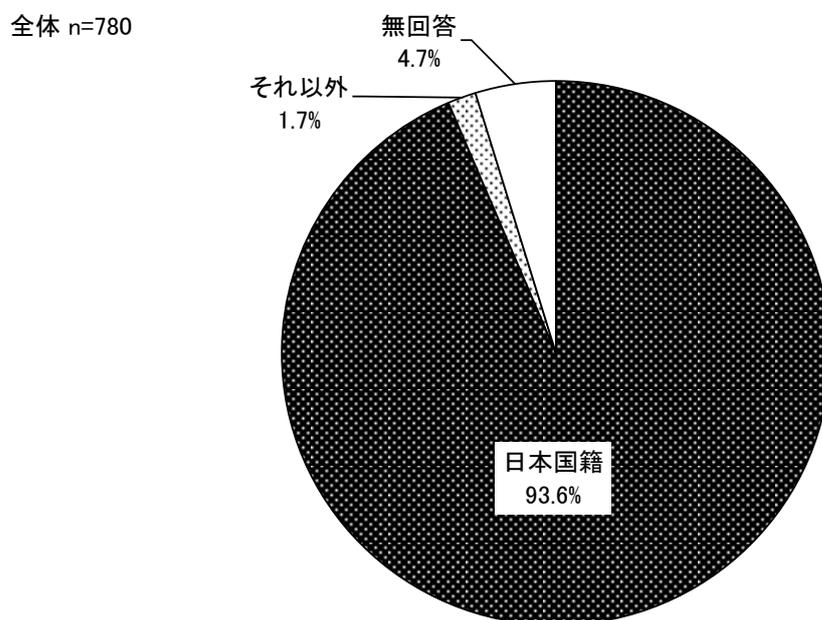
【出典】大田区：年齢別人口報告表資料（日本人+外国人）令和 5 年 1 月 1 日現在

(3) 要介護認定の状況

【65歳以上の方】



(4) 国籍

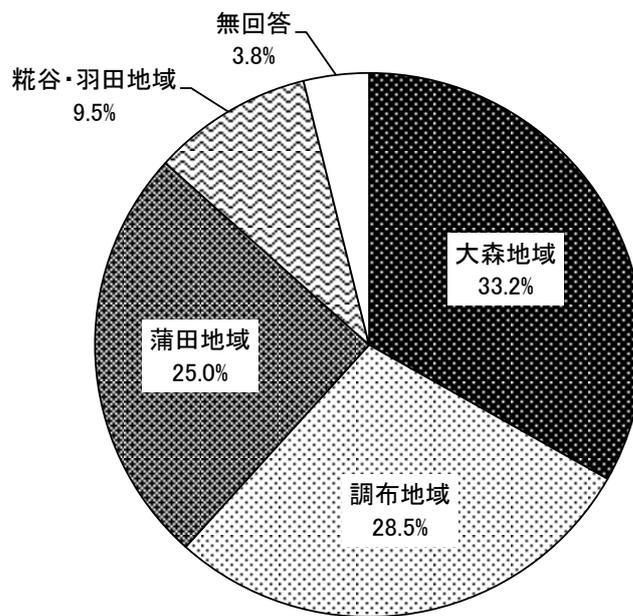


■ 日本国籍以外

	中国	韓国	フィリピン	台湾	ネパール	シンガポール	ドイツ	無回答
人数	2	2	2	1	1	1	1	3

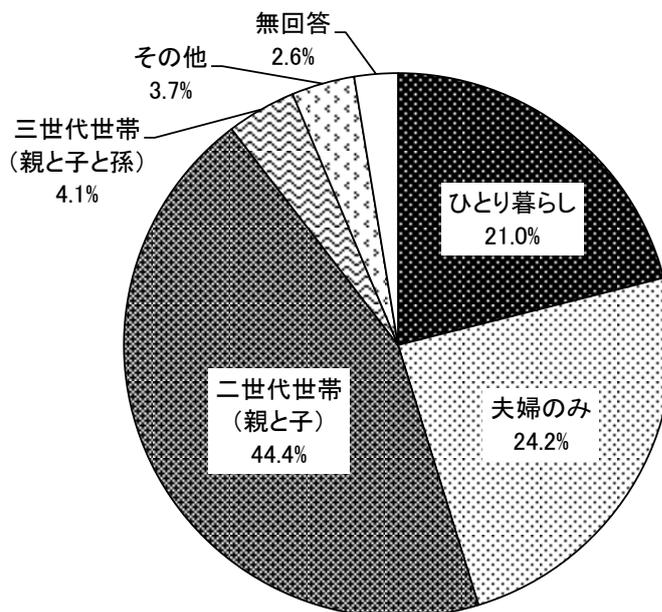
(5) 居住地域

全体 n=780

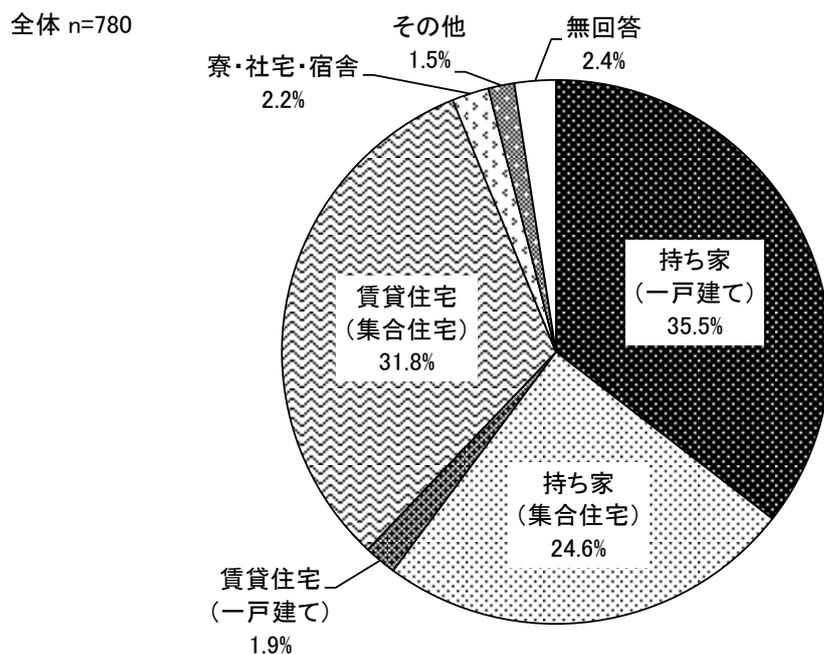


(6) 家族構成

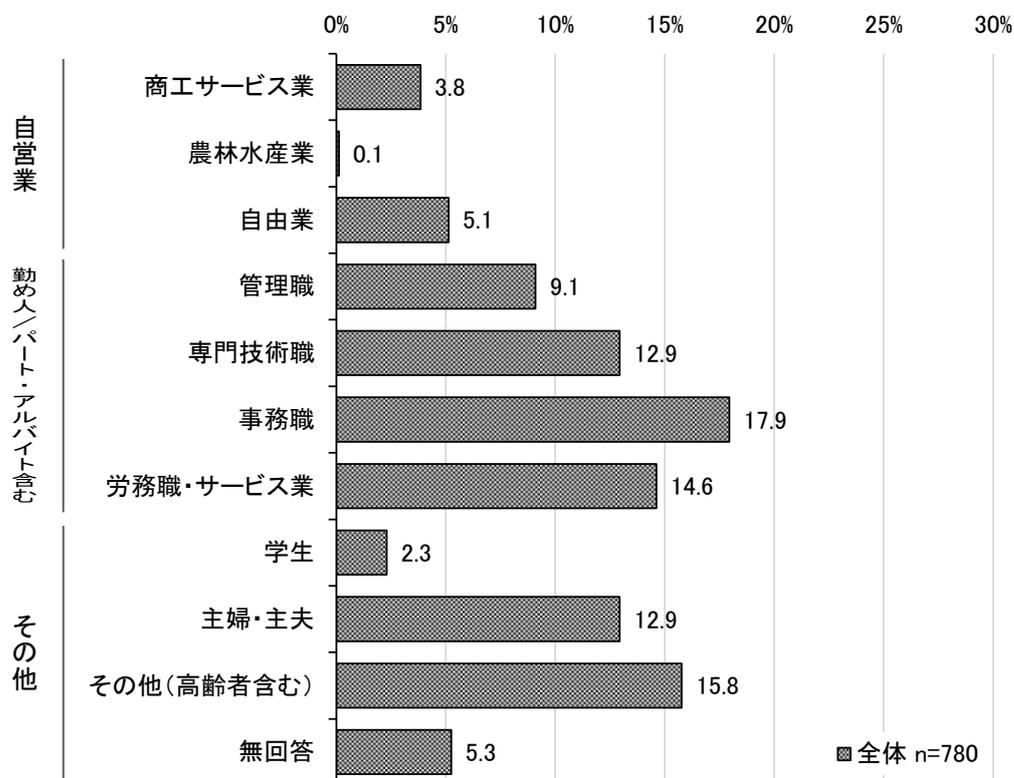
全体 n=780



(7) 住まいの種類

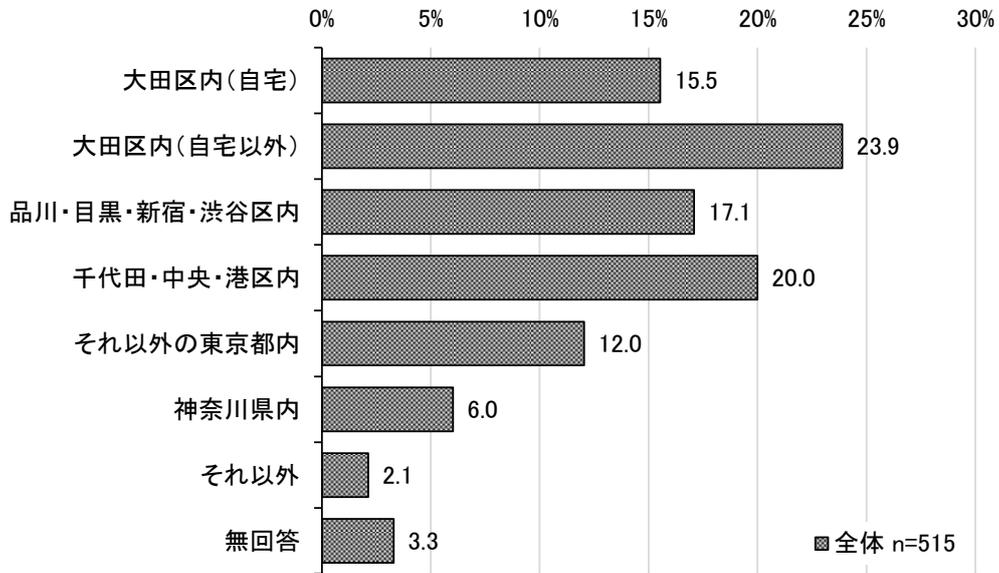


(8) 職業

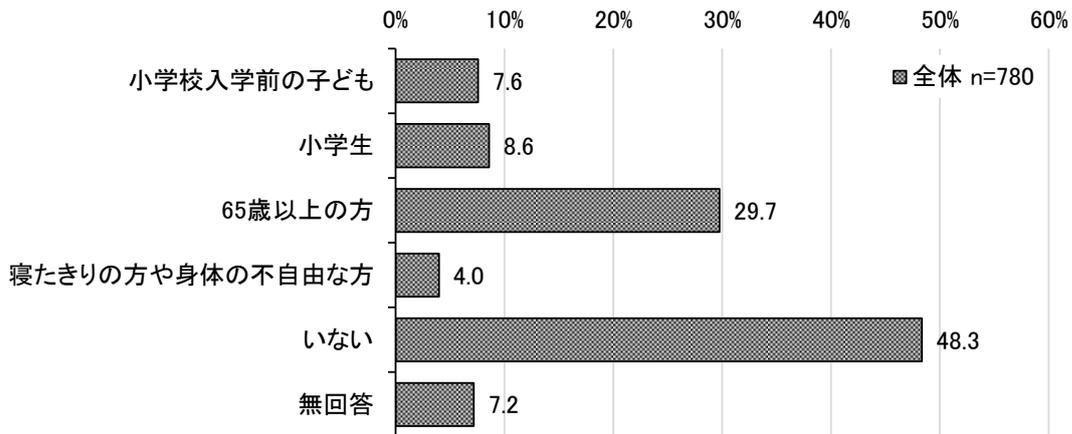


(9) 主な通勤・通学先

【(8) 職業で「自営業」「勤め人」「学生」と回答した方】

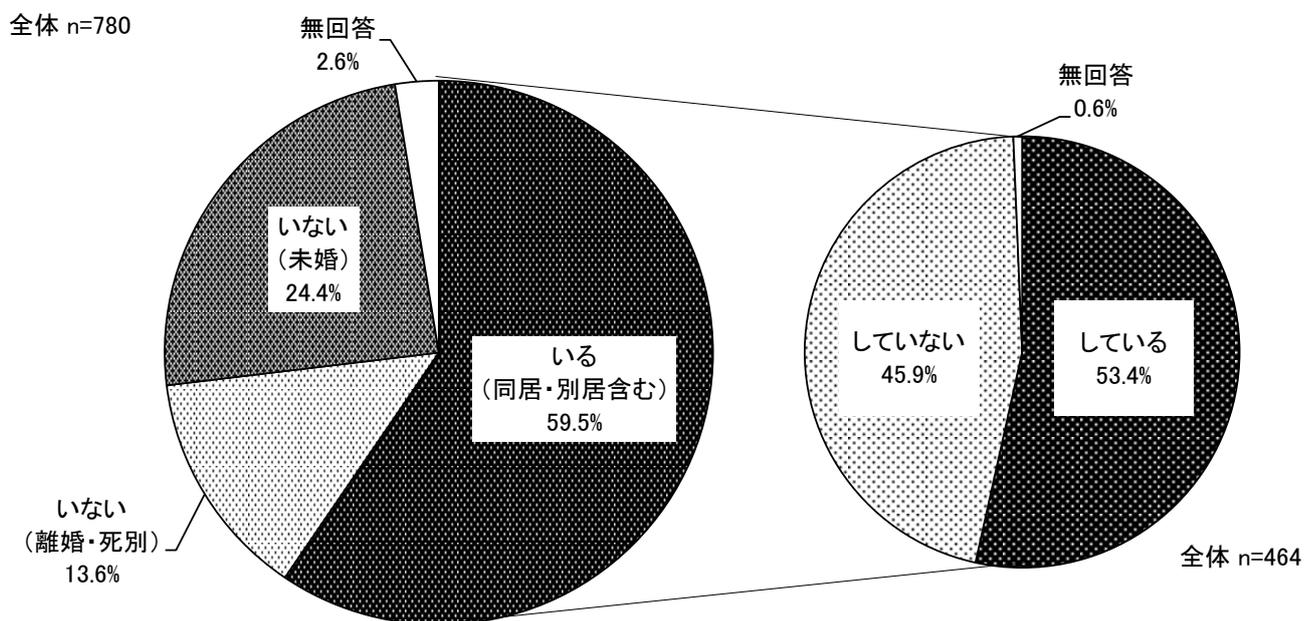


(10) 同居家族

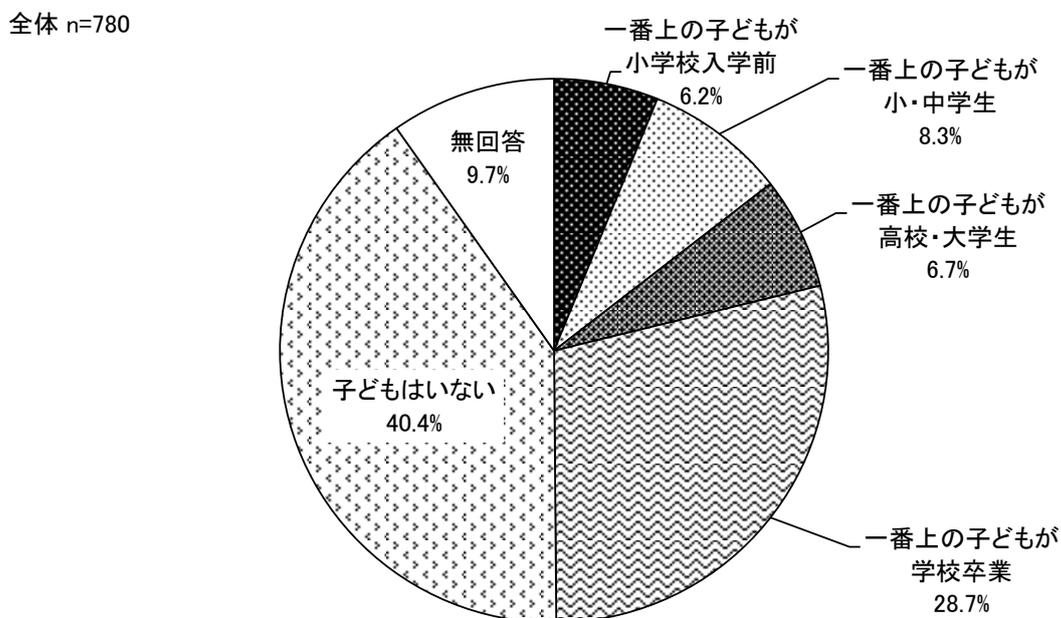


(11) 配偶者の有無及び (12) 共働きの状況

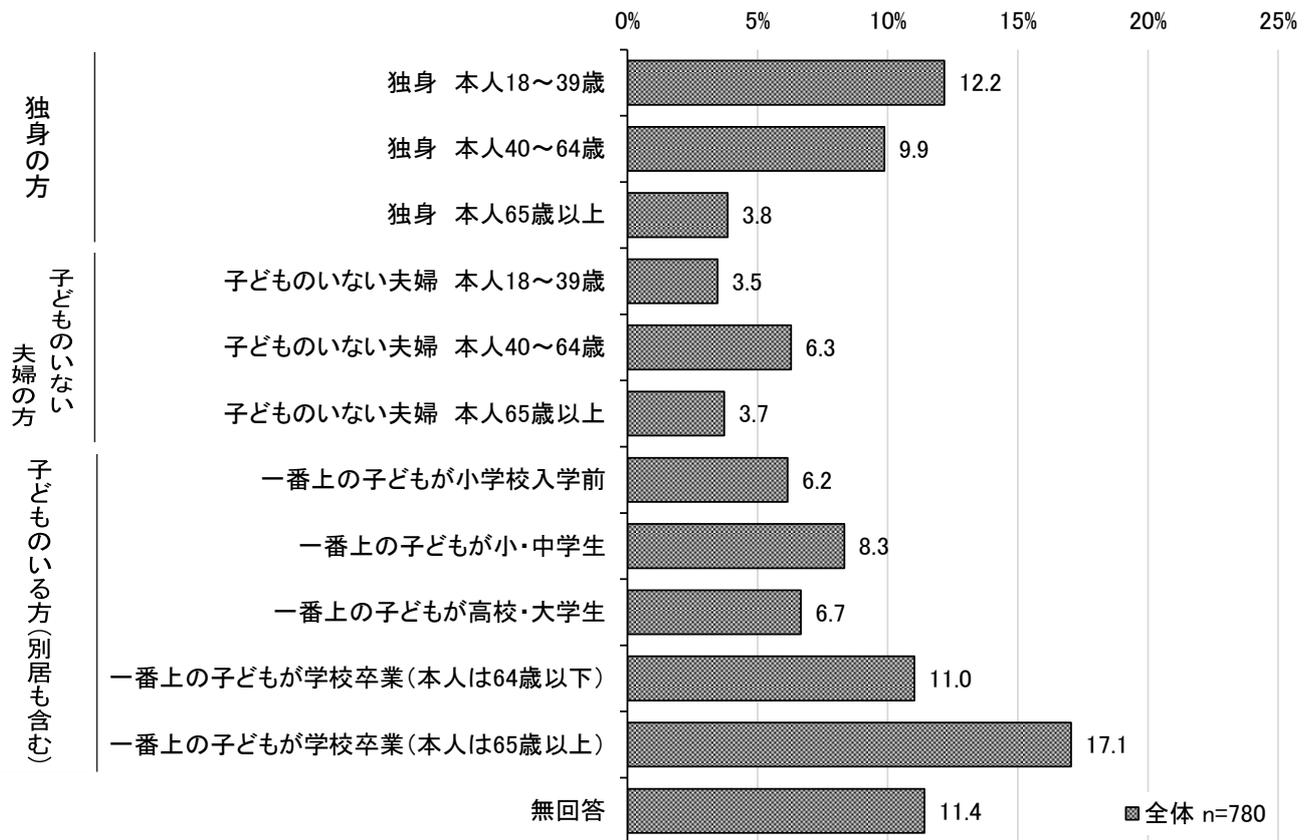
【(11) 配偶者の有無で「いる(同居・別居含む)」と回答した方】



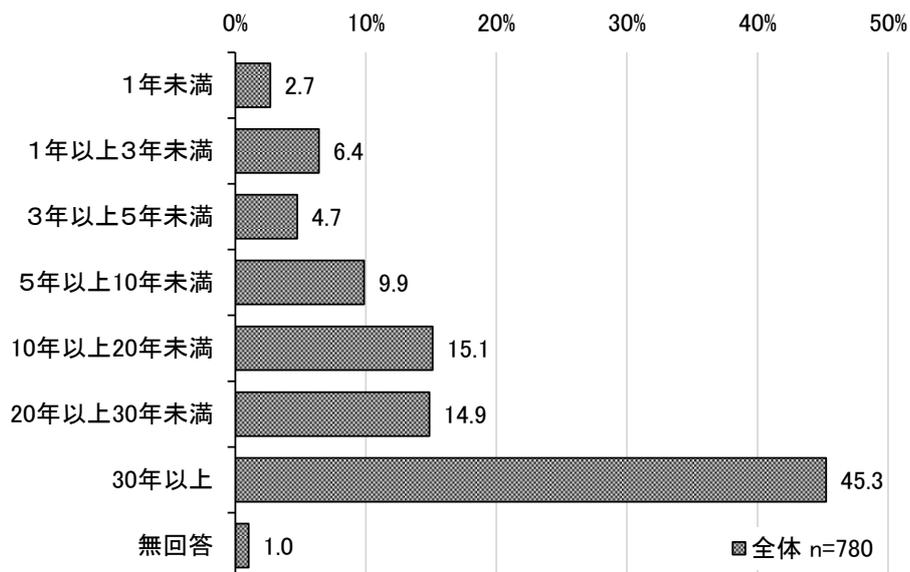
(13) 子どもの有無



(14) 自身のステージ



(15) 居住年数



2 各種認知度について

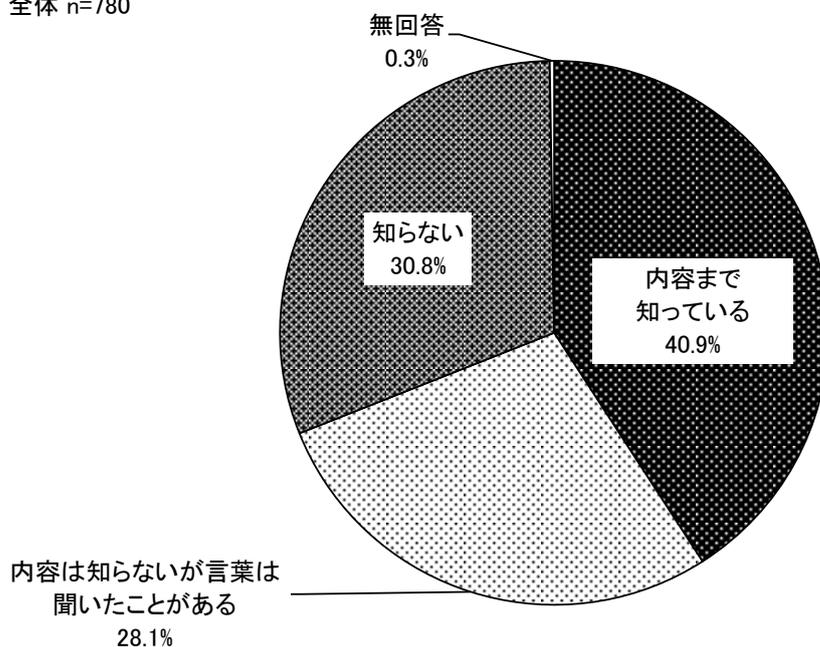
(1) 「ワーク・ライフ・バランス」の認知度

◇「内容まで知っている」は約4割となっている

問1 「ワーク・ライフ・バランス」とは、「仕事と生活の調和」を意味する言葉ですが、あなたはこの言葉を知っていますか。(1つのみ)

“ワーク・ライフ・バランス”の認知度については、「内容まで知っている」が40.9%で最も高く、次いで「知らない」が30.8%、「内容は知らないが言葉は聞いたことがある」が28.1%となっている。

全体 n=780

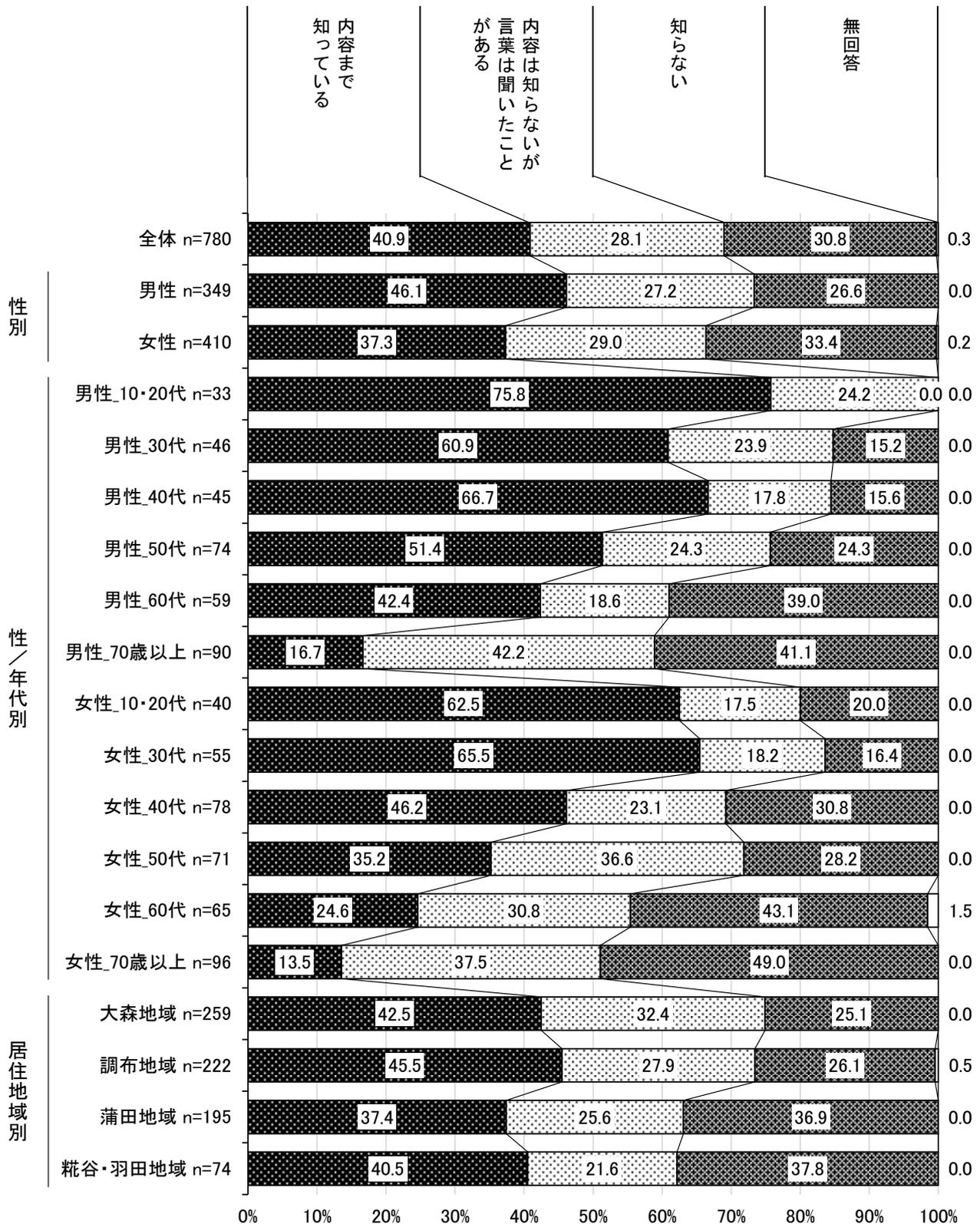


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、「内容まで知っている」は男性が46.1%、女性が37.3%と、男性が8.8ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「内容まで知っている」は男性では10・20代が7割半ば、30代、40代が6割台となっている。女性では10・20代、30代で6割台となっている。

居住地域別でみると、「内容まで知っている」は調布地域で4割半ばと高くなっている。

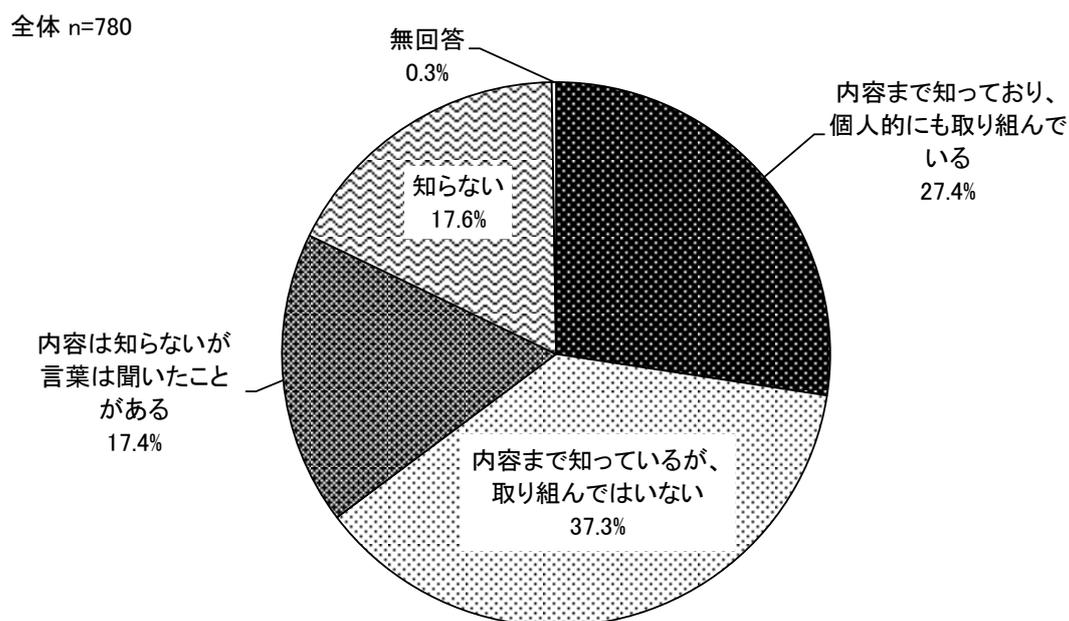


(2)「SDGs (持続可能な開発目標)」の認知度

◇「内容まで知っており、個人的にも取り組んでいる」は2割後半となっている

問2 「SDGs (持続可能な開発目標)」を知っていますか。(1つのみ)

“SDGs (持続可能な開発目標)”の認知度については、「内容まで知っているが、取り組んではない」が37.3%で最も高く、次いで「内容まで知っており、個人的にも取り組んでいる」が27.4%、「知らない」が17.6%となっている。

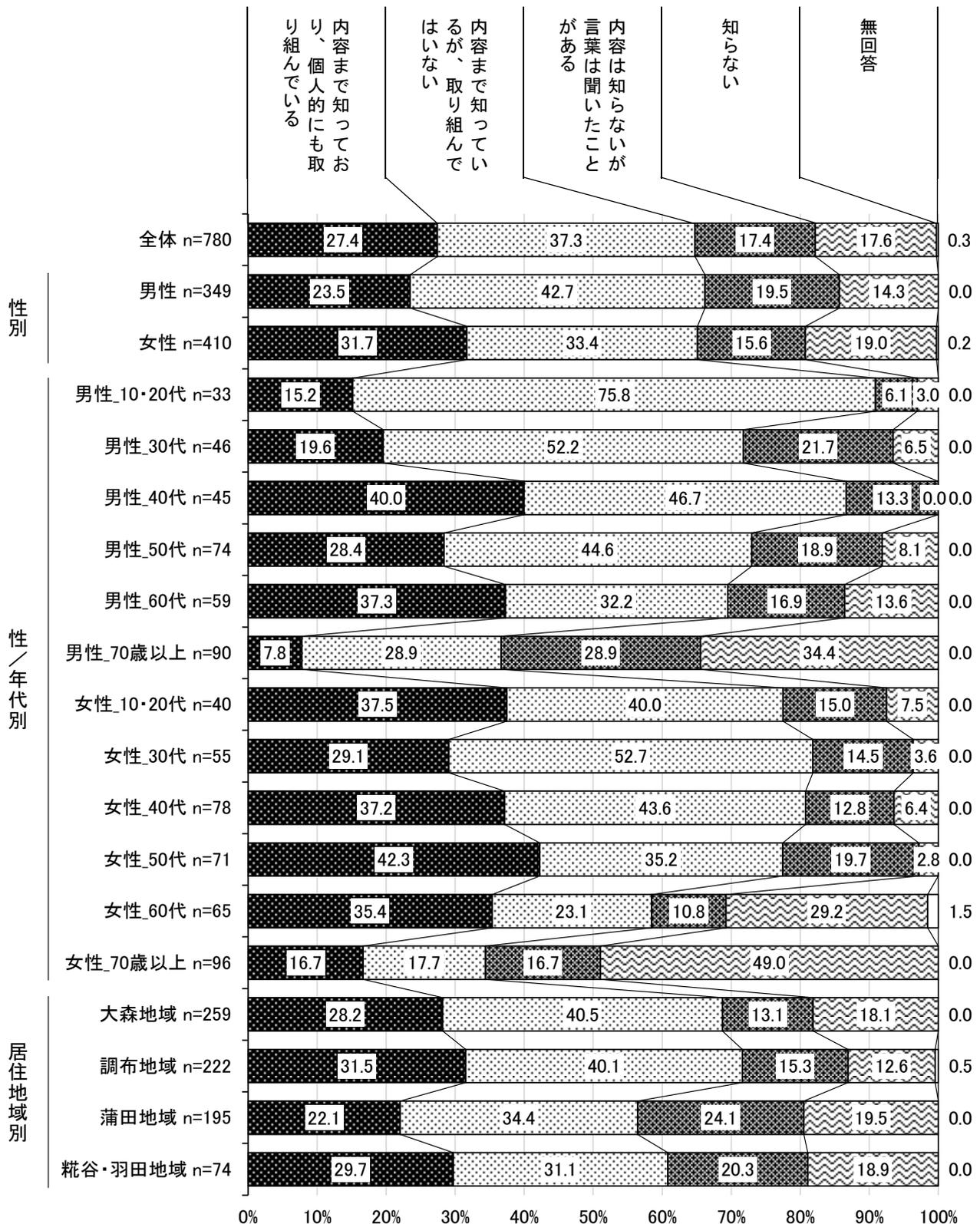


■性別・性/年代別・居住地域別

性別でみると、「内容まで知っており、個人的にも取り組んでいる」は男性が23.5%、女性が31.7%と、女性が8.2ポイント上回っている。

性/年代別でみると、「内容まで知っており、個人的にも取り組んでいる」は男性では40代が4割、60代が3割後半となっている。女性では50代で4割前半となっている。

居住地域別でみると、「内容まで知っており、個人的にも取り組んでいる」は調布地域で3割前半と高くなっている。



(3) 「ヘルプカード」の認知度

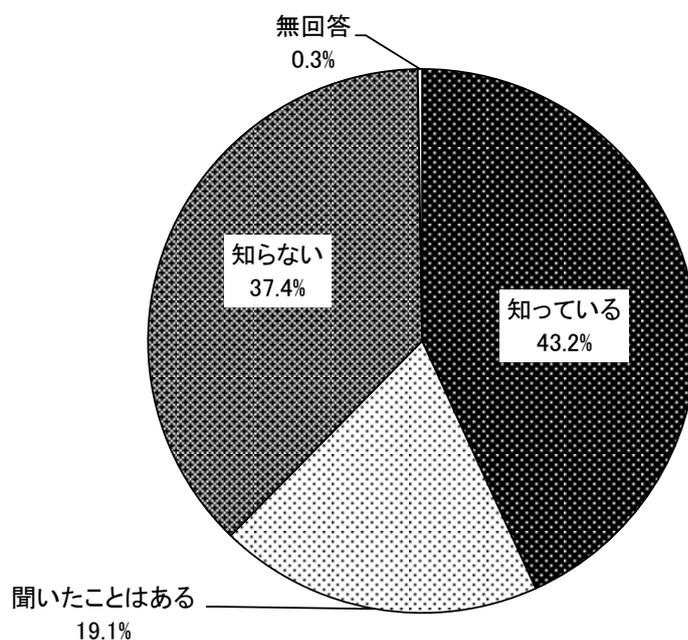
◇「知っている」は4割前半となっている

問3 「ヘルプカード（たすけてねカード）」を知っていますか。（1つのみ）

※障がいのある方などが災害時や日常の外出先での緊急時に手助けを求めるためのカード（大田区が作成）。

“ヘルプカード”の認知度については、「知っている」が43.2%で最も高く、次いで「知らない」が37.4%、「聞いたことはある」が19.1%となっている。

全体 n=780

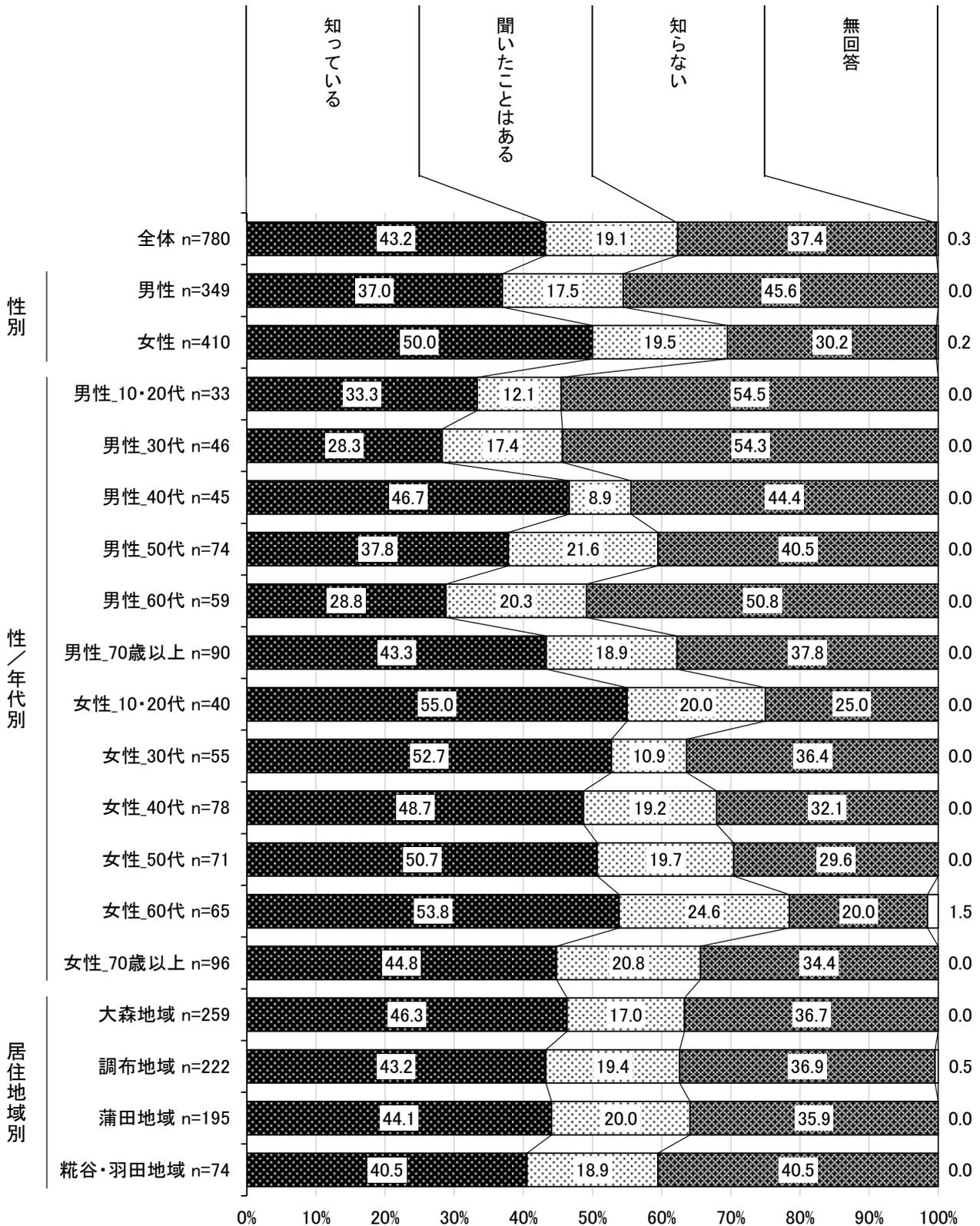


■性別・性/年代別・居住地域別

性別でみると、「知っている」は男性が37.0%、女性が50.0%と、女性が13.0ポイント上回っている。

性/年代別でみると、「知っている」は男性では40代で4割後半、女性では10代・20代で5割半ばと高くなっている。

居住地域別でみると、「知っている」は大森地域で4割後半と高くなっている。



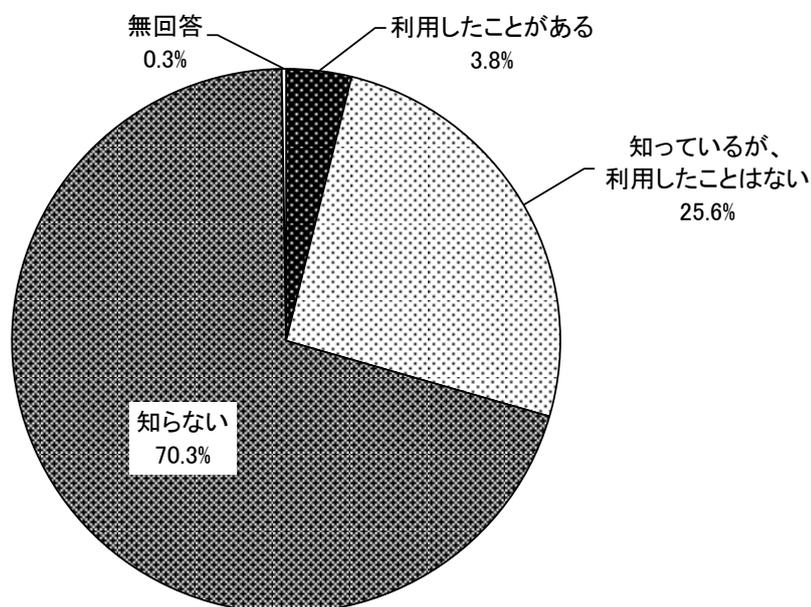
(4)「エセナおおた」の認知度

◇《知っている》(「利用したことがある」、「知っているが、利用したことはない」の合計値)は約3割となっている

問4 区では、男女共同参画社会の実現に向けた取組として様々な講座や展示などの事業を実施しています。これらを主に実施している施設である、男女平等推進センター「エセナおおた」を知っていますか。(1つのみ)

“エセナおおた”の認知度については、「利用したことがある」、「知っているが、利用したことはない」の合計値《知っている》が29.4%である一方で、「知らない」が70.3%と、「知らない」が40.9ポイント上回っている。

全体 n=780

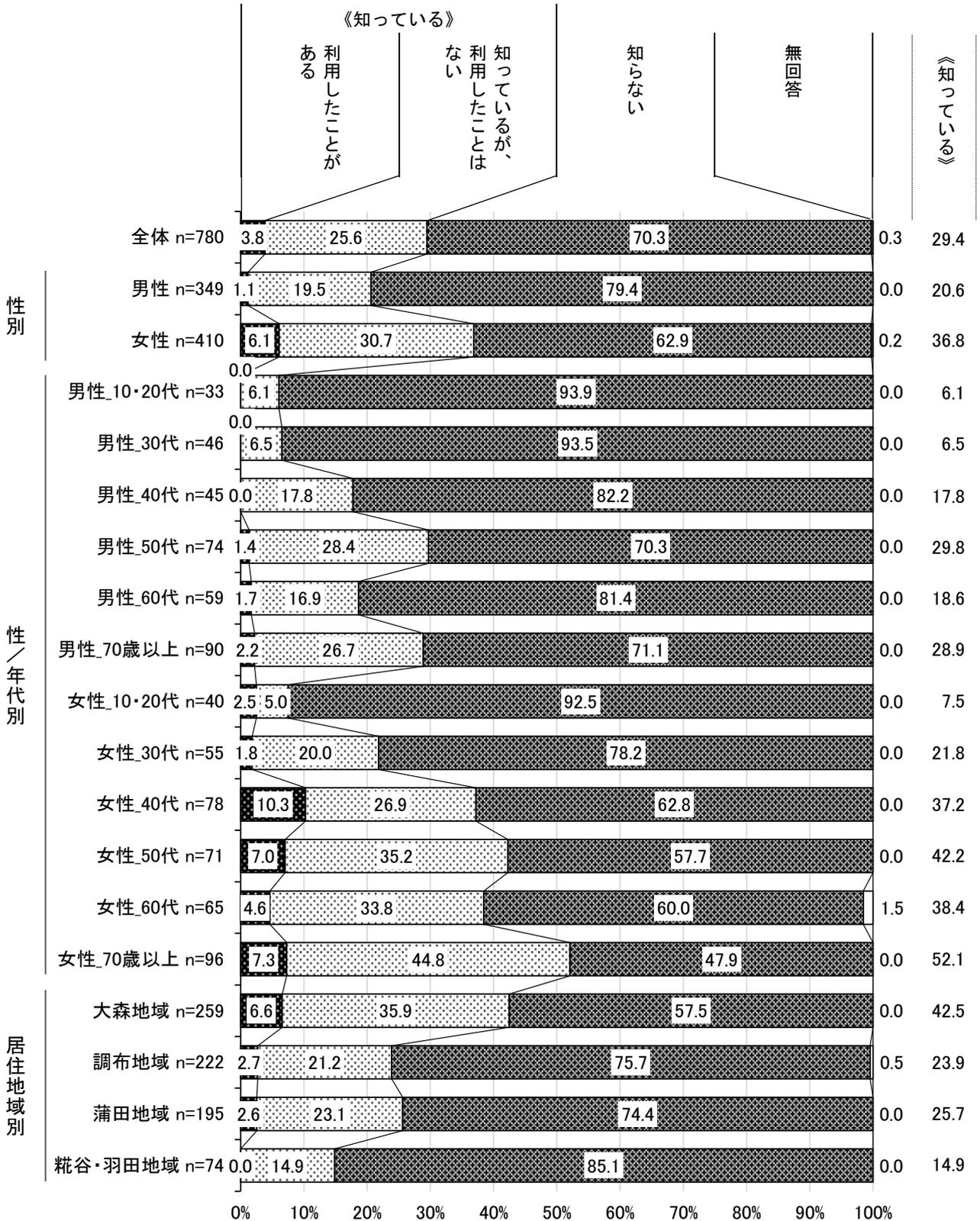


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、《知っている》は男性が20.6%、女性が36.8%と、女性が16.2ポイント上回っている。

性／年代別でみると、《知っている》は男性では50代で約3割、女性では70歳以上で5割前半と高くなっている。

居住地域別でみると、《知っている》は大森地域で4割前半と高くなっている。

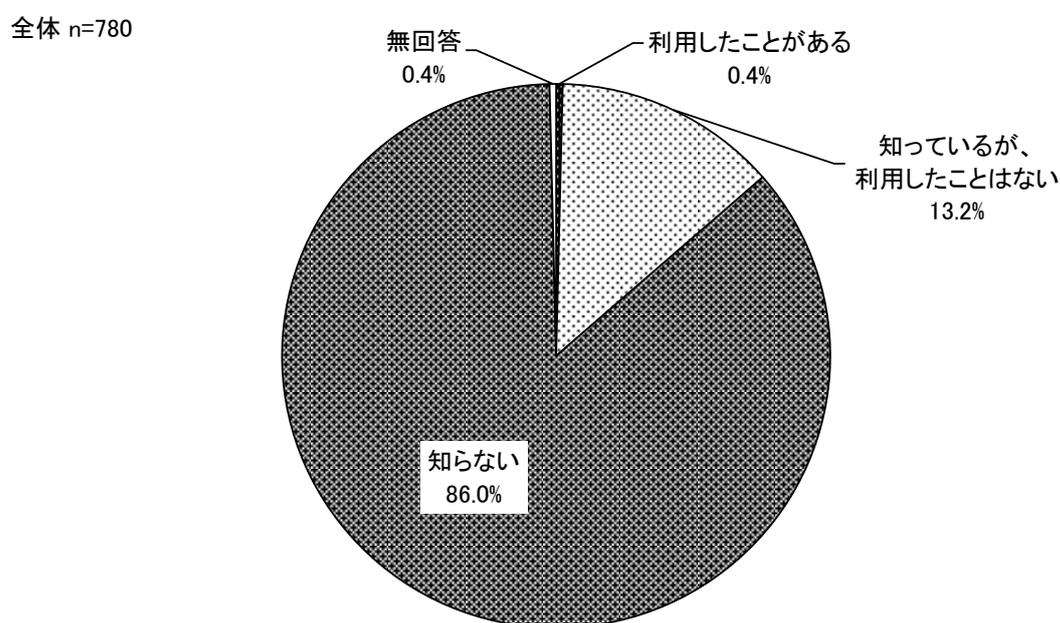


(5) 「女性のためのたんぽぽ相談」の認知度

◇ 《知っている》（「利用したことがある」、「知っているが、利用したことはない」の合計値）は1割前半となっている

問5 男女平等推進センター「エセナおおた」では、「女性のためのたんぽぽ相談」で女性の様々な悩みに関する相談を受け付けていることを知っていますか。（1つのみ）

“女性のためのたんぽぽ相談”の認知度については、「利用したことがある」、「知っているが、利用したことはない」の合計値《知っている》が13.6%である一方で、「知らない」が86.0%と、「知らない」が72.4ポイント上回っている。

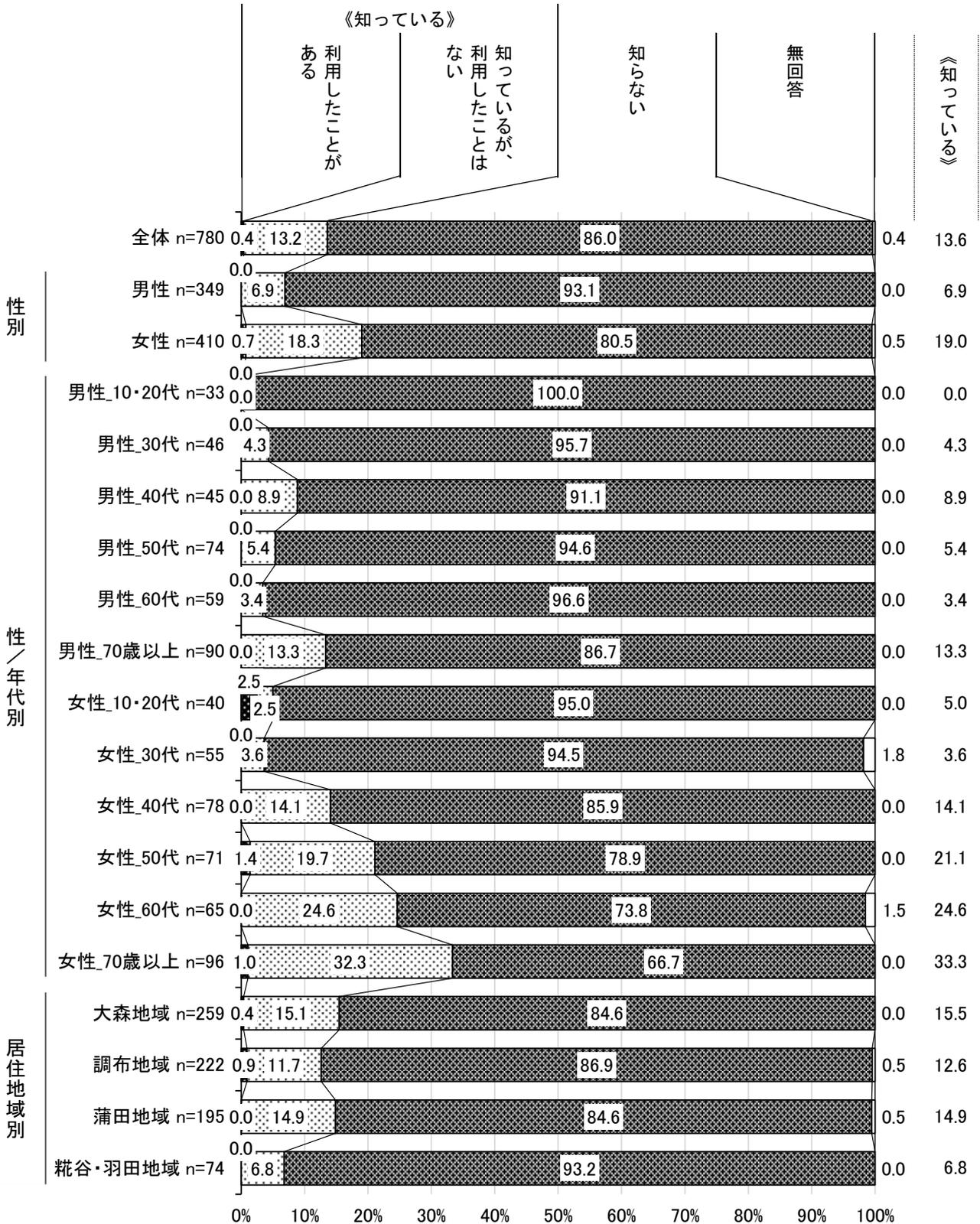


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、《知っている》は男性が6.9%、女性が19.0%と、女性が12.1ポイント上回っている。

性／年代別でみると、《知っている》は男性では70歳以上で1割前半、女性では70歳以上で3割前半と高くなっている。

居住地域別でみると、《知っている》は大森地域、調布地域、蒲田地域で1割台となっている。



(6) 「成年後見制度」の認知度

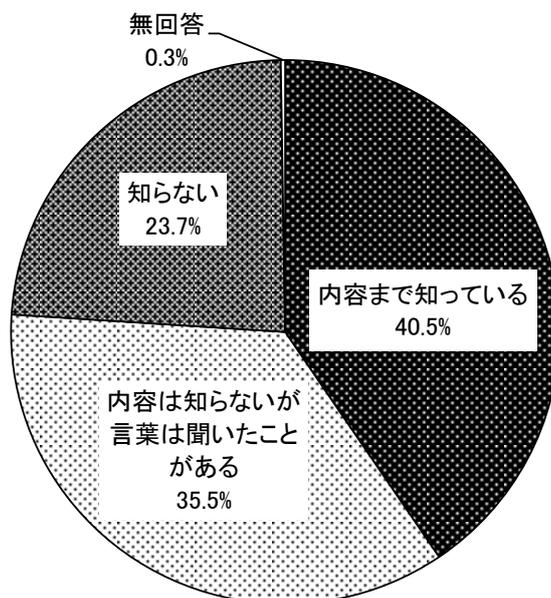
◇「内容まで知っている」は約4割となっている

問6 「成年後見制度」を知っていますか。(1つのみ)

※認知症・知的障がい・精神障がいなどによって判断能力が不十分な方の支援者を選び、
法的に支援する制度。

“成年後見制度”の認知度については、「内容まで知っている」が40.5%で最も高く、次いで「内容は知らないが言葉は聞いたことがある」が35.5%、「知らない」が23.7%となっている。

全体 n=780

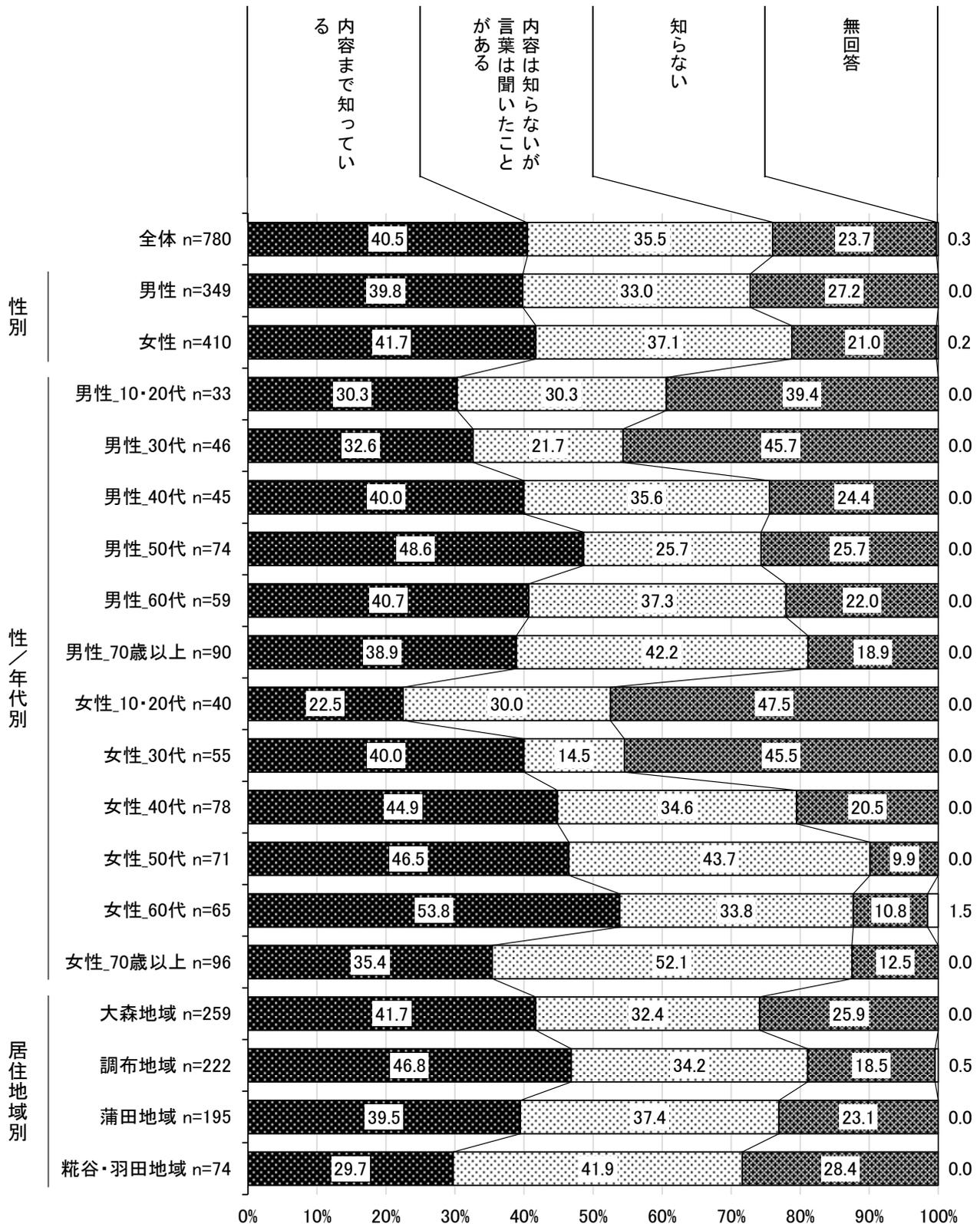


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、「内容まで知っている」は男性が39.8%、女性が41.7%と、女性が1.9ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「内容まで知っている」は男性では50代で4割後半、女性では60代で5割前半と高くなっている。

居住地域別でみると、「内容まで知っている」は調布地域で4割後半と高くなっている。



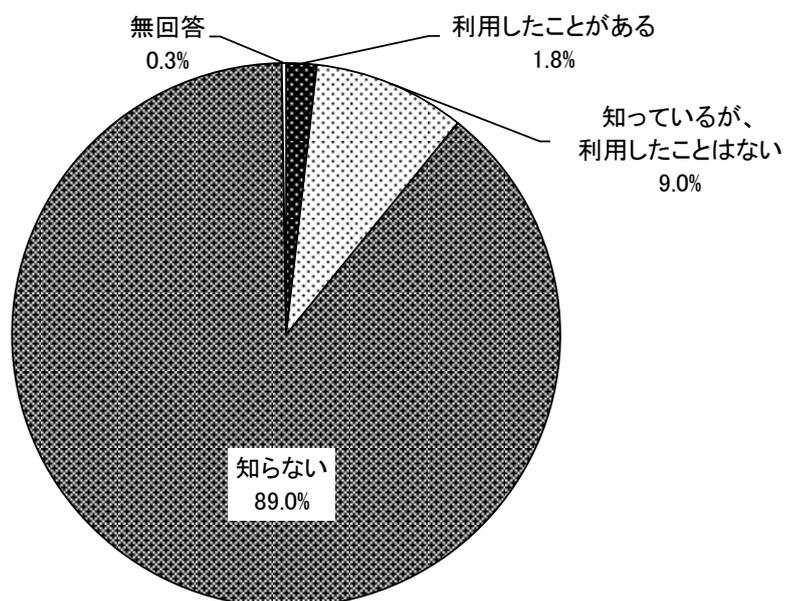
(7) 「ゆいっつ (大田区青少年交流センター)」の認知度

◇ 《知っている》(「利用したことがある」、「知っているが、利用したことはない」の合計値)は約1割となっている

問7 「ゆいっつ (大田区青少年交流センター)」を知っていますか。(1つのみ)

“ゆいっつ (大田区青少年交流センター)”の認知度については、「利用したことがある」、「知っているが、利用したことはない」の合計値《知っている》が10.8%である一方で、「知らない」が89.0%と、「知らない」が78.2ポイント上回っている。

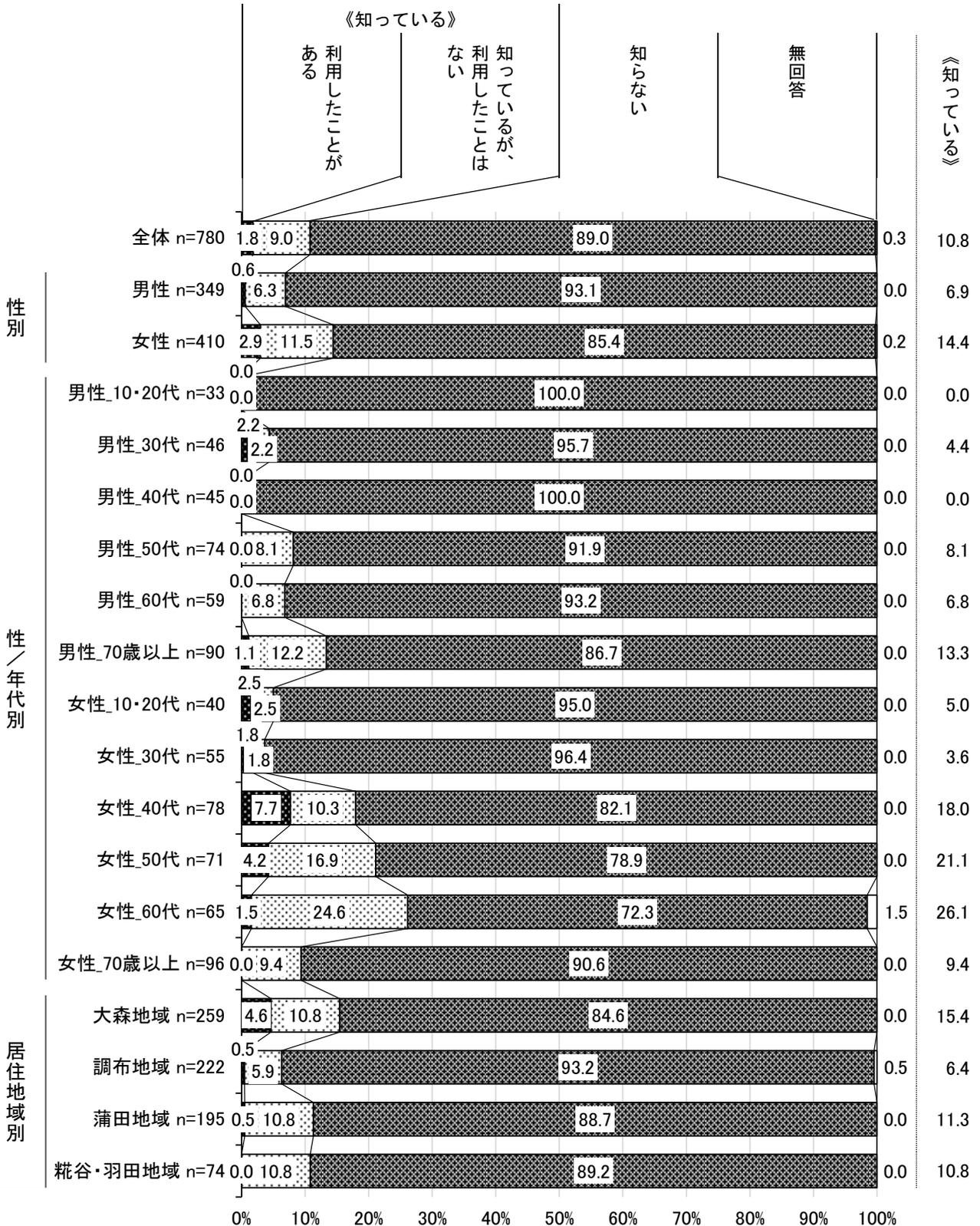
全体 n=780



■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、《知っている》は男性が6.9%、女性が14.4%と、女性が7.5ポイント上回っている。
 性／年代別でみると、《知っている》は男性では70歳以上で1割前半、女性では60代で2割後半と高くなっている。

居住地域別でみると、《知っている》は大森地域で1割半ばと高くなっている。



(8) 「ゆいつつ (大田区青少年交流センター)」で利用したい施設

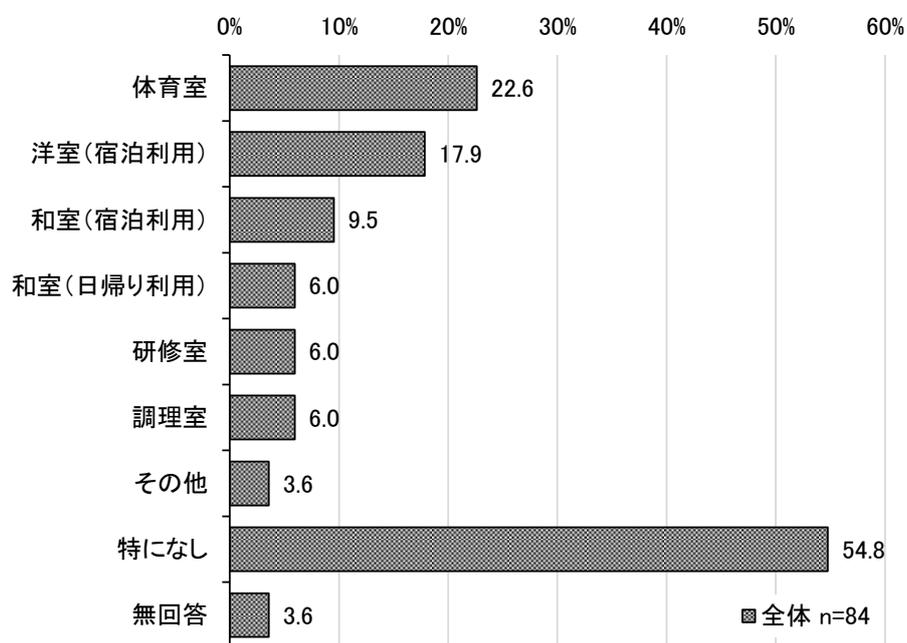
◇「体育室」が2割前半で最も高くなっている

【問7で「利用したことがある」「知っているが、利用したことはない」と回答した方に伺います。】

問7-1 今後、「ゆいつつ (大田区青少年交流センター)」で利用したい施設はありますか。
(いくつでも)

ゆいつつ (大田区青少年交流センター) で利用したい施設については、「体育室」が22.6%で最も高く、次いで「洋室 (宿泊利用)」が17.9%、「和室 (宿泊利用)」が9.5%となっている。

なお、「特になし」は54.8%となっている。

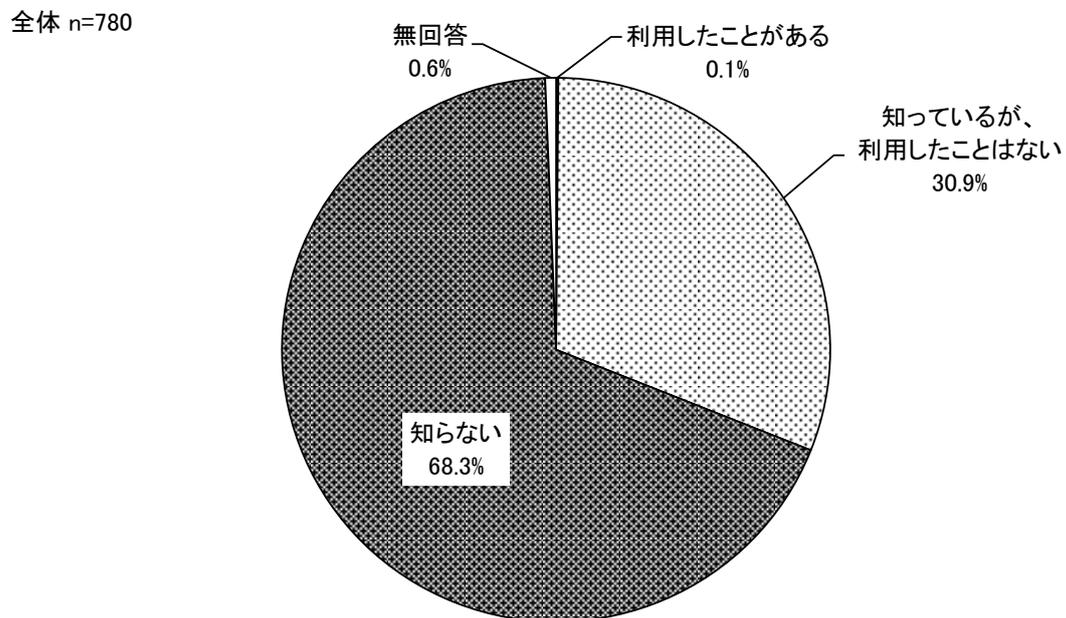


(9) 「大田区DV相談ダイヤル」の認知度

◇ 《知っている》（「利用したことがある」、「知っているが、利用したことはない」の合計値）は約3割となっている

問8 区では、「大田区DV相談ダイヤル」を設置し、配偶者やパートナーからの暴力（ドメスティック・バイオレンス＝DV）に関する相談を受け付けていることを知っていますか。
（1つのみ）

“大田区DV相談ダイヤル”の認知度については、「利用したことがある」、「知っているが、利用したことはない」の合計値《知っている》が31.0%である一方で、「知らない」が68.3%と、「知らない」が37.3ポイント上回っている。

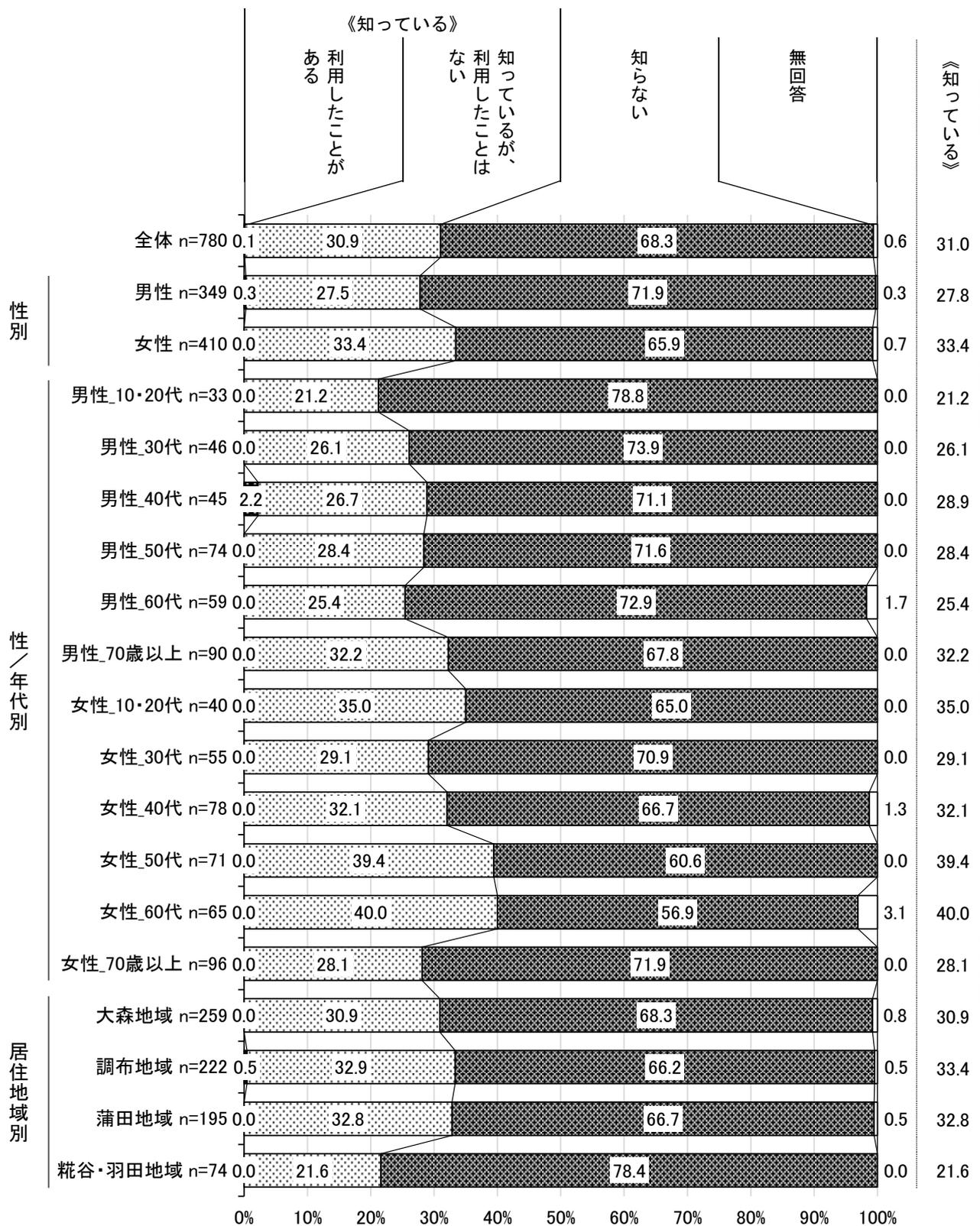


■性別・性/年代別・居住地域別

性別でみると、《知っている》は男性が27.8%、女性が33.4%と、女性が5.6ポイント上回っている。

性/年代別でみると、《知っている》は男性では70歳以上で3割前半、女性では50代、60代で約4割と高くなっている。

居住地域別でみると、《知っている》は大森地域、調布地域、蒲田地域で3割台となっている。



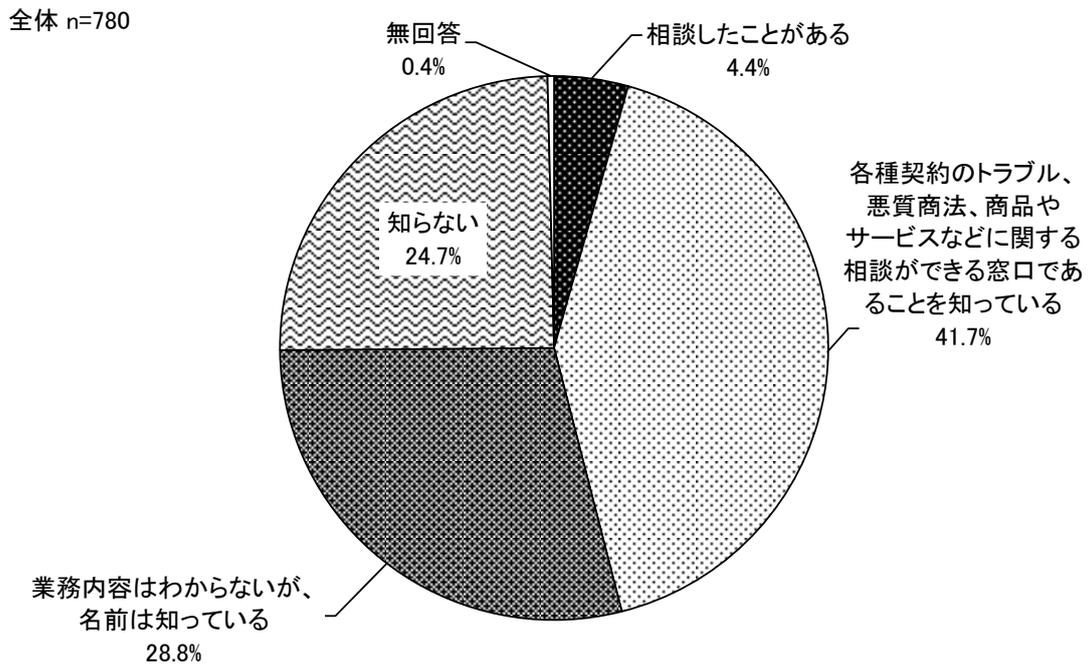
(10) 「大田区立消費者生活センター」の認知度

◇「相談したことがある」は1割未満となっている

問9 「大田区立消費者生活センター」を知っていますか。(1つのみ)

“大田区立消費者生活センター”の認知度については、「各種契約のトラブル、悪質商法、商品やサービスなどに関する相談ができる窓口であることを知っている」が41.7%で最も高く、次いで「業務内容はわからないが、名前は知っている」が28.8%、「知らない」が24.7%となっている。

なお、「相談したことがある」は4.4%となっている。

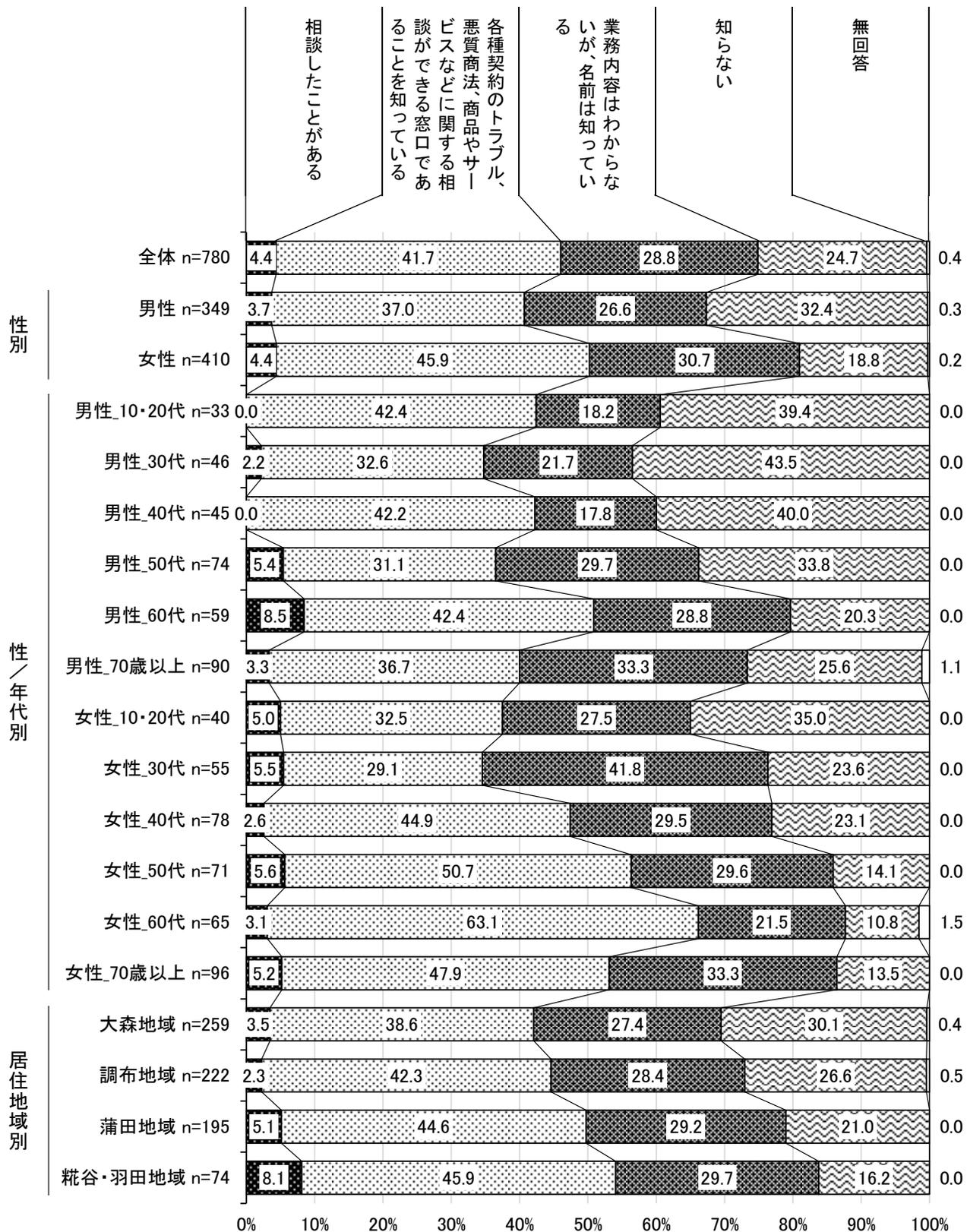


■性別・性/年代別・居住地域別

性別でみると、「相談したことがある」に大きな差はみられないものの、「知らない」では男性が32.4%、女性が18.8%と、男性が13.6ポイント上回っている。

性/年代別でみると、「相談したことがある」は男性60代で1割弱と高くなっている。

居住地域別でみると、「相談したことがある」は糞谷・羽田地域で1割弱と高くなっている。



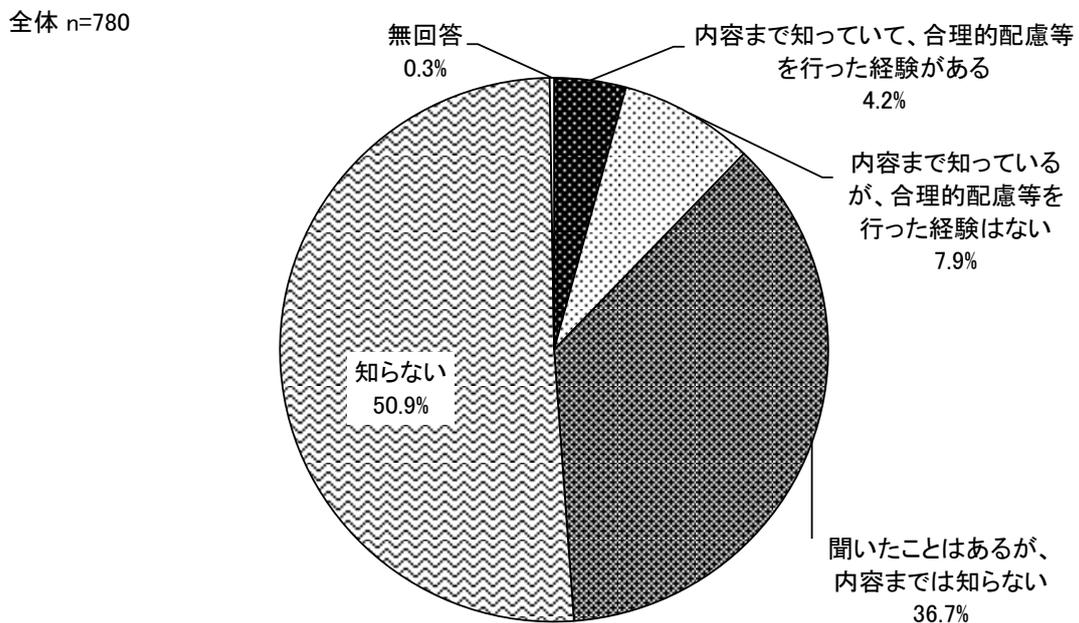
(11) 「障害者差別解消法」の認知度

◇「内容まで知っていて、合理的配慮等を行った経験がある」は1割未満となっている

問 10 障がいのある人もない人も、お互いに、その人らしさを認め合いながらともに生きる社会づくりを目指して、平成28年4月に、いわゆる「障害者差別解消法」が施行されました。この法律を知っていますか。(1つのみ)

“障害者差別解消法”の認知度については、「知らない」が50.9%で最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容までは知らない」が36.7%、「内容まで知っているが、合理的配慮等を行った経験はない」が7.9%となっている。

なお、「内容まで知っていて、合理的配慮等を行った経験がある」は4.2%となっている。

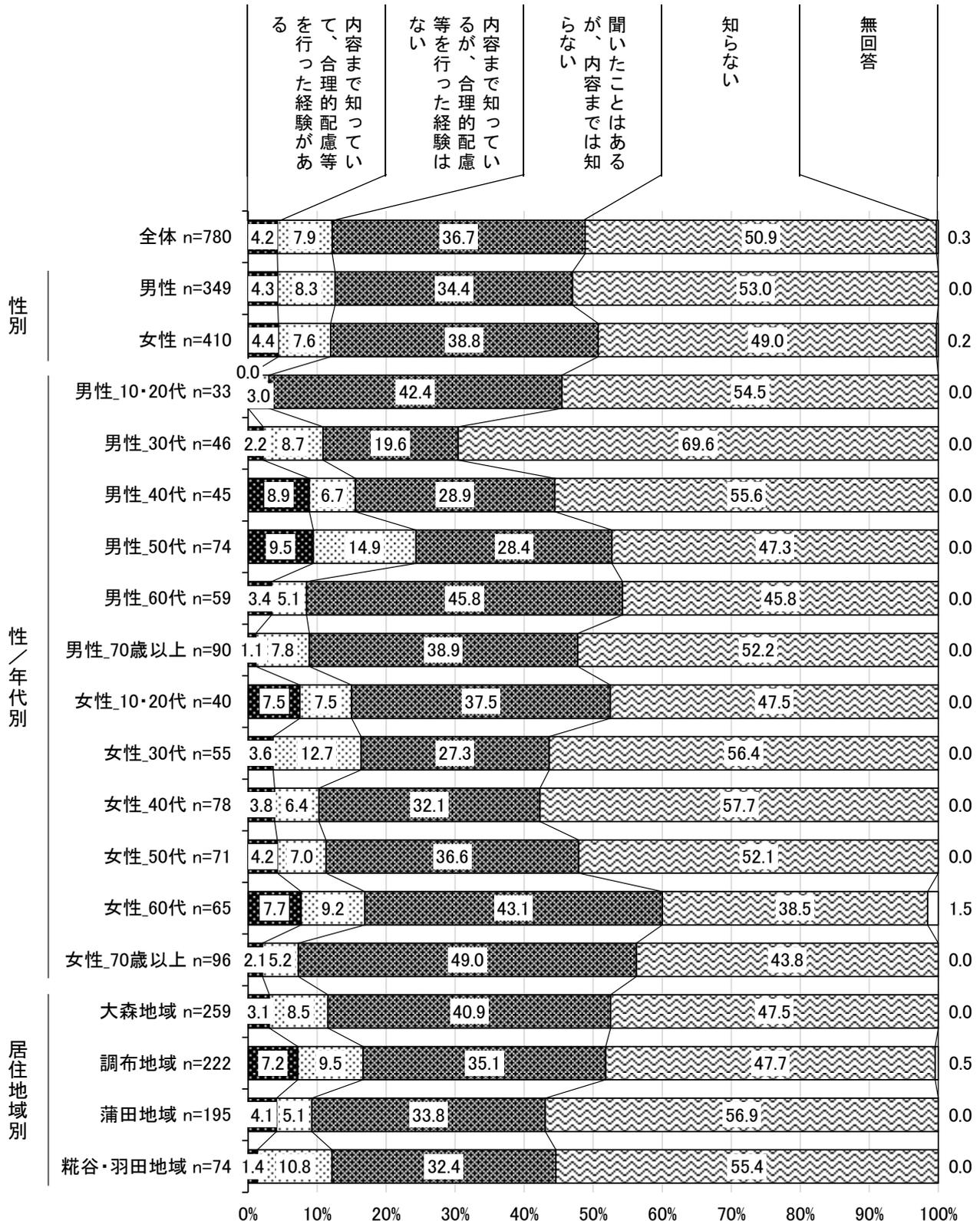


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、大きな差はみられない。

性／年代別でみると、「内容まで知っていて、合理的配慮等を行った経験がある」は男性では40代、50代で約1割、女性では10・20代、60代で1割弱と高くなっている。

居住地域別でみると、「内容まで知っていて、合理的配慮等を行った経験がある」は調布地域で1割弱と高くなっている。



(12) 「社会的包摂」の認知度

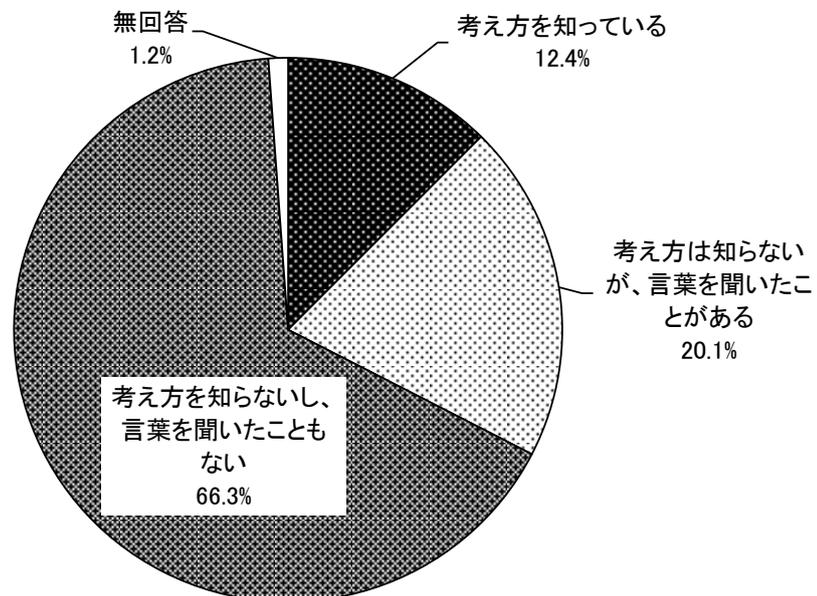
◇「考え方を知っている」は1割前半となっている

問 11 大田区では、子どもたちを誰一人取り残さないよう、子どもや保護者が抱える問題を地域共通の課題として捉え、地域においてすべての子どもを温かく包み込む支援「社会的包摂」の考えを広めています。

「社会的包摂」という考え方を知っていますか。(1つのみ)

“社会的包摂”の認知度については、「考え方を知らないし、言葉を聞いたこともない」が66.3%で最も高く、次いで「考え方は知らないが、言葉を聞いたことがある」が20.1%、「考え方を知っている」が12.4%となっている。

全体 n=780

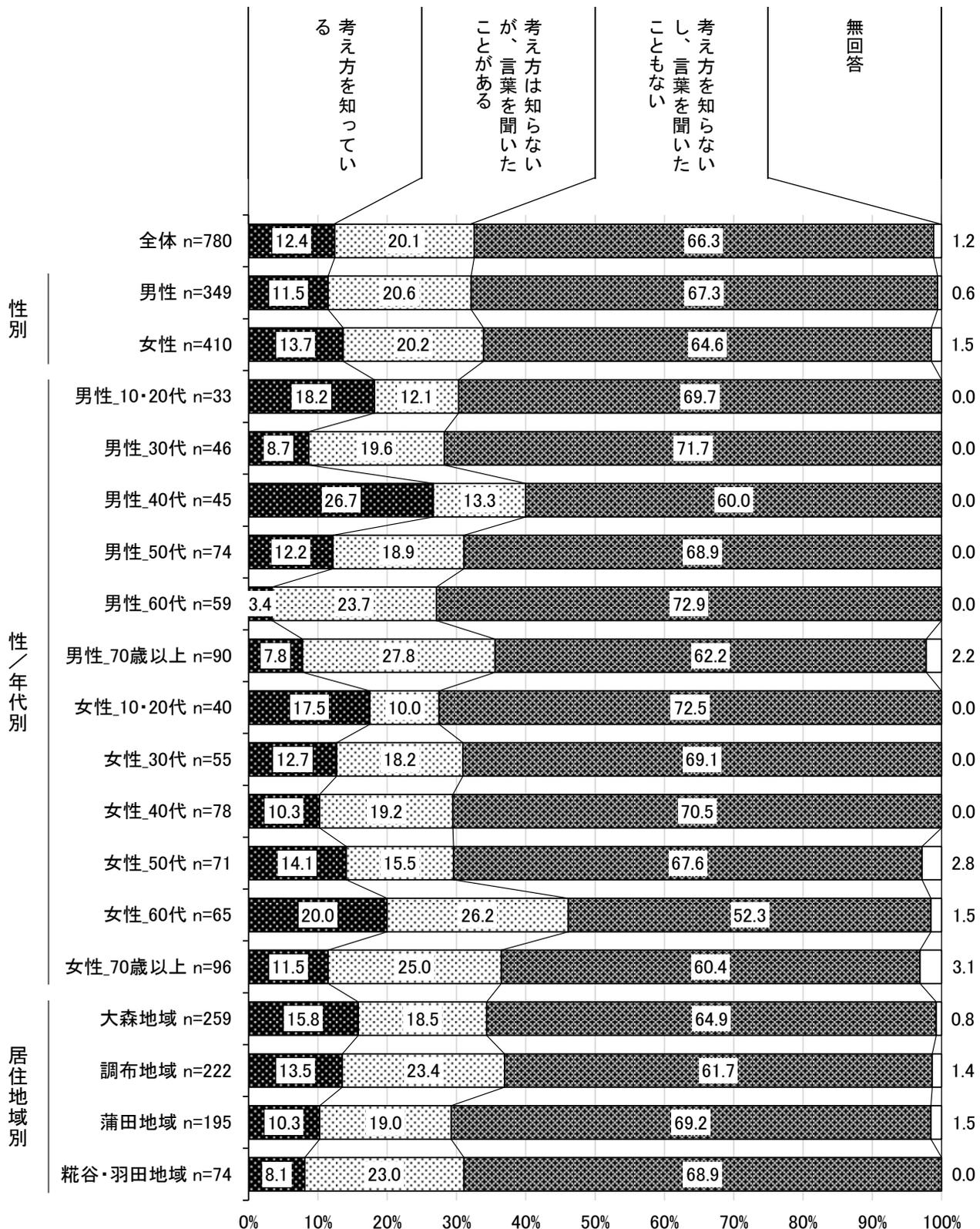


■性別・性/年代別・居住地域別

性別でみると、大きな差はみられない。

性/年代別でみると、「考え方を知っている」は男性では40代で2割後半、女性では60代で2割と高くなっている。

居住地域別でみると、「考え方を知っている」は大森地域で1割半ばと高くなっている。



3 生涯学習について

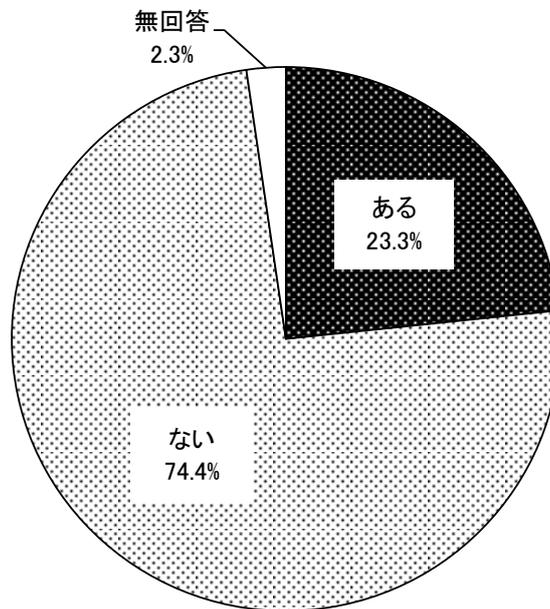
(1) 最近1年間の生涯学習の有無

◇「ある」は2割前半となっている

問 12 あなたは、最近1年間に生涯学習を行ったことがありますか。(1つのみ)

最近1年間の生涯学習の有無については、「ある」が23.3%、「ない」が74.4%と、「ない」が51.1ポイント上回っている。

全体 n=780

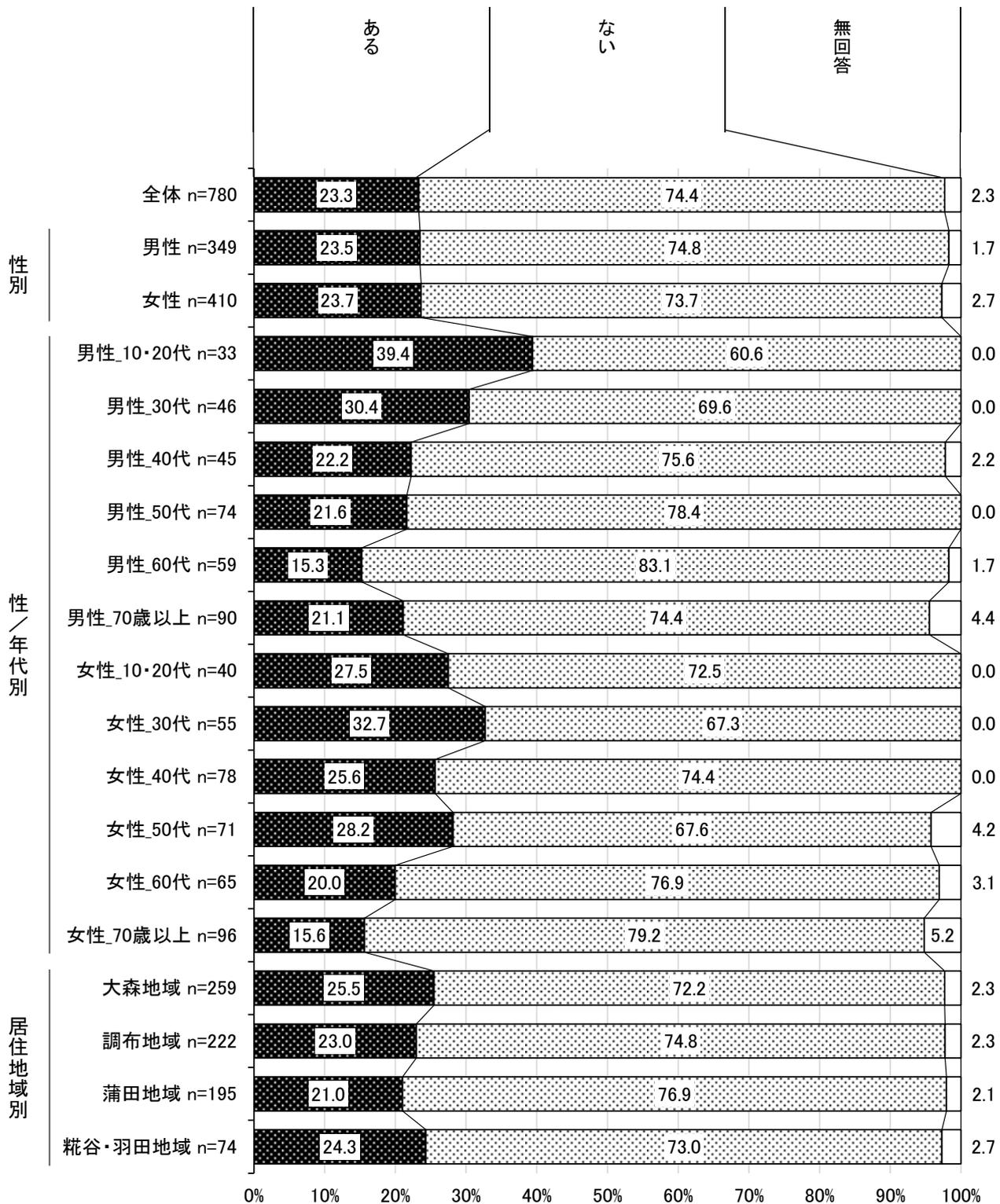


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、大きな差はみられない。

性／年代別でみると、「ある」は男性では10・20代で約4割、女性では30代で3割前半と高くなっている。

居住地域別でみると、「ある」は大森地域、糶谷・羽田地域で2割半ばと高くなっている。



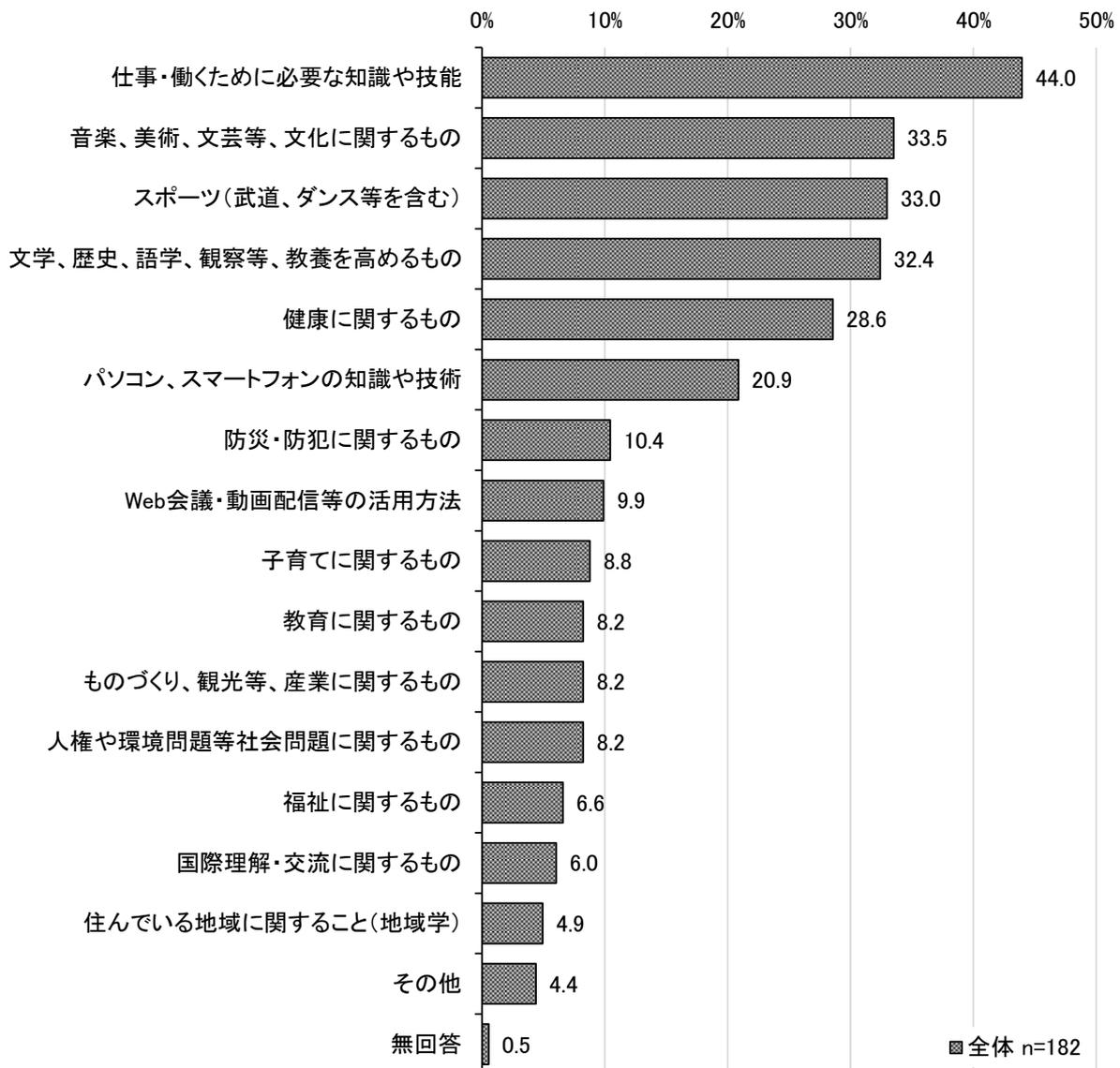
(2) 最近1年間で行った生涯学習

◇「仕事・働くために必要な知識や技能」が4割前半で最も高くなっている

【問12で「ある」と回答した方に伺います。】

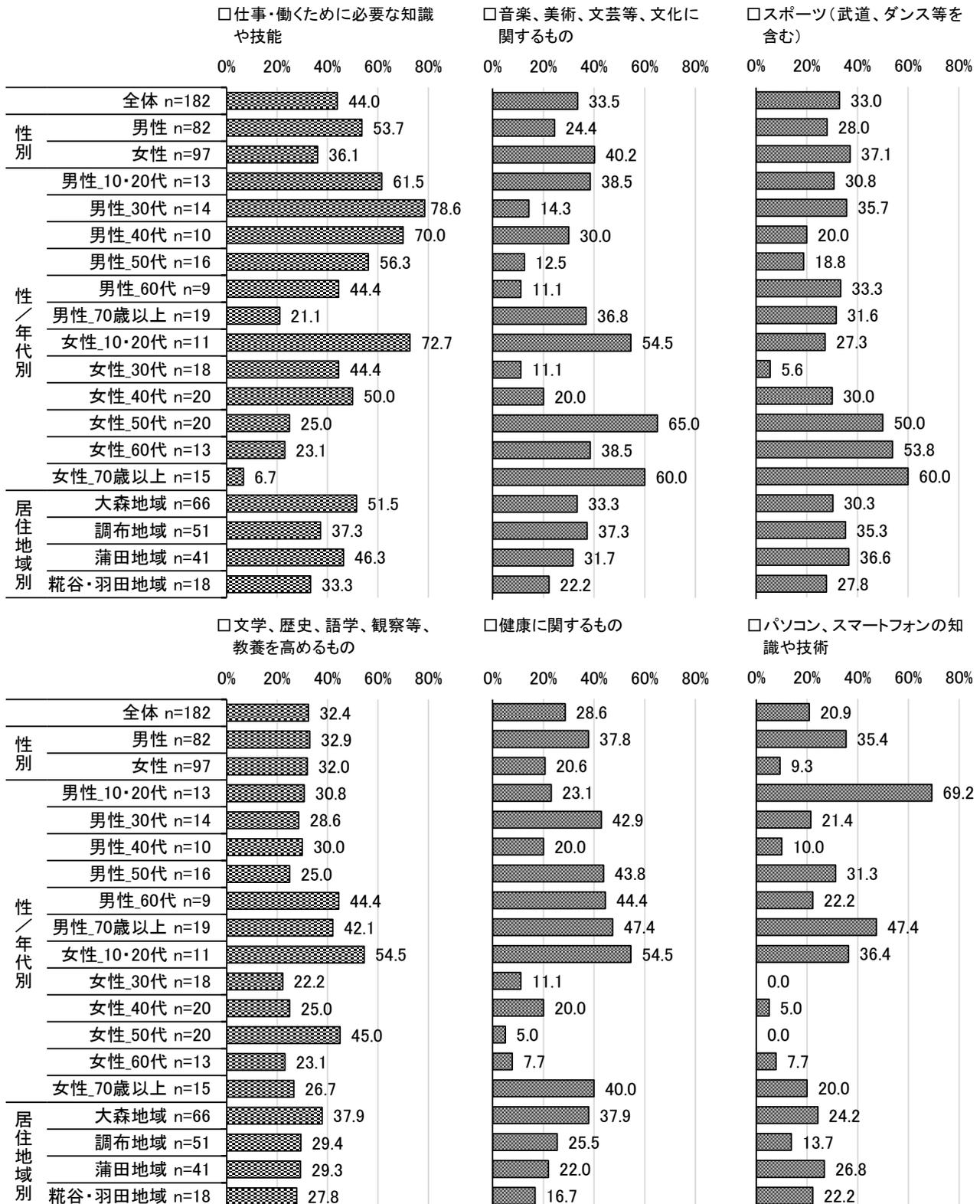
問12-1 あなたは、最近1年間にどのような生涯学習を行いましたか。(いくつでも)

最近1年間で行った生涯学習については、「仕事・働くために必要な知識や技能」が44.0%で最も高く、次いで「音楽、美術、文芸等、文化に関するもの」が33.5%、「スポーツ（武道、ダンス等を含む）」が33.0%となっている。



■性別・性／年代別・居住地域別（上位6項目）

性別でみると、男性では「仕事・働くために必要な知識や技能」が最も高く、女性では「音楽、美術、文芸等、文化に関するもの」が最も高くなっている。「仕事・働くために必要な知識や技能」は男性が53.7%、女性が36.1%と、男性が17.6ポイント上回っている。



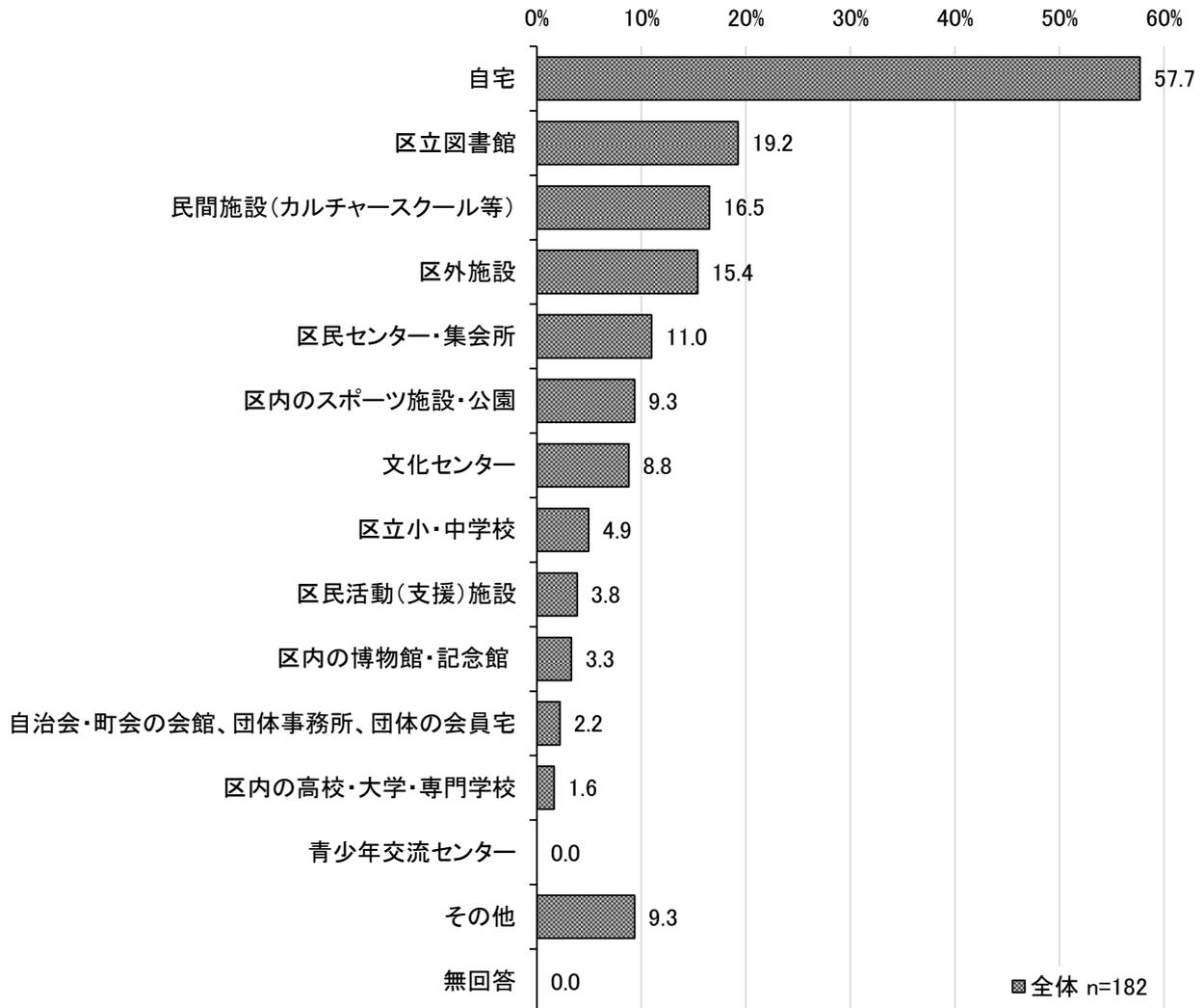
(3) 生涯学習の活動場所

◇「自宅」が5割後半で最も高くなっている

【問12で「ある」と回答した方に伺います。】

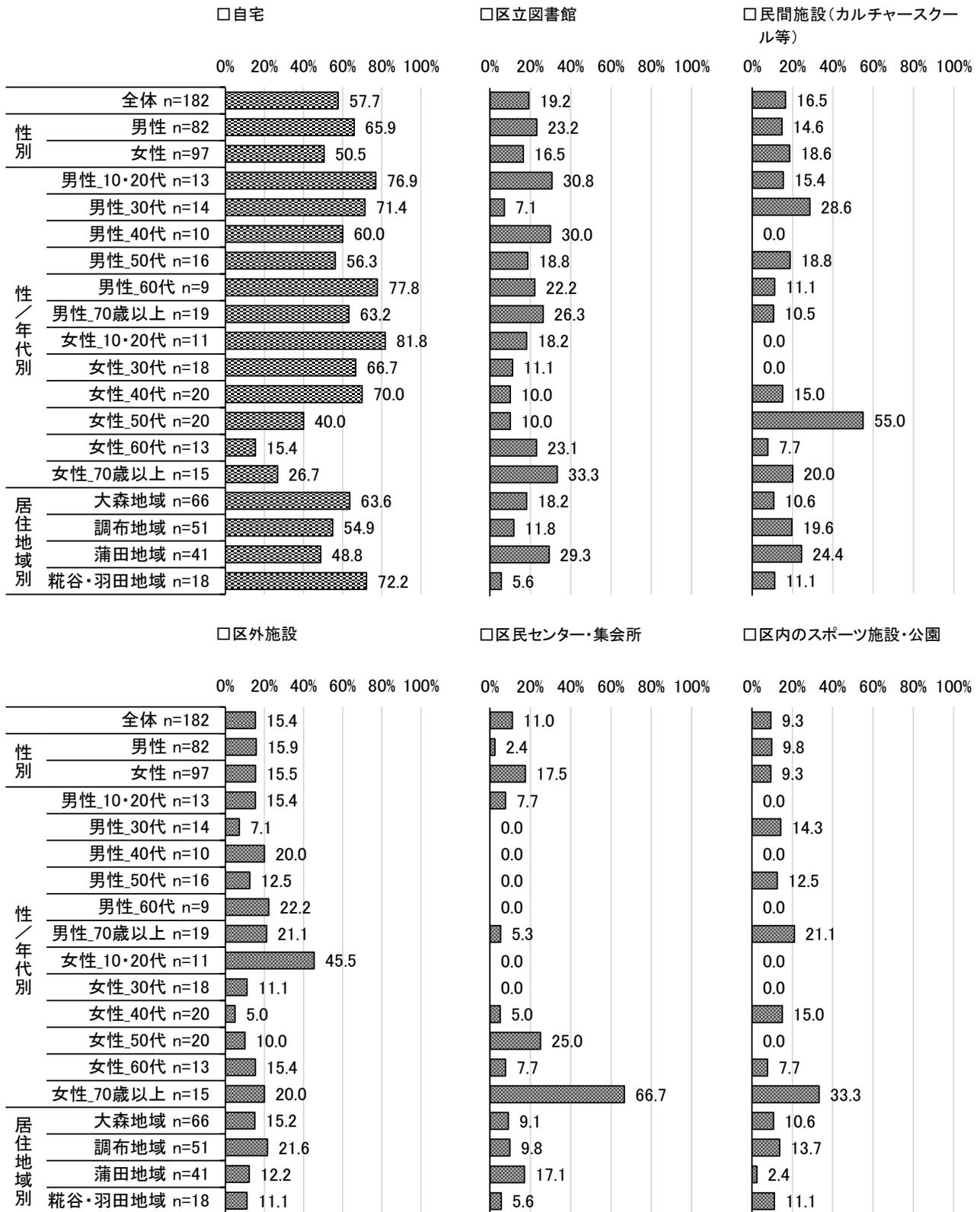
問12-2 あなたが生涯学習を行っている場所はどこですか。(いくつでも)

生涯学習の活動場所については、「自宅」が57.7%で最も高く、次いで「区立図書館」が19.2%、「民間施設(カルチャースクール等)」が16.5%となっている。



■性別・性／年代別・居住地域別（上位6項目）

性別で見ると、「自宅」は男性が65.9%、女性が50.5%と、男性が15.4ポイント上回っている。



(4) オンラインによる生涯学習の有無

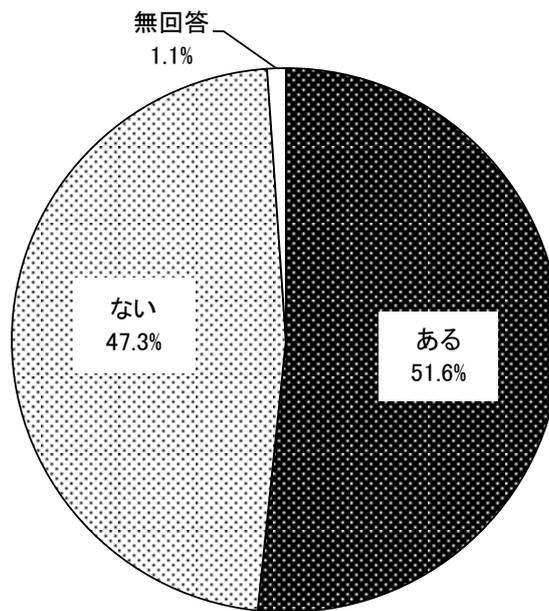
◇「ある」は5割前半となっている

【問 12 で「ある」と回答した方に伺います。】

問 12-3 あなたは、オンラインで生涯学習を行ったことがありますか。(1つのみ)

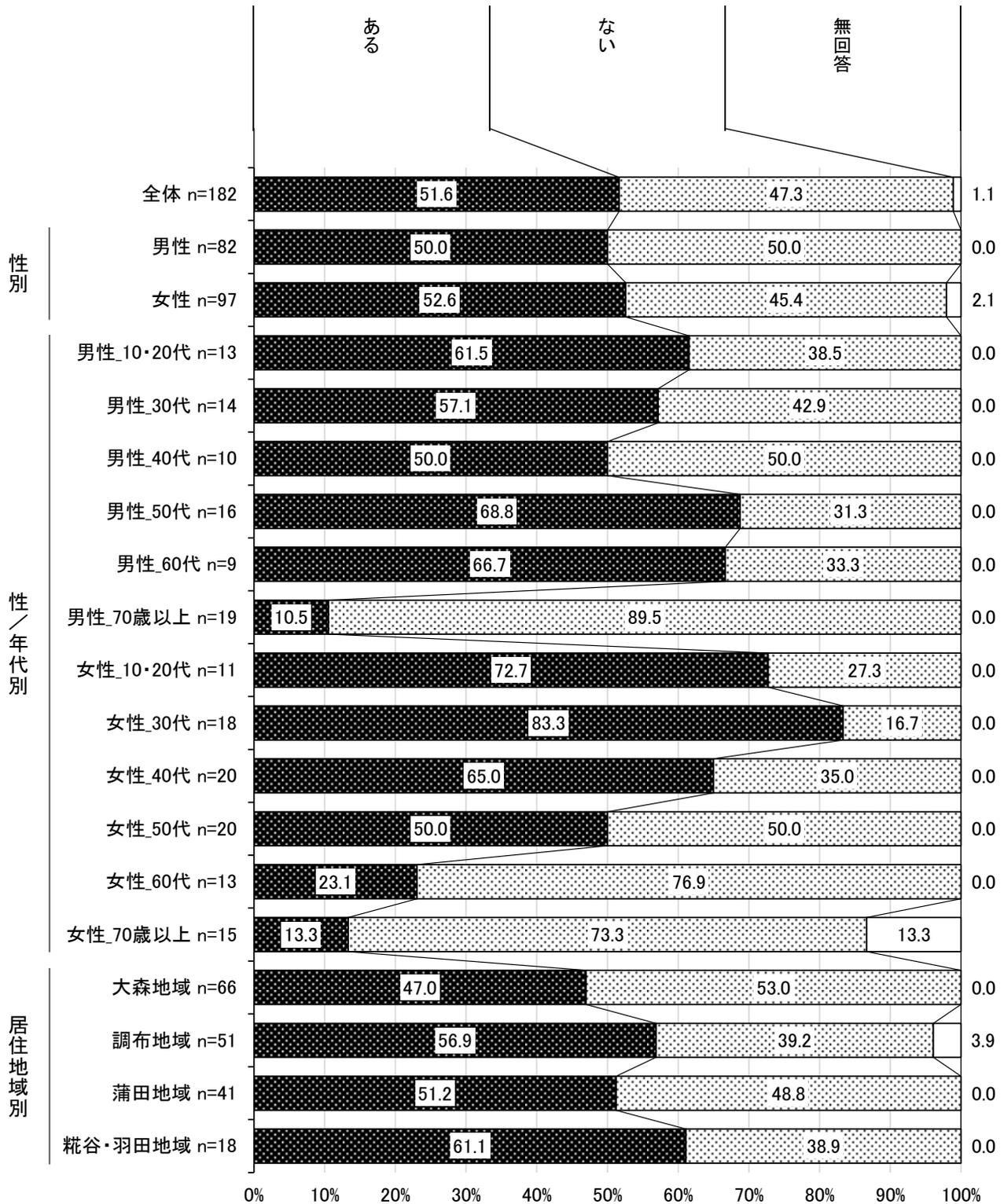
オンラインによる生涯学習の有無については、「ある」が51.6%、「ない」が47.3%と、「ある」が4.3ポイント上回っている。

全体 n=182



■性別・性/年代別・居住地域別

性別でみると、「ある」に大きな差はみられないものの、「ない」では男性が50.0%、女性が45.4%と、男性が4.6ポイント上回っている。



(5) 生涯学習で身に付けた知識・技能・経験を活かしていること

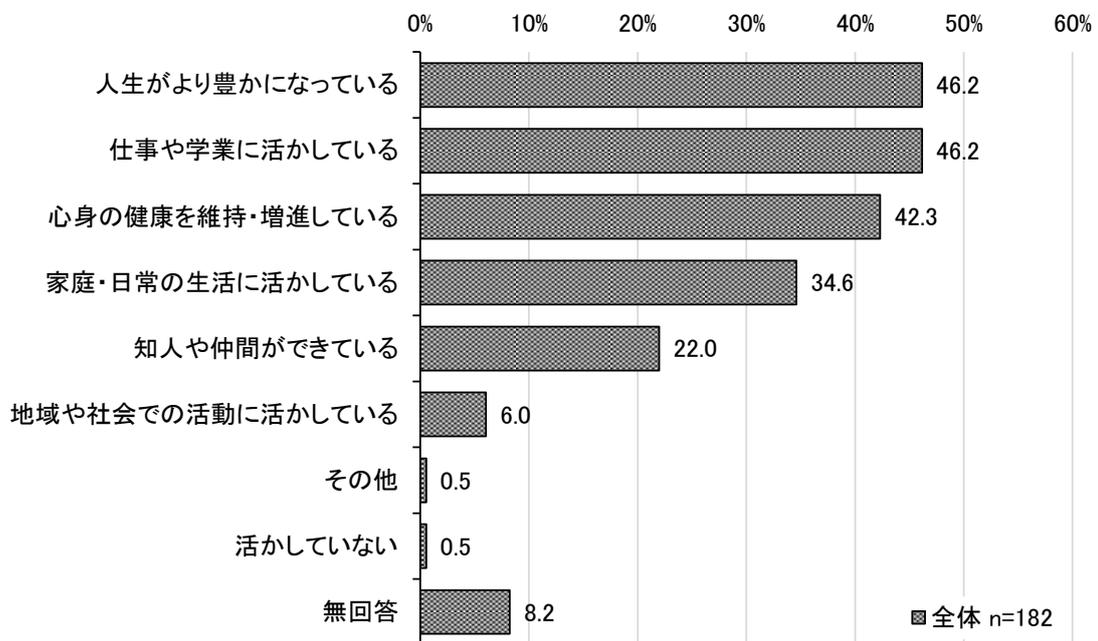
◇「人生がより豊かになっている」、「仕事や学業に活かしている」が4割後半で最も高くなっている

【問 12 で「ある」と回答した方に伺います。】

問 12-4 あなたは、生涯学習を通じて身に付けた知識・技能・経験をどのように活かしていますか。(いくつでも)

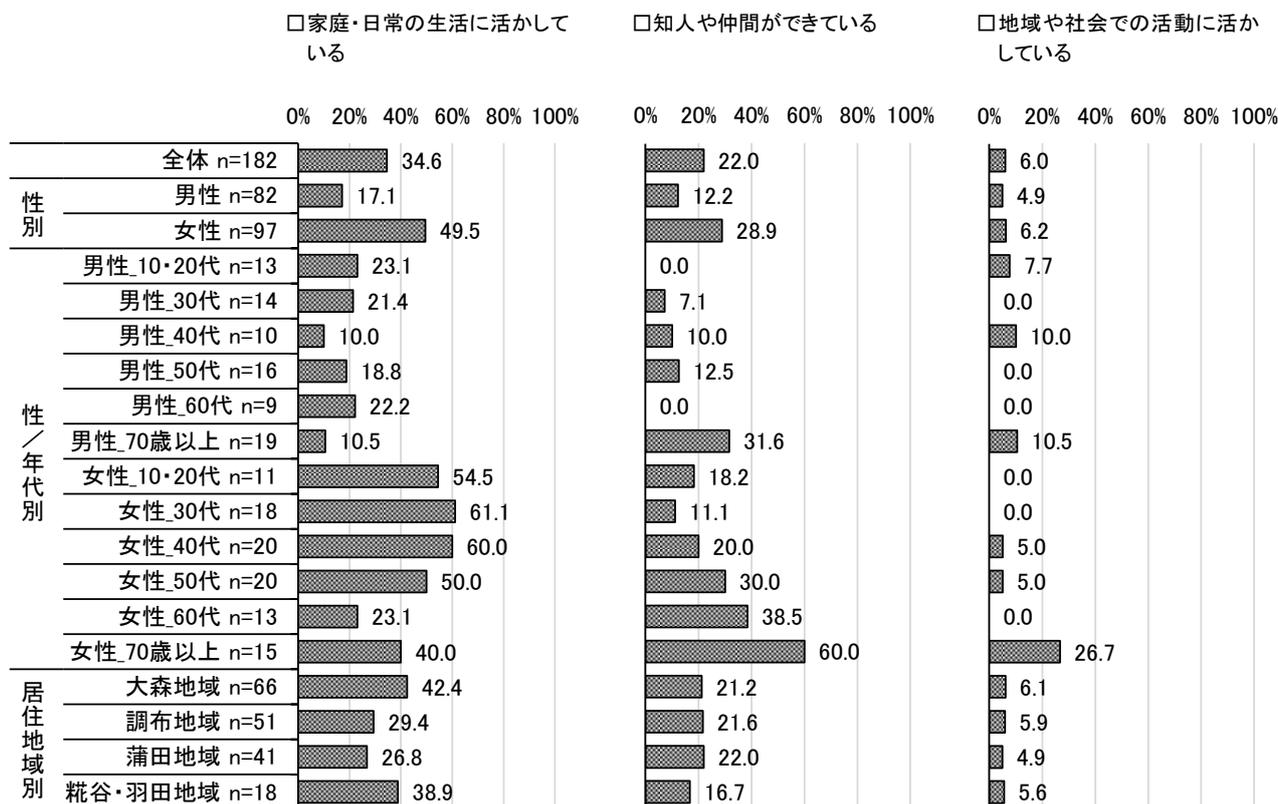
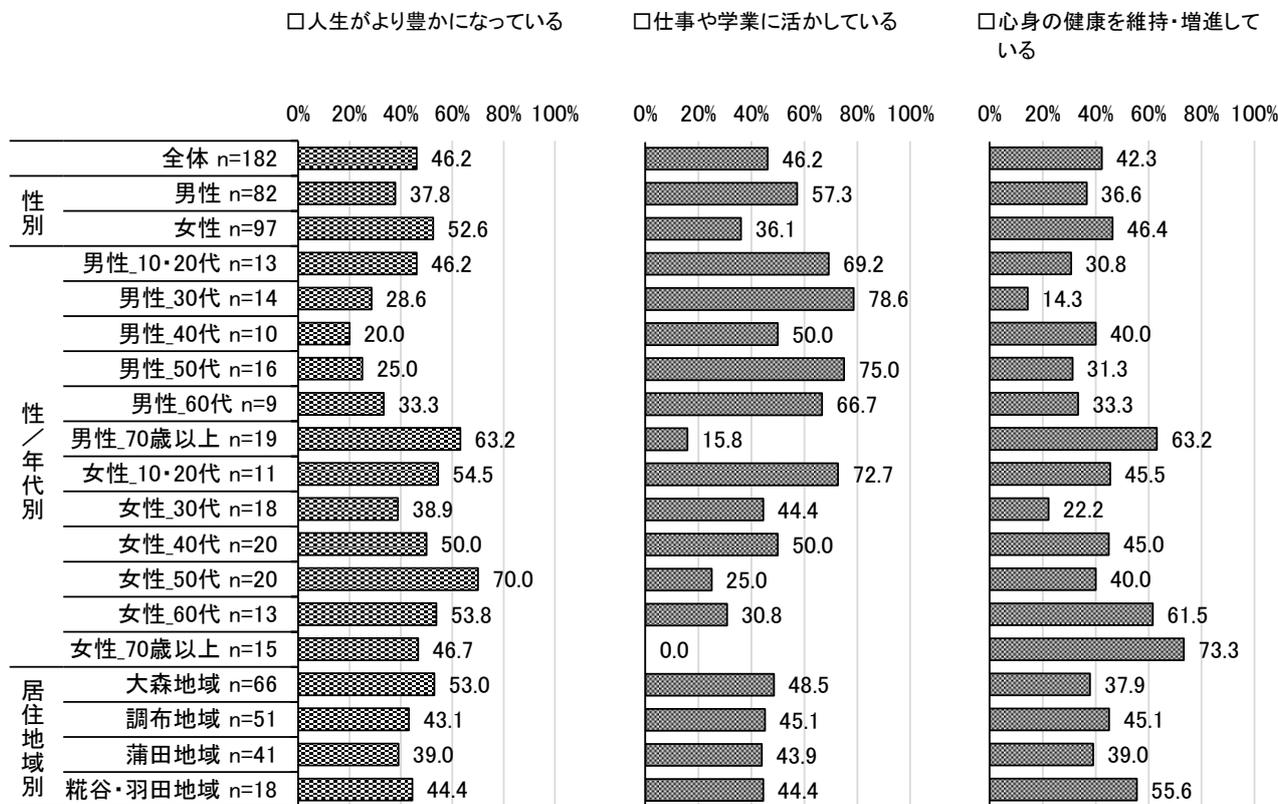
生涯学習で身に付けた知識・技能・経験を活かしていることについては、「人生がより豊かになっている」、「仕事や学業に活かしている」がともに 46.2%で最も高く、次いで「心身の健康を維持・増進している」が 42.3%、「家庭・日常の生活に活かしている」が 34.6%となっている。

なお、「活かしていない」は 0.5%となっている。



■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、男性では「仕事や学業に活かしている」が最も高く、女性では「人生がより豊かになっている」が最も高くなっている。「人生がより豊かになっている」は男性が37.8%、女性が52.6%と、女性が14.8ポイント上回っている。「仕事や学業に活かしている」は男性が57.3%、女性が36.1%と、男性が21.2ポイント上回っている。



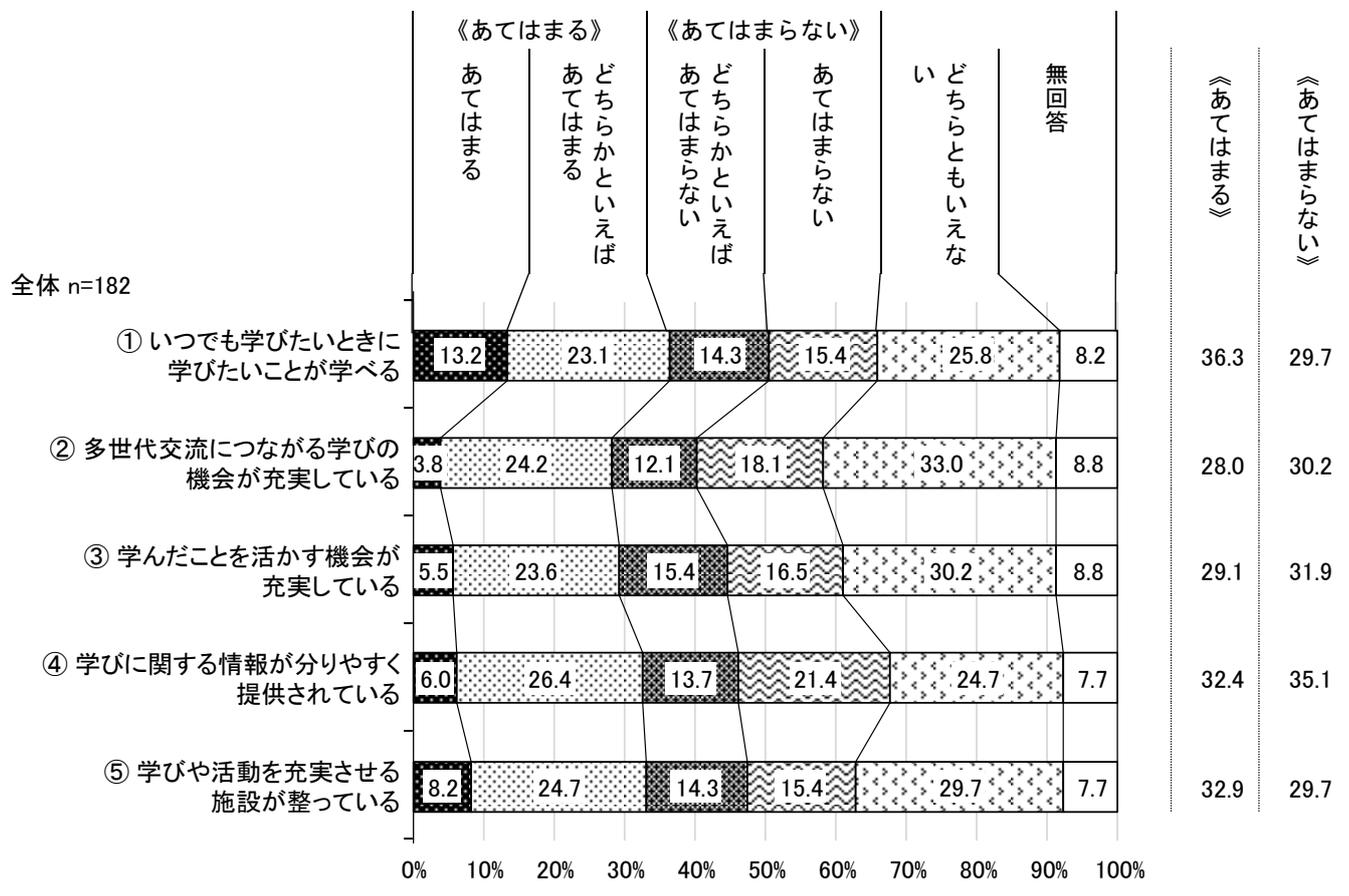
(6) 生涯学習の状況

◇ 《あてはまる》(「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」の合計値)は『①いつでも学びたいときに学びたいことが学べる』が3割後半で最も高くなっている

【問 12 で「ある」と回答した方に伺います。】

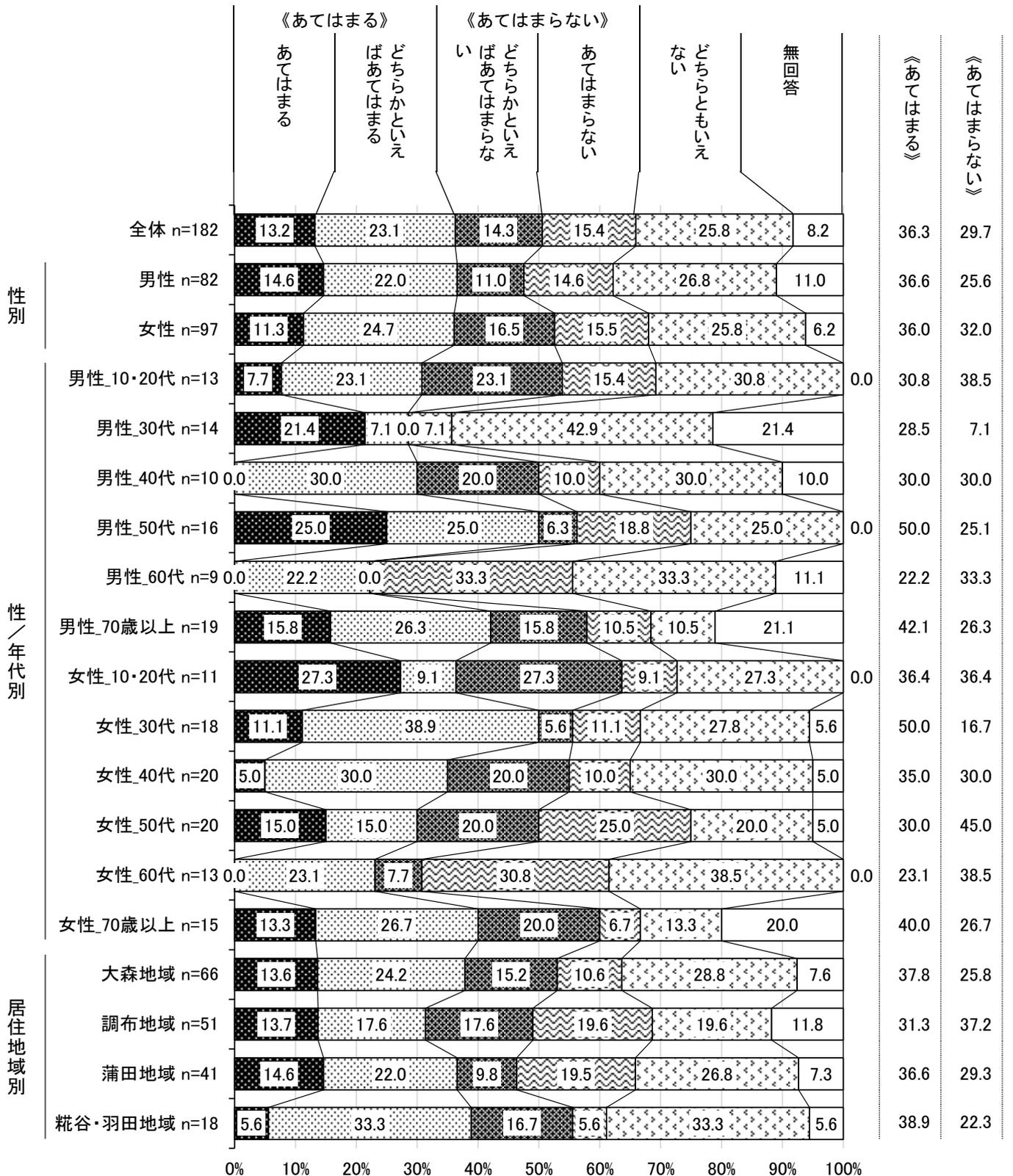
問 12-5 現在の大田区の生涯学習について、以下の項目はどの程度あてはまりますか。あなたのお気持ちに最も近いものをお選びください。
 ※「1」～「5」のそれぞれに回答してください。(それぞれ1つのみ)

生涯学習の状況については、「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」の合計値《あてはまる》は『①いつでも学びたいときに学びたいことが学べる』が 36.3%で最も高く、次いで『⑤学びや活動を充実させる施設が整っている』が 32.9%、『④学びに関する情報が分りやすく提供されている』が 32.4%となっている。



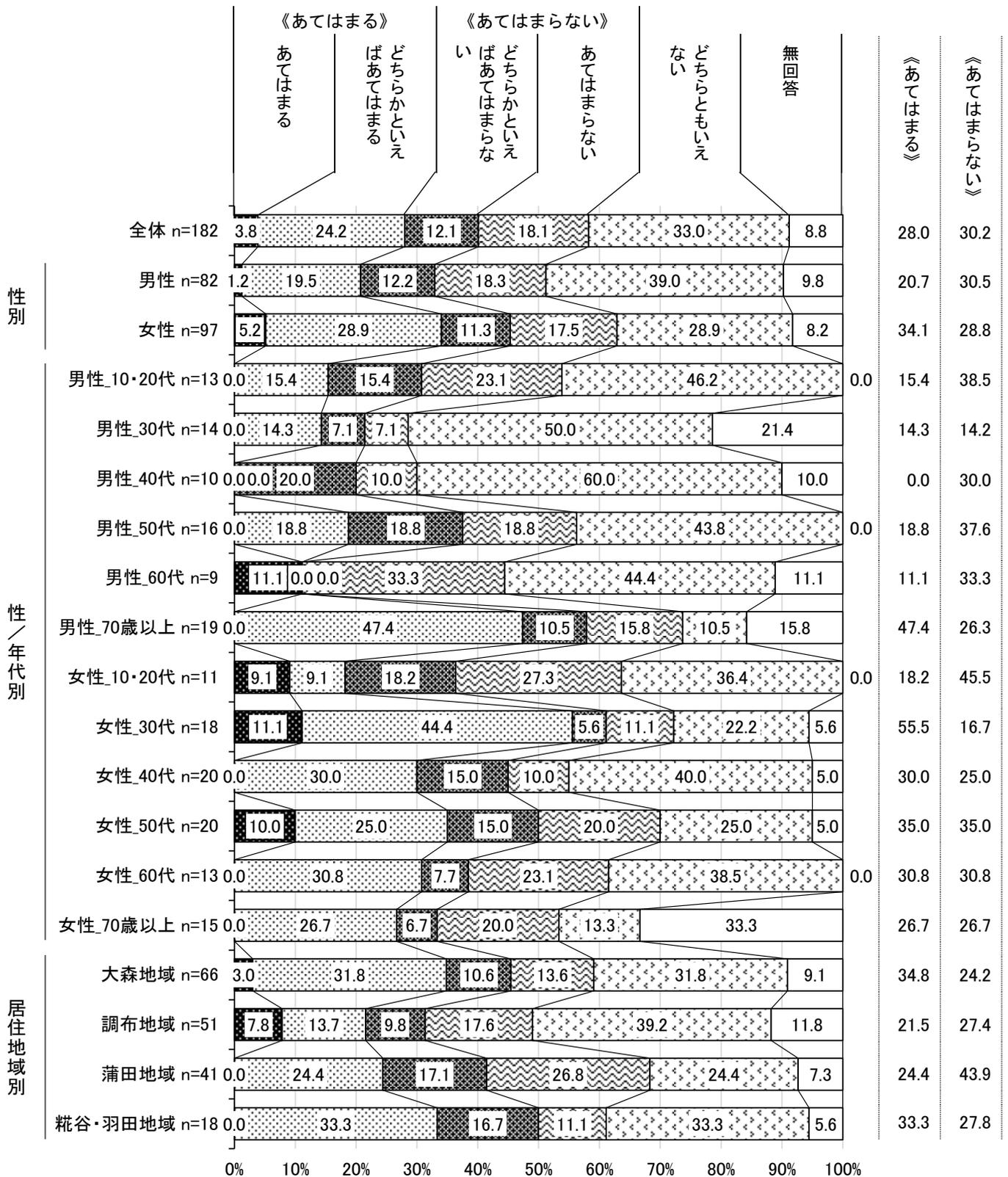
■性別・性/年代別・居住地域別_①いつでも学びたいときに学びたいことが学べる

性別でみると、《あてはまる》に大きな差はみられないものの、《あてはまらない》では男性が25.6%、女性が32.0%と、女性が6.4ポイント上回っている。



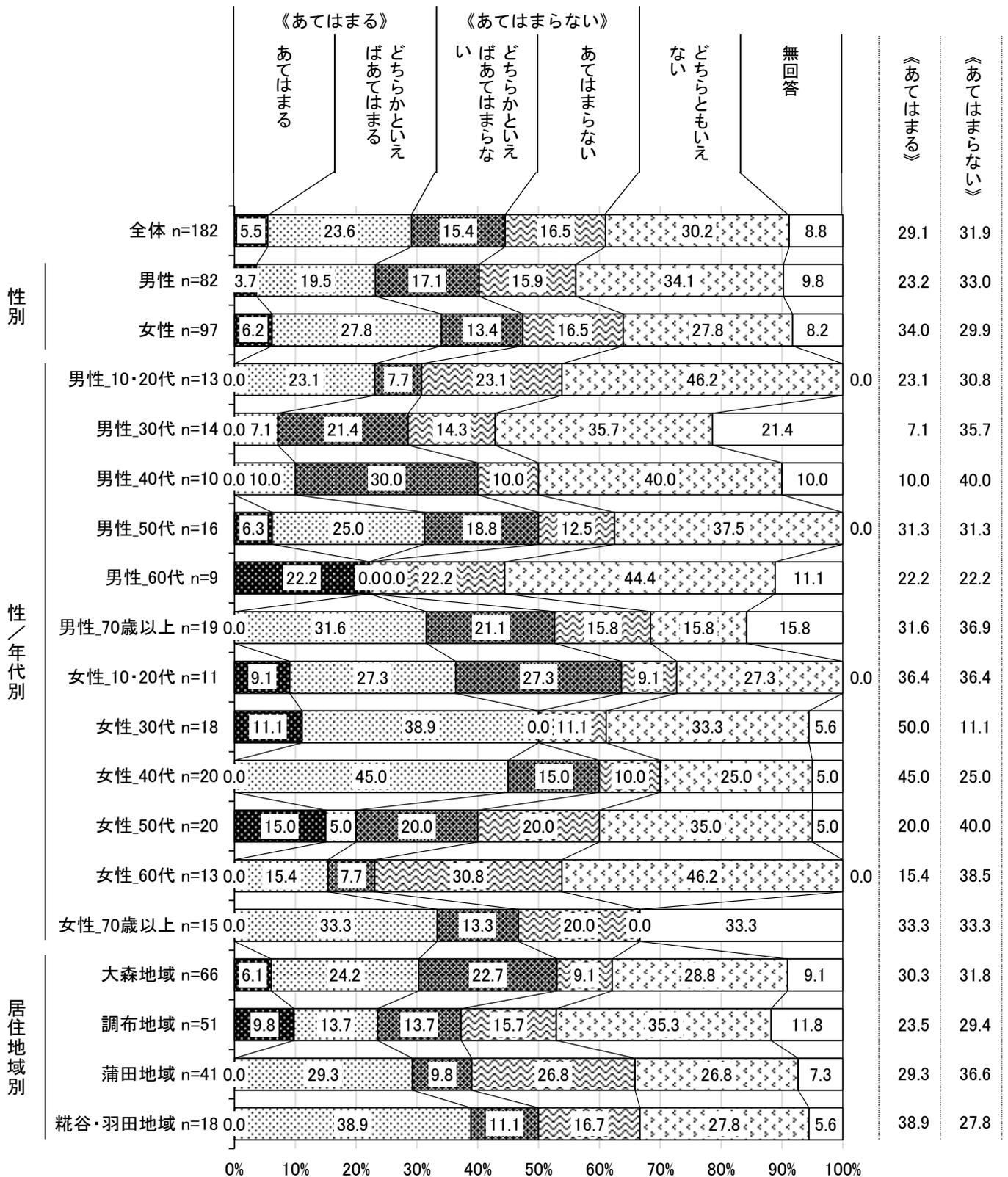
■性別・性／年代別・居住地域別_②多世代交流につながる学びの機会が充実している

性別でみると、《あてはまる》は男性が20.7%、女性が34.1%と、女性が13.4ポイント上回っている。



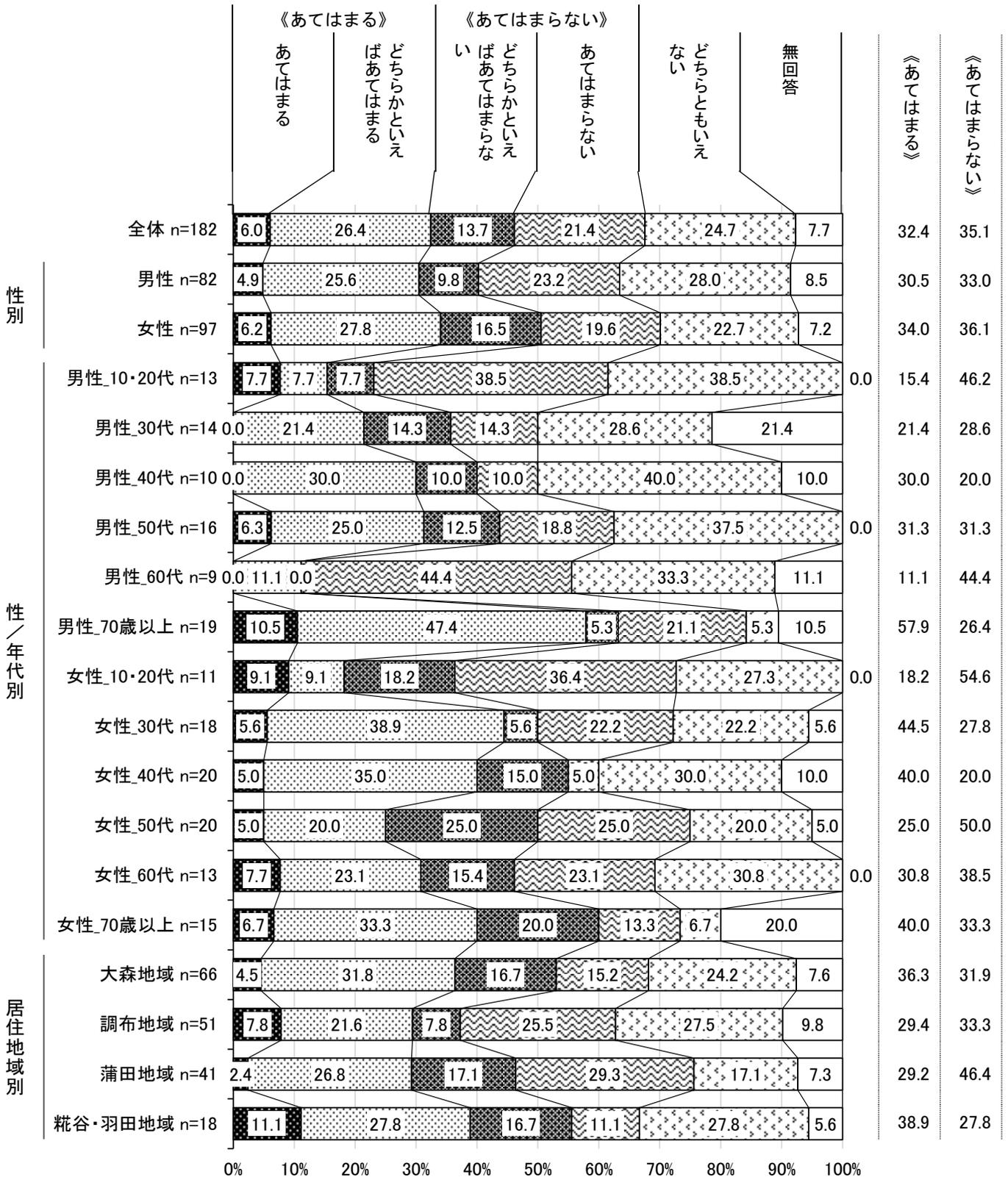
■性別・性／年代別・居住地域別_③学んだことを活かす機会が充実している

性別でみると、《あてはまる》は男性が23.2%、女性が34.0%と、女性が10.8ポイント上回っている。



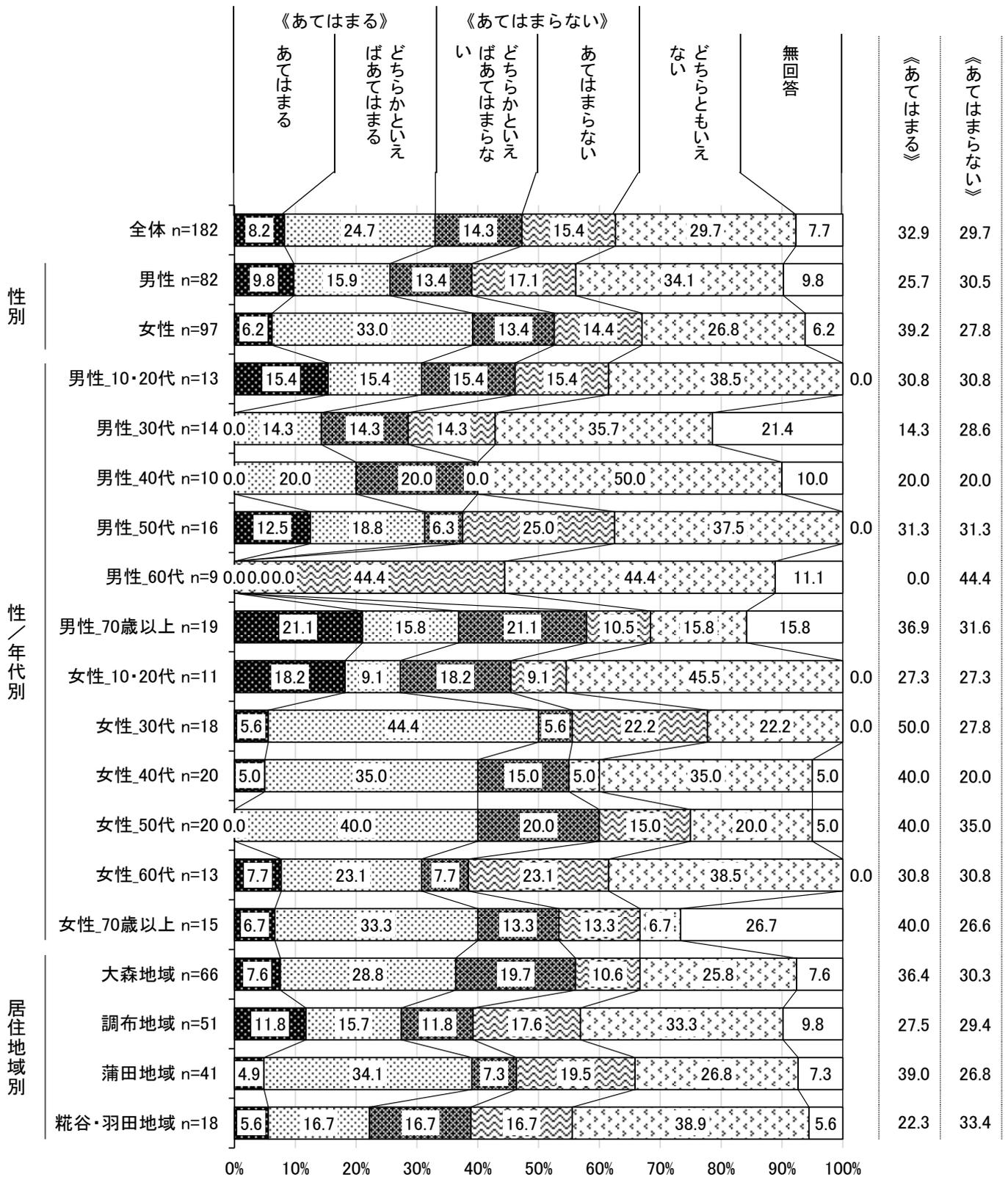
■性別・性／年代別・居住地域別_④学びに関する情報が分りやすく提供されている

性別でみると、《あてはまる》は男性が30.5%、女性が34.0%と、女性が3.5ポイント上回っている。



■性別・性／年代別・居住地域別_⑤学びや活動を充実させる施設が整っている

性別でみると、《あてはまる》は男性が25.7%、女性が39.2%と、女性が13.5ポイント上回っている。

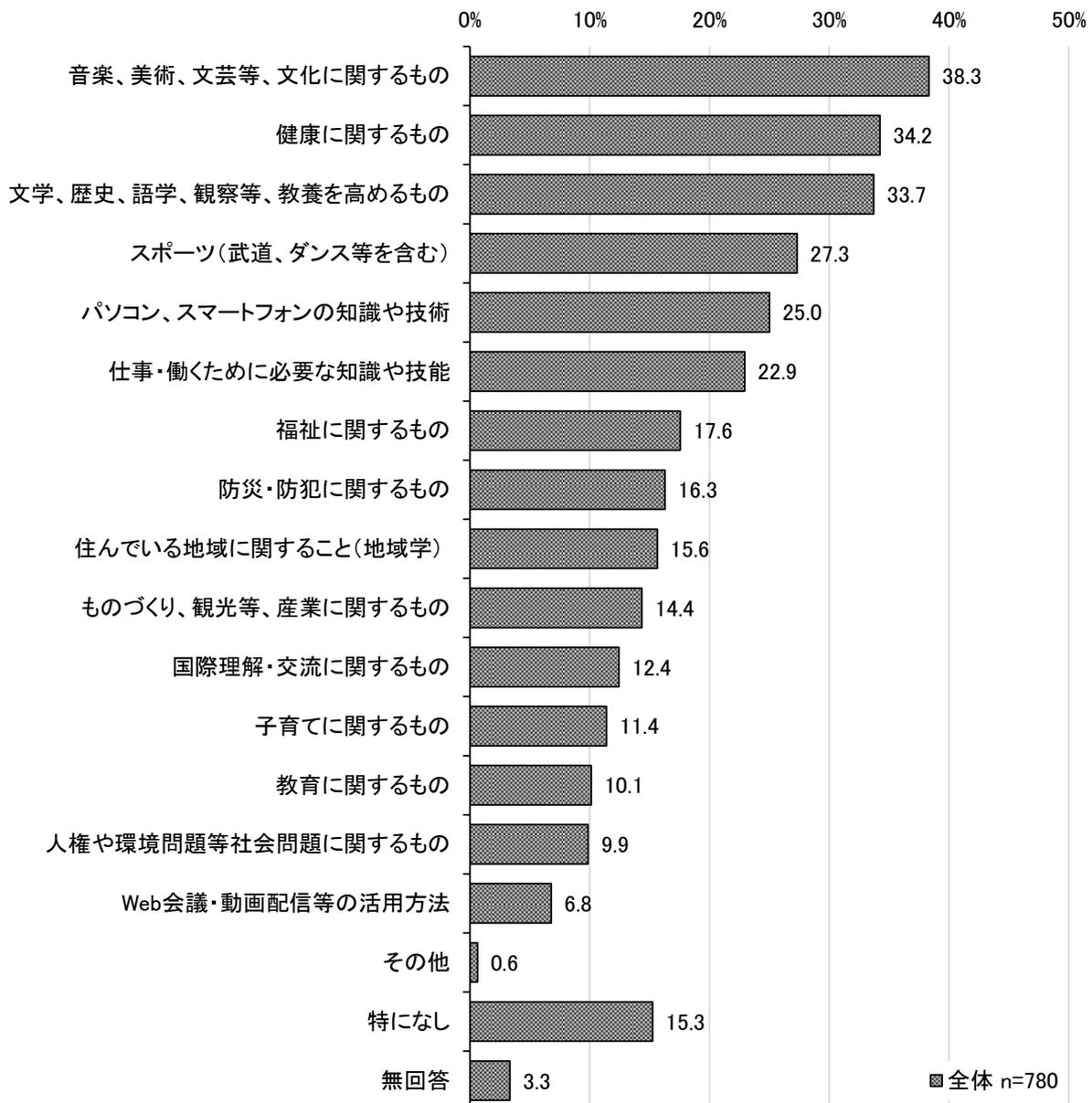


(7) 今後行いたい生涯学習

◇「音楽、美術、文芸等、文化に関するもの」が3割後半で最も高くなっている

問 13 今後、行いたい生涯学習は何ですか。(いくつでも)

今後行いたい生涯学習については、「音楽、美術、文芸等、文化に関するもの」が38.3%で最も高く、次いで「健康に関するもの」が34.2%、「文学、歴史、語学、観察等、教養を高めるもの」が33.7%となっている。

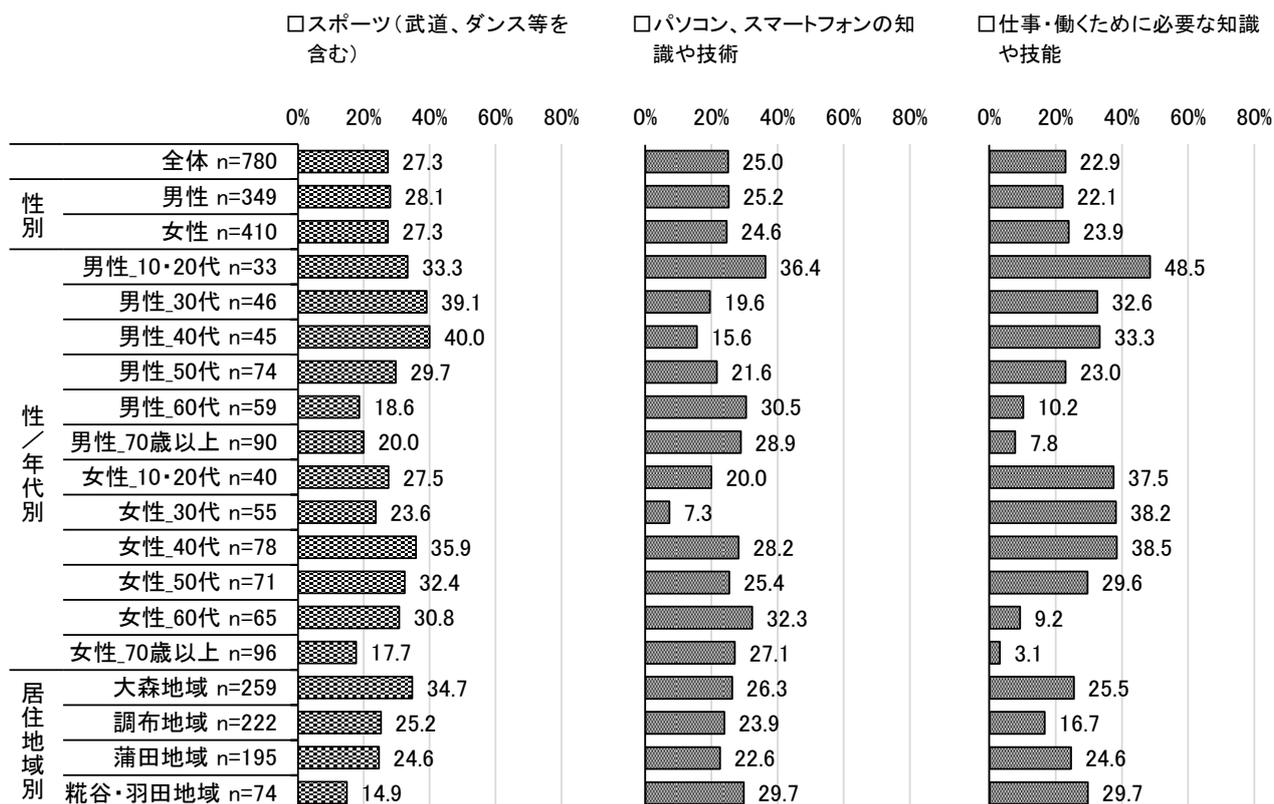
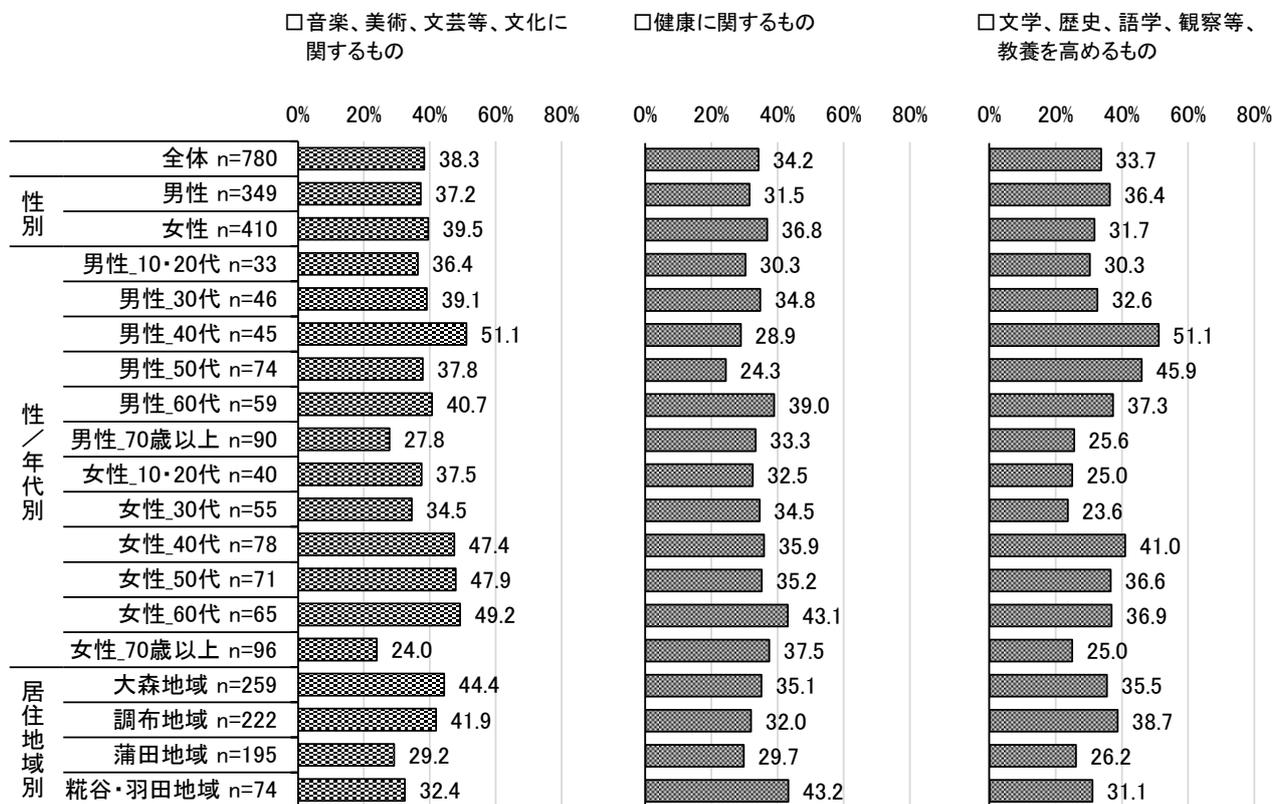


■性別・性／年代別・居住地域別（上位6項目）

性別でみると、男性、女性ともに「音楽、美術、文芸等、文化に関するもの」が最も高くなっている。

性／年代別でみると、「音楽、美術、文芸等、文化に関するもの」は男性では40代で5割前半と高くなっている。男性10・20代では「仕事・働くために必要な知識や技能」が4割後半と高くなっている。

居住地域別でみると、大森地域、調布地域では「音楽、美術、文芸等、文化に関するもの」が、蒲田地域、糀谷・羽田地域では「健康に関するもの」が最も高くなっている。



4 スポーツ・運動について

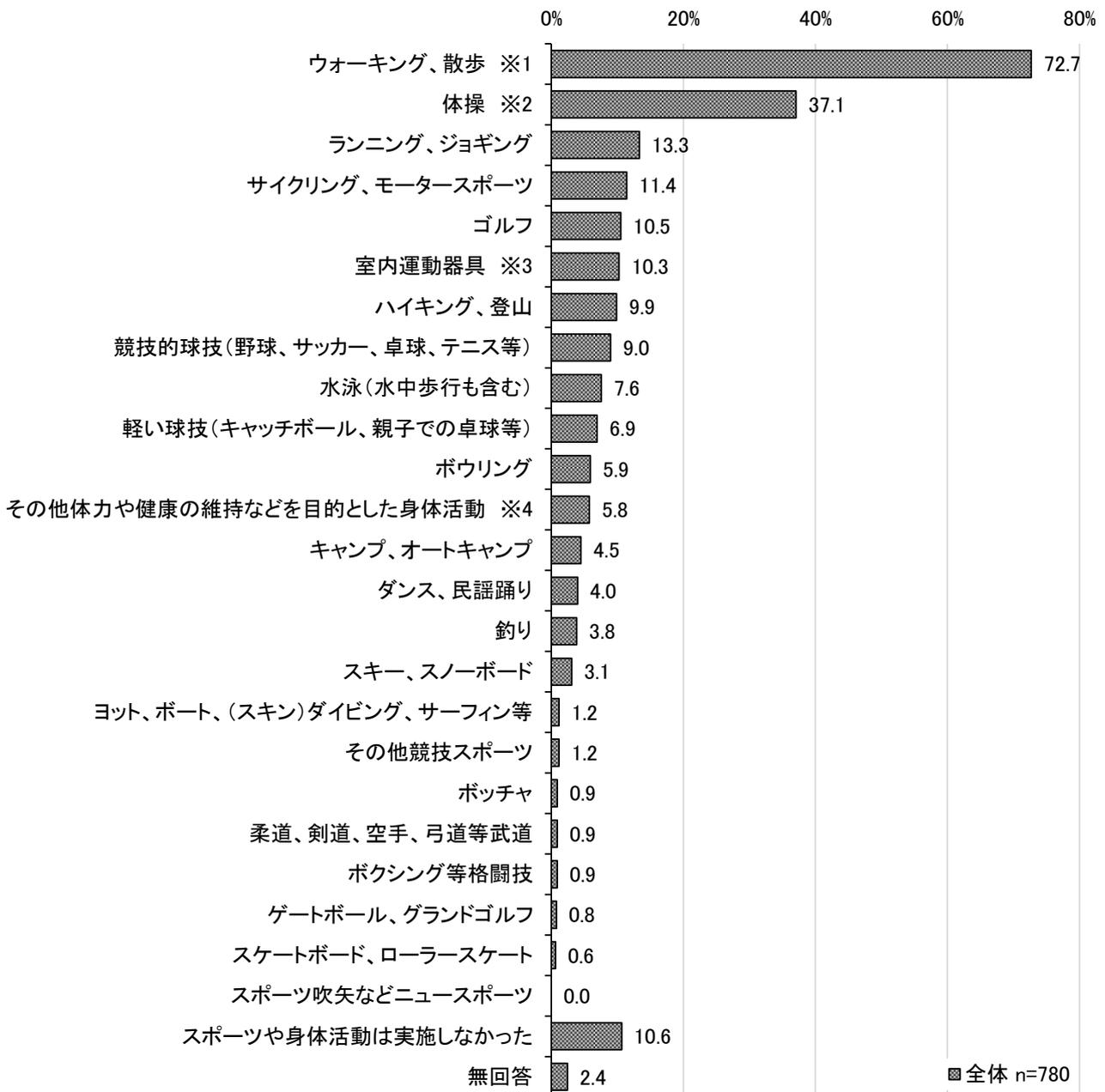
(1) この1年間に実施したスポーツ・運動

◇「ウォーキング、散歩」が7割前半で最も高くなっている

問 14 あなたがこの1年間に実施したスポーツや運動をすべてお選びください。(いくつでも)

この1年間に実施したスポーツ・運動については、「ウォーキング、散歩」が72.7%で最も高く、次いで「体操」が37.1%、「ランニング、ジョギング」が13.3%となっている。

なお、「スポーツや身体活動は実施しなかった」は10.6%となっている。



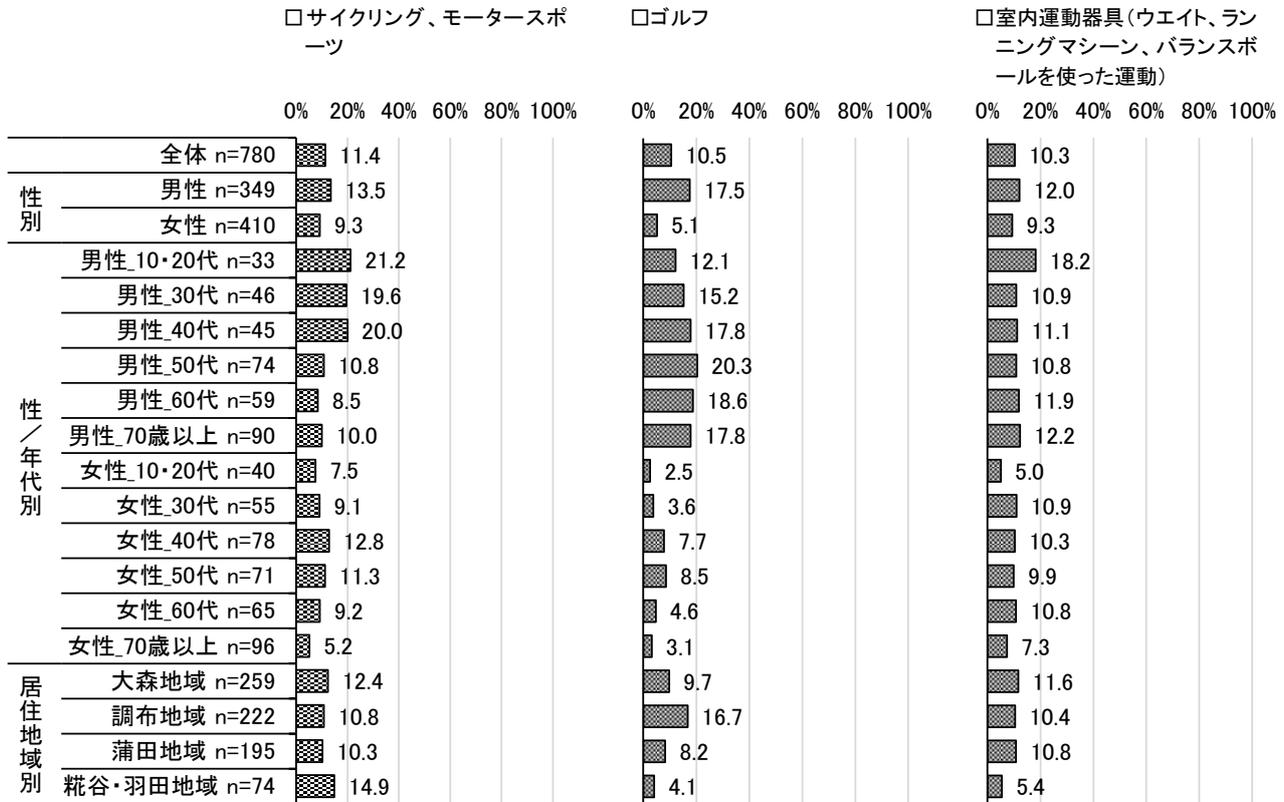
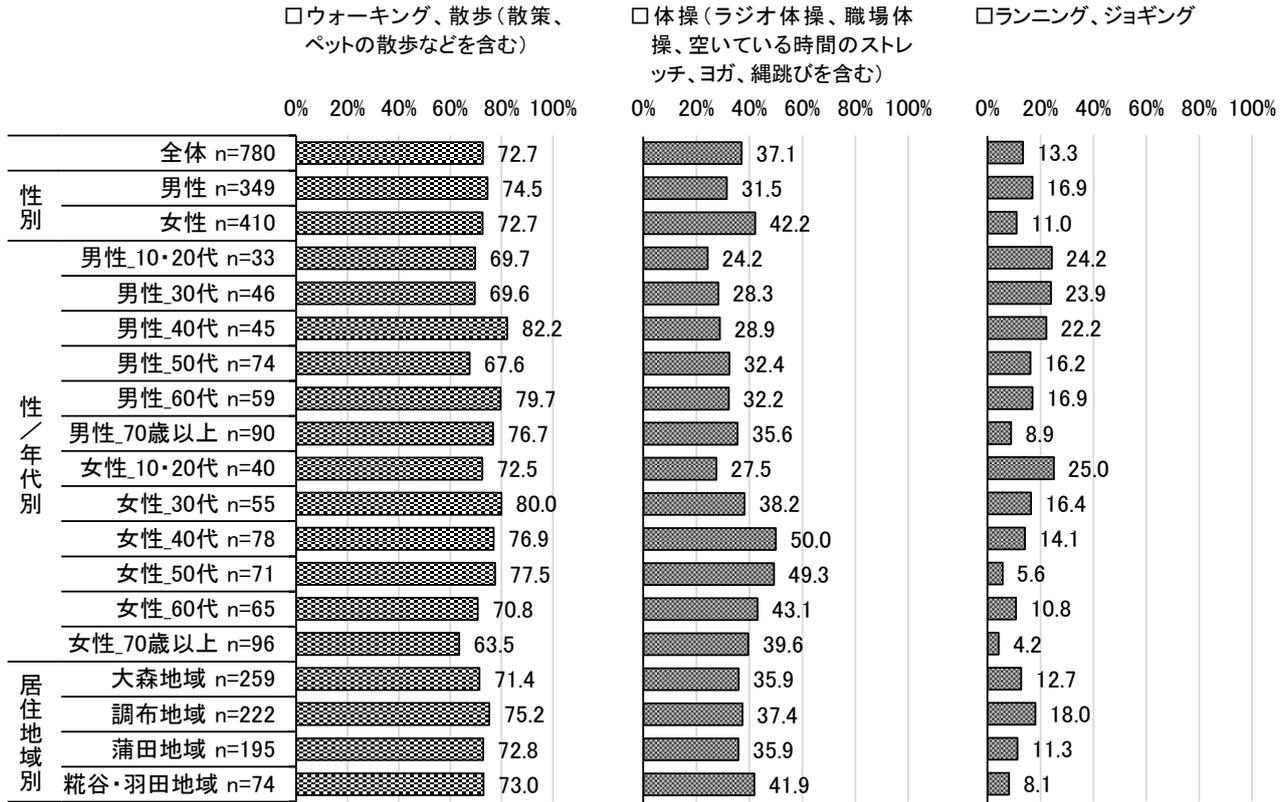
※1 ウォーキング、散歩(散策、ペットの散歩などを含む)

※2 体操(ラジオ体操、職場体操、空いている時間のストレッチ、ヨガ、縄跳びを含む)

※3 室内運動器具(ウエイト、ランニングマシン、バランスボールを使った運動)

※4 その他体力や健康の維持向上、介護予防、ストレスの解消を目的としたスポーツ、身体活動

■性別・性／年代別・居住地域別（上位6項目）



性別で見ると、男性、女性ともに「ウォーキング、散歩」が最も高くなっている。「体操」は男性が31.5%、女性が42.2%と、女性が10.7ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、すべての年代で「ウォーキング、散歩」が最も高く、男性では40代で8割前半、女性では30代で8割と高くなっている。「体操」は女性40代、女性50代で約5割と高くなっている。「ランニング、ジョギング」は男性、女性ともに10・20代で2割半ばと高くなっている。

居住地域別で見ると、すべての地域で「ウォーキング、散歩」が7割台となっている。

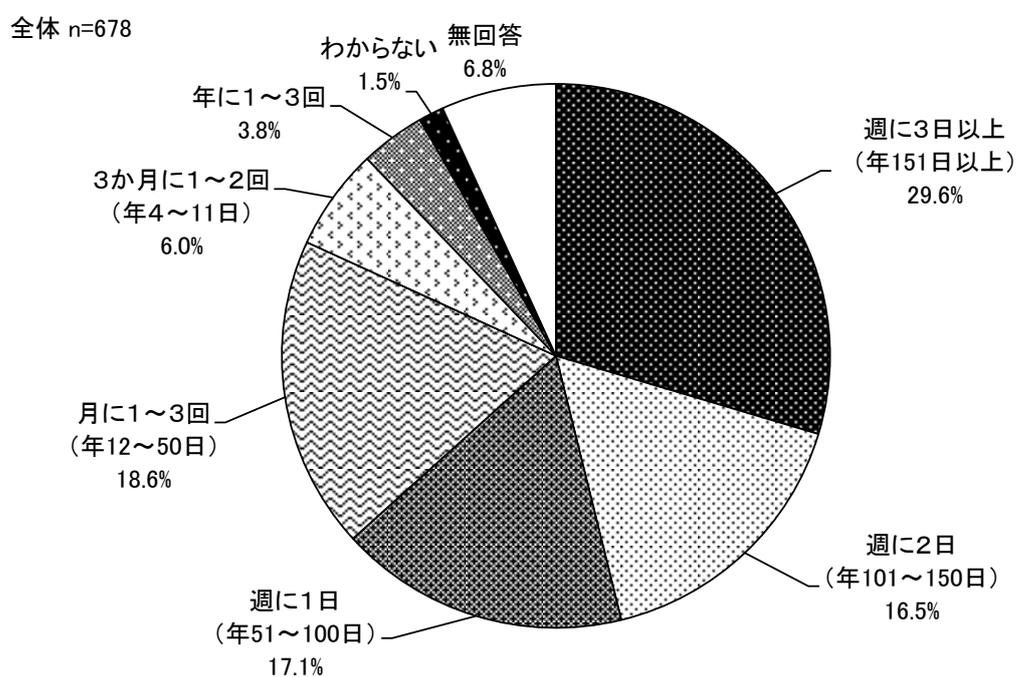
(2) この1年間のスポーツ・運動の活動頻度

◇「週に3日以上（年151日以上）」が約3割で最も高くなっている

【問14で「スポーツや身体活動は実施しなかった」「以外」を回答した方に伺います。】

問14-1 この1年間にスポーツ・運動を実施した日数を全部合わせると、何日ぐらいになりますか。（週での換算日数）（1つのみ）

この1年間のスポーツ・運動の活動頻度については、「週に3日以上（年151日以上）」が29.6%で最も高く、次いで「月に1～3回（年12～50日）」が18.6%、「週に1日（年51～100日）」が17.1%となっている。

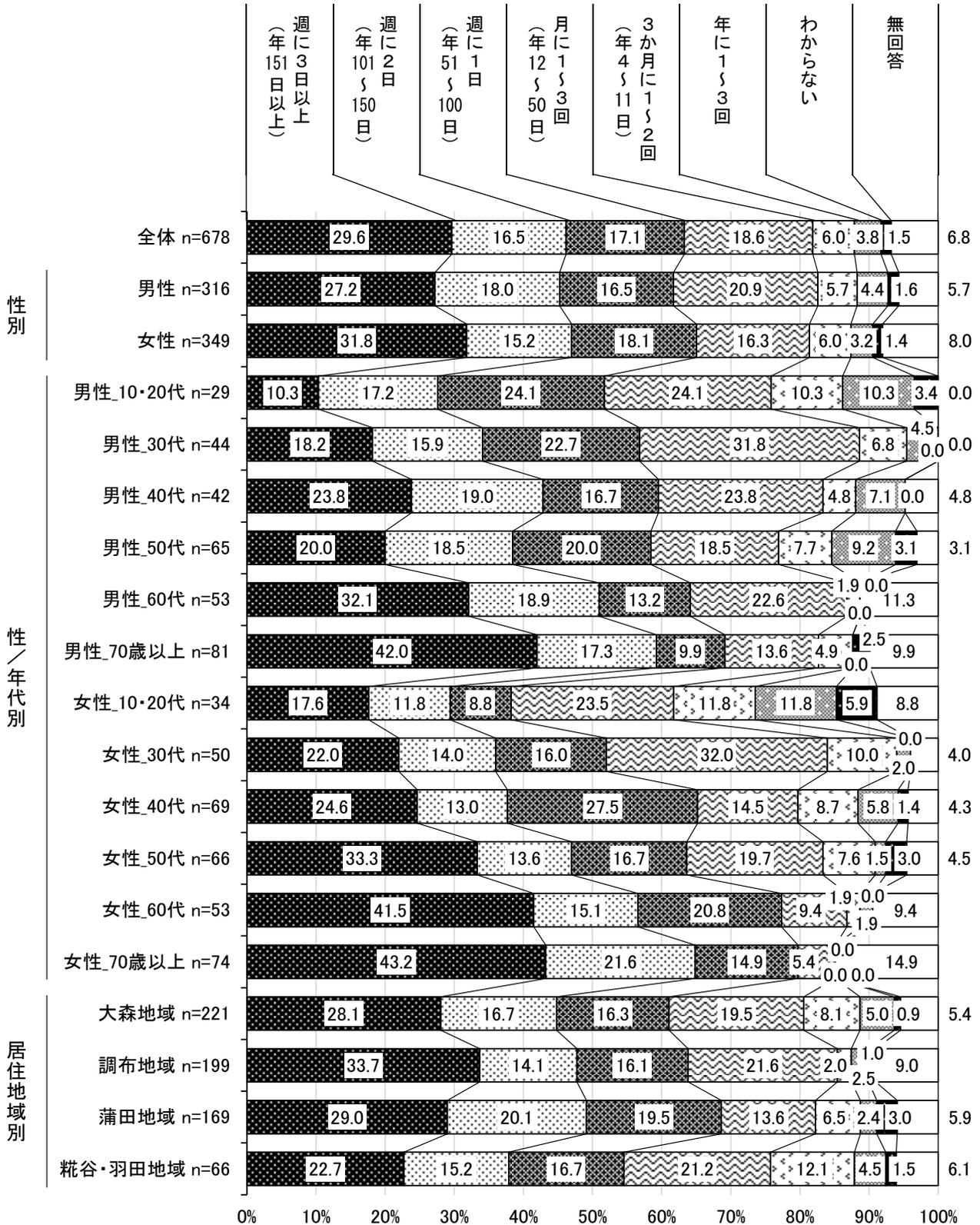


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、大きな差はみられない。

性／年代別でみると、「週に3日以上（年151日以上）」は男性では70歳以上で4割前半、女性では60代、70歳以上で4割前半と高くなっている。

居住地域別でみると、「週に3日以上（年151日以上）」は調布地域で3割前半と高くなっている。



(3) 運動をしなかった理由

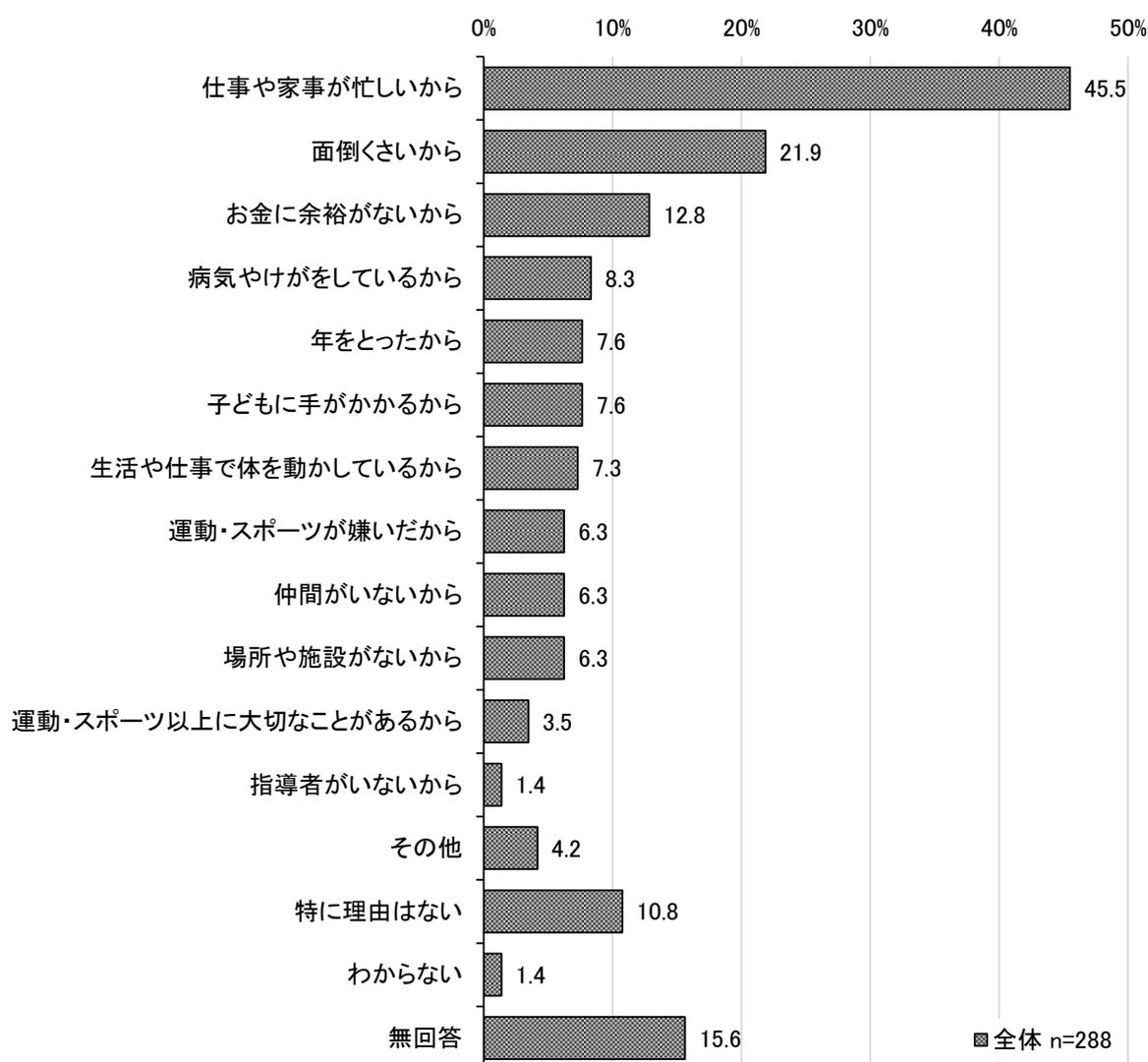
◇「仕事や家事が忙しいから」が4割半ばで最も高くなっている

【問 14 で「スポーツや身体活動は実施しなかった」、問 14-1 で“週に1日以上実施していない”と回答した方に伺います。】

問 14-2 直近1年間に運動をしなかった、または、週に1日以上実施できなかった理由は何ですか。(いくつでも)

運動をしなかった理由については、「仕事や家事が忙しいから」が45.5%で最も高く、次いで「面倒くさいから」が21.9%、「お金の余裕がないから」が12.8%となっている。

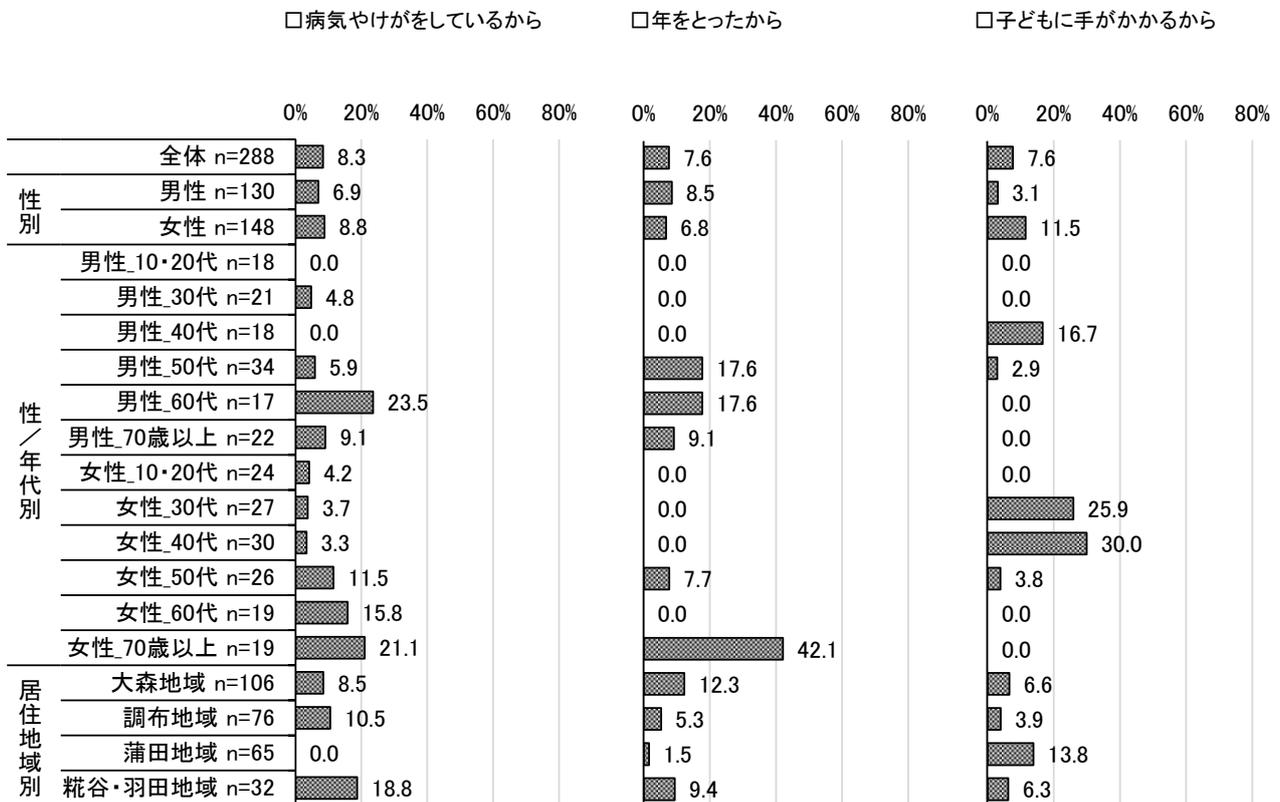
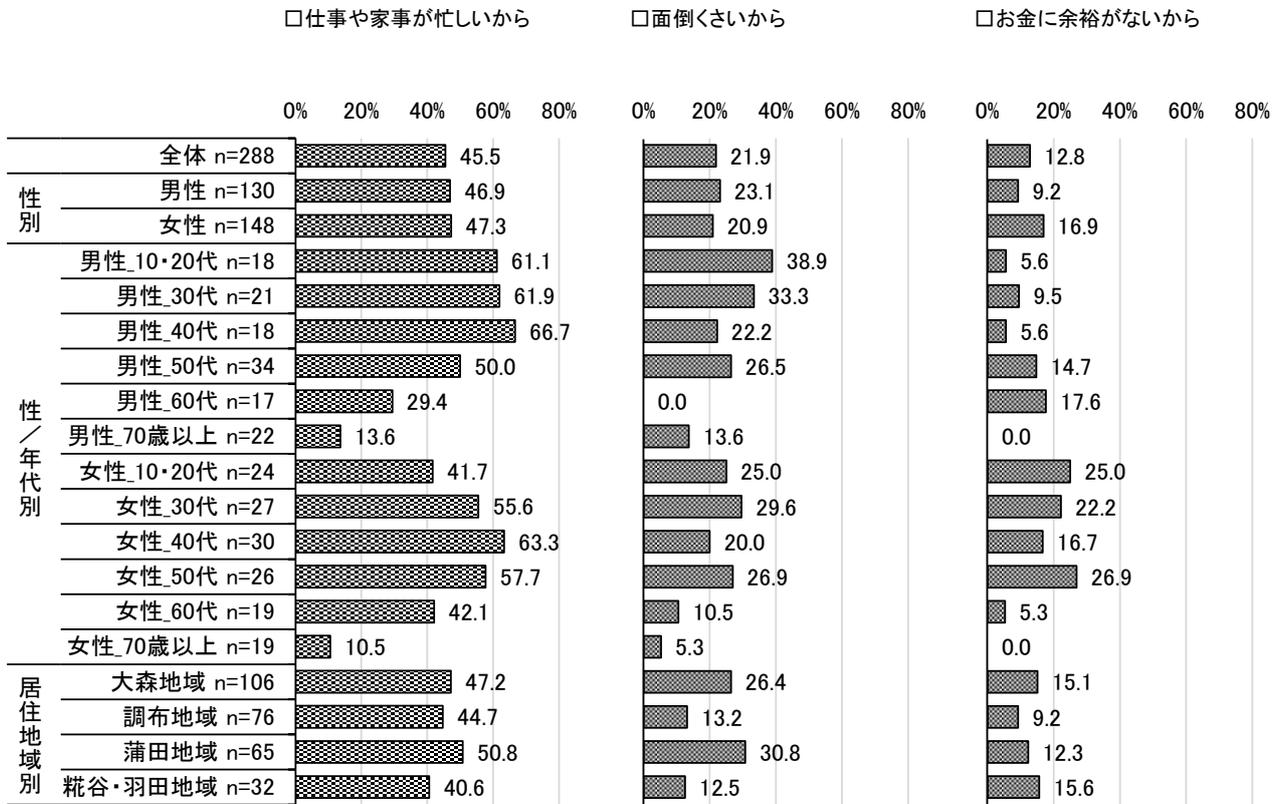
なお、「特に理由はない」は10.8%となっている。



■性別・性／年代別・居住地域別（上位6項目）

性別でみると、男性、女性ともに「仕事や家事が忙しいから」が最も高くなっている。

居住地域別でみると、すべての地域で「仕事や家事が忙しいから」が最も高く、蒲田地域で約5割となっている。



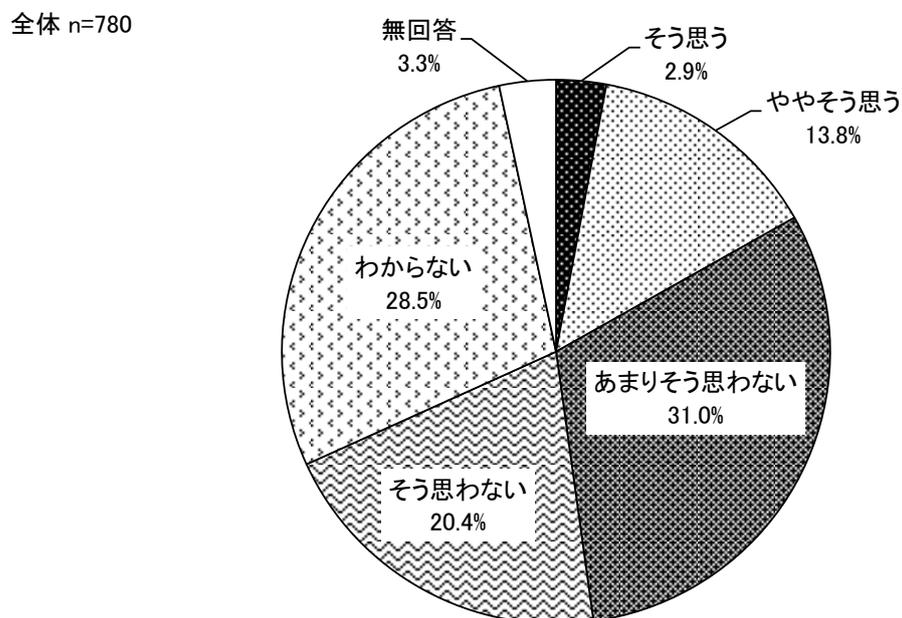
5 文化・芸術について

(1) 来訪者が区の文化に接する機会

◇《思う》(「そう思う」、「ややそう思う」の合計値)は1割後半となっている

問 15 他の都市から訪れた人にとって、区の文化(歴史、伝統、芸術、風習等)に接する機会は多いと思いますか。(1つのみ)

来訪者が区の文化に接する機会については、「そう思う」、「ややそう思う」の合計値《思う》が16.7%である一方で、「あまりそう思わない」、「そう思わない」の合計値《思わない》が51.4%と、《思わない》が34.7ポイント上回っている。

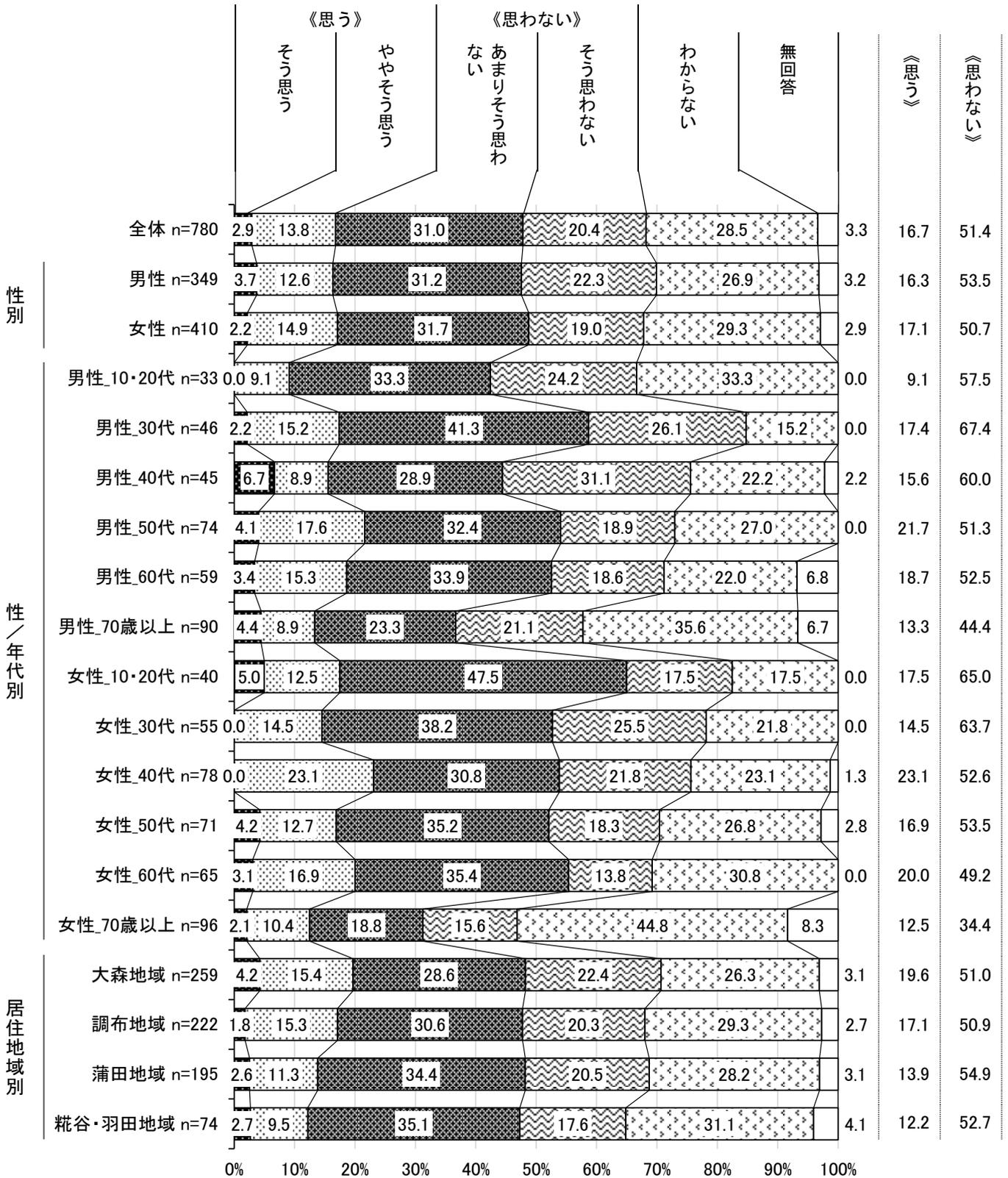


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、大きな差はみられない。

性／年代別でみると、《思う》は男性では50代、女性では40代で2割前半と高くなっている。

居住地域別でみると、《思う》は大森地域で約2割と高くなっている。



6 普段の生活について

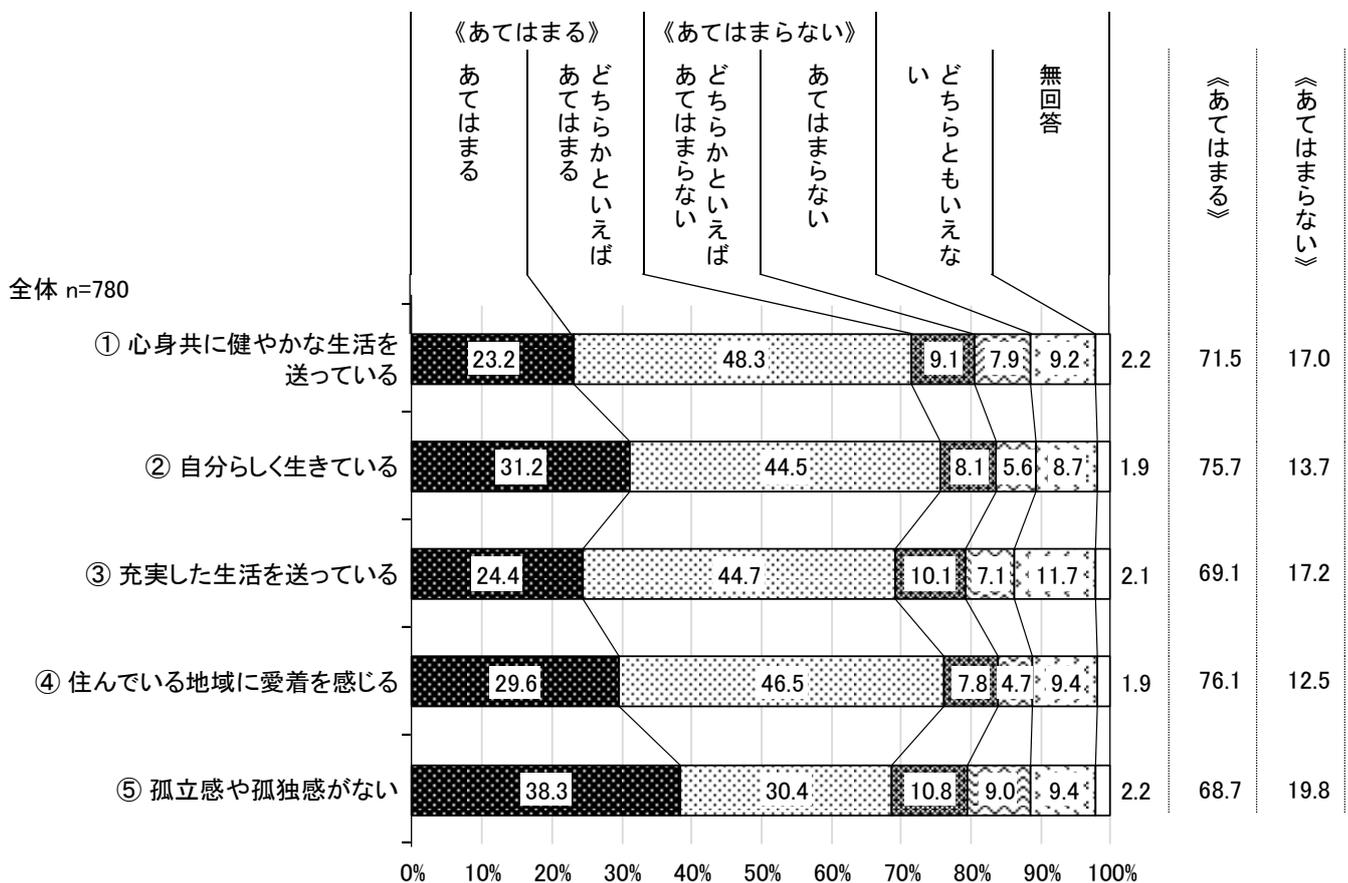
(1) 普段の生活の状況

◇ 《あてはまる》(「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」の合計値)は『④住んでいる地域に愛着を感じる』が7割後半で最も高くなっている

問 16 普段の生活について、以下の項目はどの程度あてはまりますか。あなたのお気持ちに最も近いものをお選びください。

※「1」～「5」のそれぞれに回答してください。(それぞれ1つのみ)

普段の生活の状況については、『④住んでいる地域に愛着を感じる』における「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」の合計値《あてはまる》が76.1%で最も高く、次いで『②自分らしく生きている』が75.7%、『①心身共に健やかな生活を送っている』が71.5%となっている。

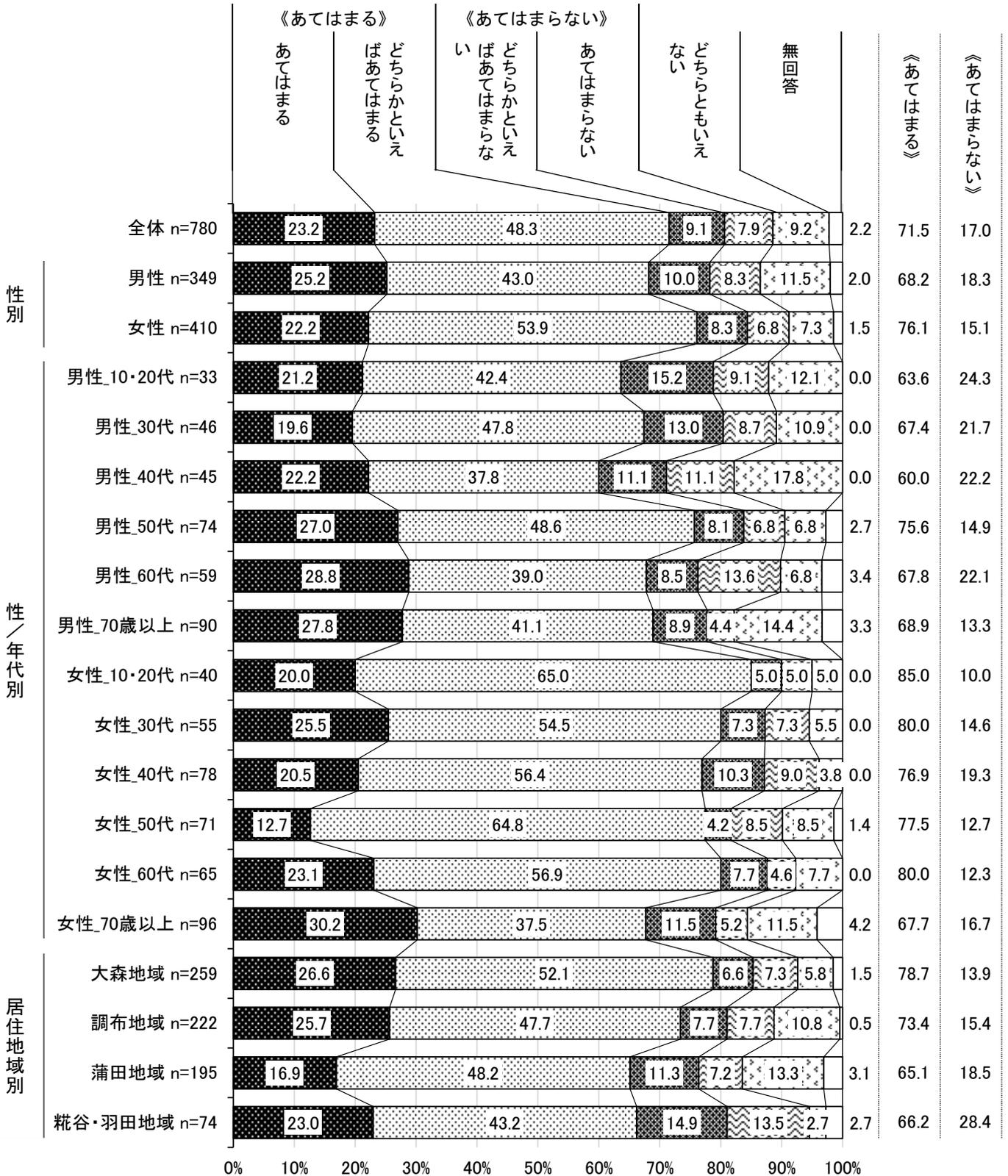


■性別・性/年代別・居住地域別_①心身共に健やかな生活を送っている

性別でみると、《あてはまる》は男性が68.2%、女性が76.1%と、女性が7.9ポイント上回っている。

性/年代別でみると、《あてはまる》は男性では50代で7割半ば、女性では10・20代で8割半ばと高くなっている。

居住地域別でみると、《あてはまる》は大森地域で7割後半と高くなっている。

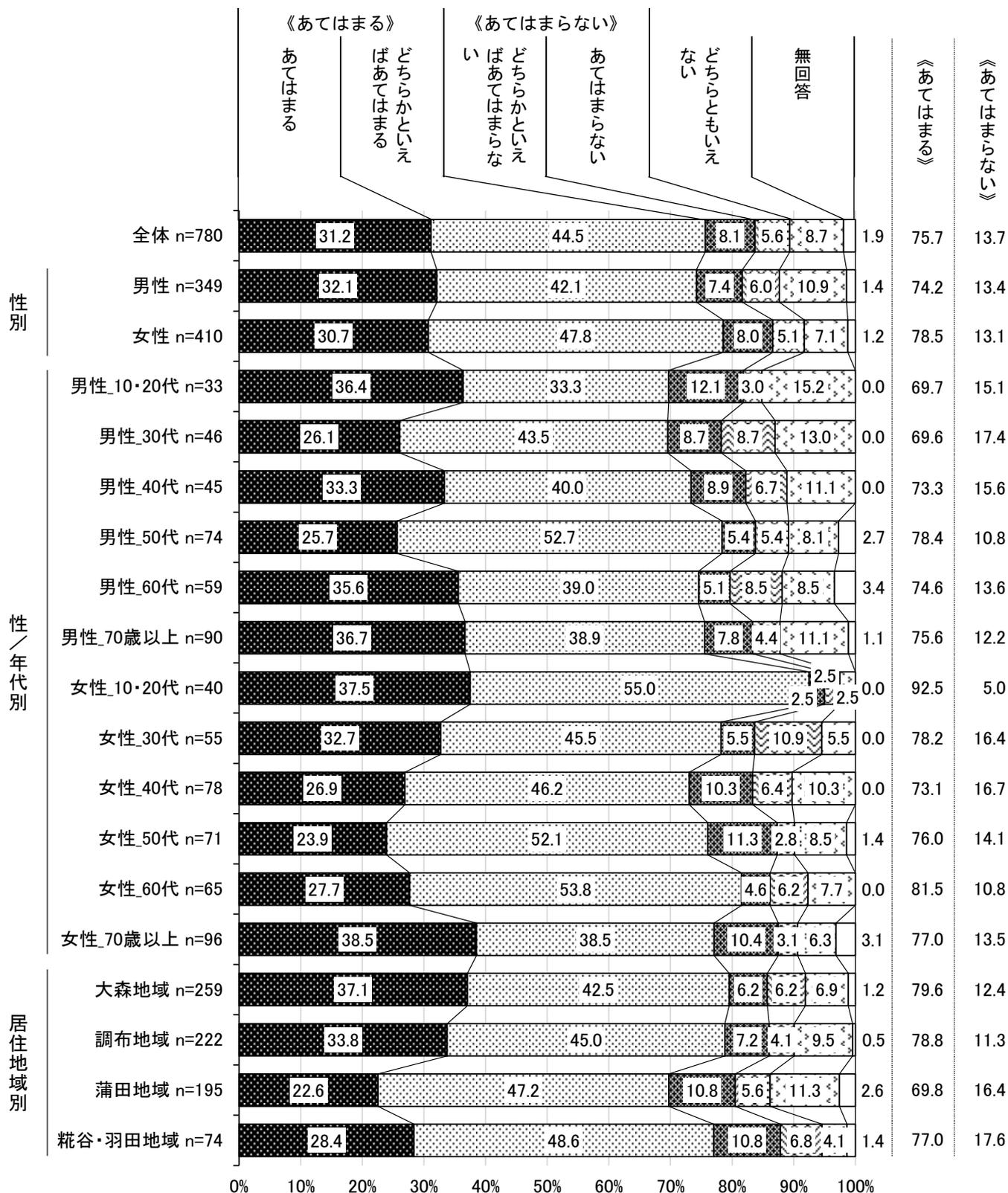


■性別・性／年代別・居住地域別_②自分らしく生きている

性別でみると、《あてはまる》は男性が74.2%、女性が78.5%と、女性が4.3ポイント上回っている。

性／年代別でみると、《あてはまる》は男性では50代で7割後半、女性では10・20代で9割前半と高くなっている。

居住地域別でみると、《あてはまる》は大森地域で約8割と高くなっている。

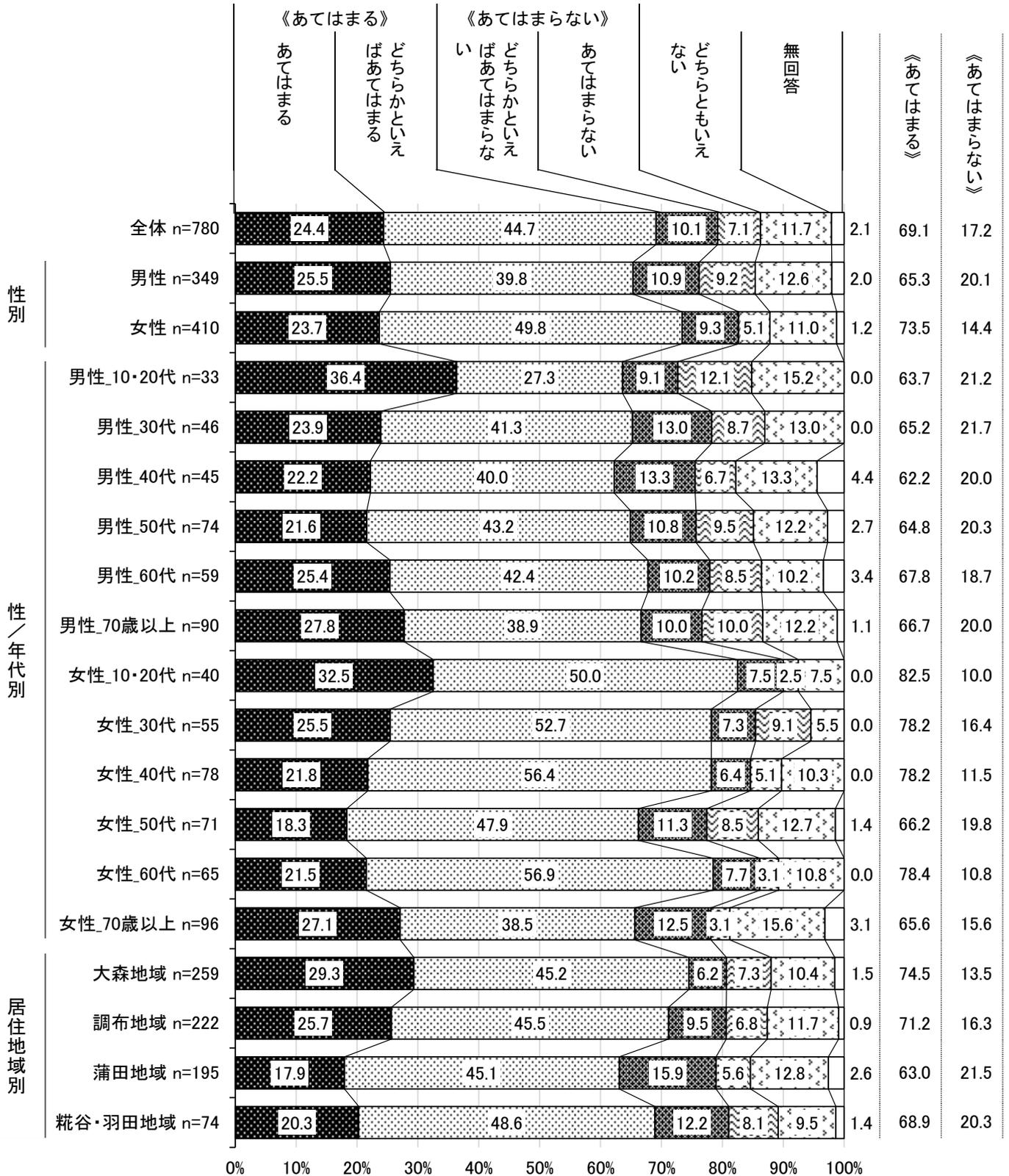


■性別・性/年代別・居住地域別_③充実した生活を送っている

性別でみると、《あてはまる》は男性が65.3%、女性が73.5%と、女性が8.2ポイント上回っている。

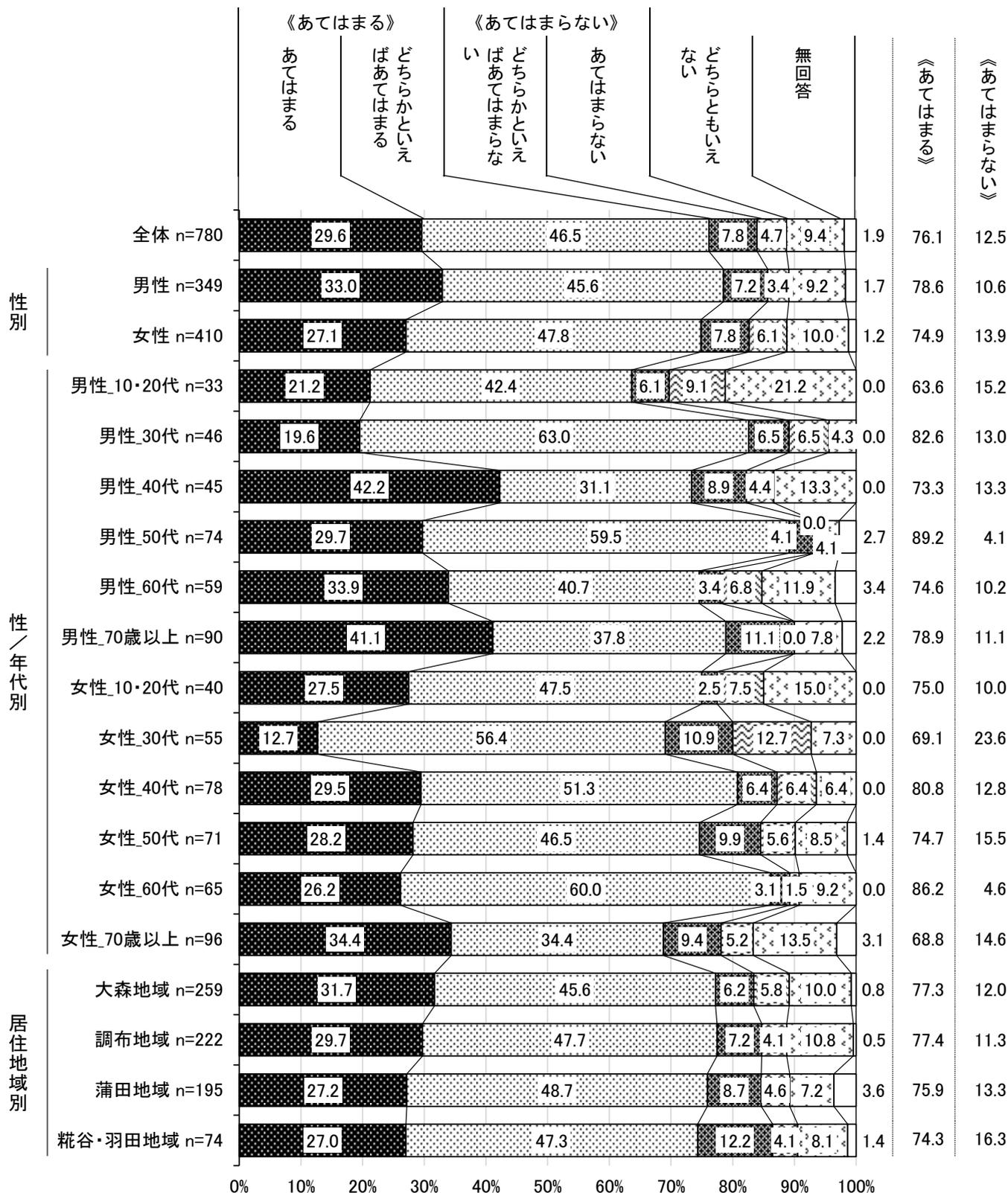
性/年代別でみると、《あてはまる》は男性ではすべての年代で6割台となっている。女性では10・20代で8割前半と高くなっている。

居住地域別でみると、《あてはまる》は大森地域で7割半ばと高くなっている。



■性別・性／年代別・居住地域別_④住んでいる地域に愛着を感じる

性別でみると、《あてはまる》は男性が78.6%、女性が74.9%と、男性が3.7ポイント上回っている。
 性／年代別でみると、《あてはまる》は男性では50代、女性では60代で8割後半と高くなっている。
 居住地域別でみると、すべての地域で《あてはまる》が7割台となっている。

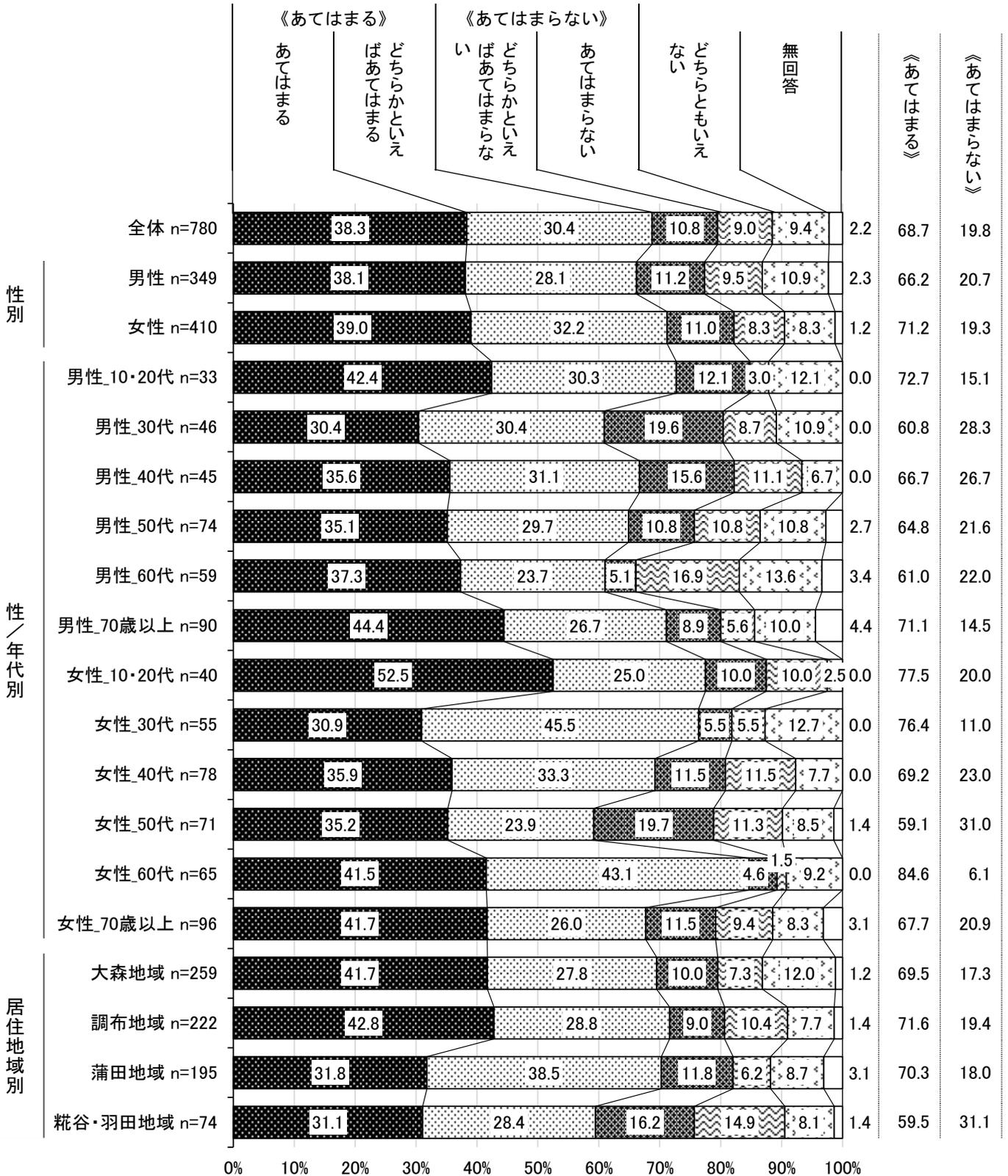


■性別・性／年代別・居住地域別_⑤孤立感や孤独感がない

性別でみると、《あてはまる》は男性が66.2%、女性が71.2%と、女性が5.0ポイント上回っている。

性／年代別でみると、《あてはまる》は男性では10・20代、70歳以上で7割前半、女性では60代で8割半ばと高くなっている。

居住地域別でみると、《あてはまる》は調布地域で7割前半と高くなっている。



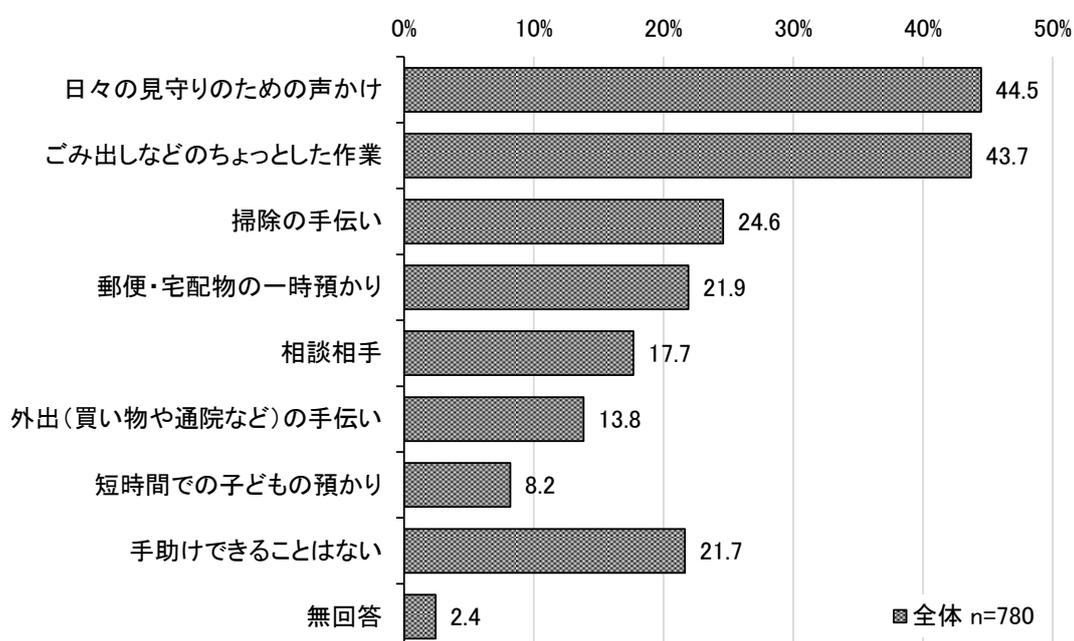
7 地域活動について

(1) 近所の方への手助けとしてできること

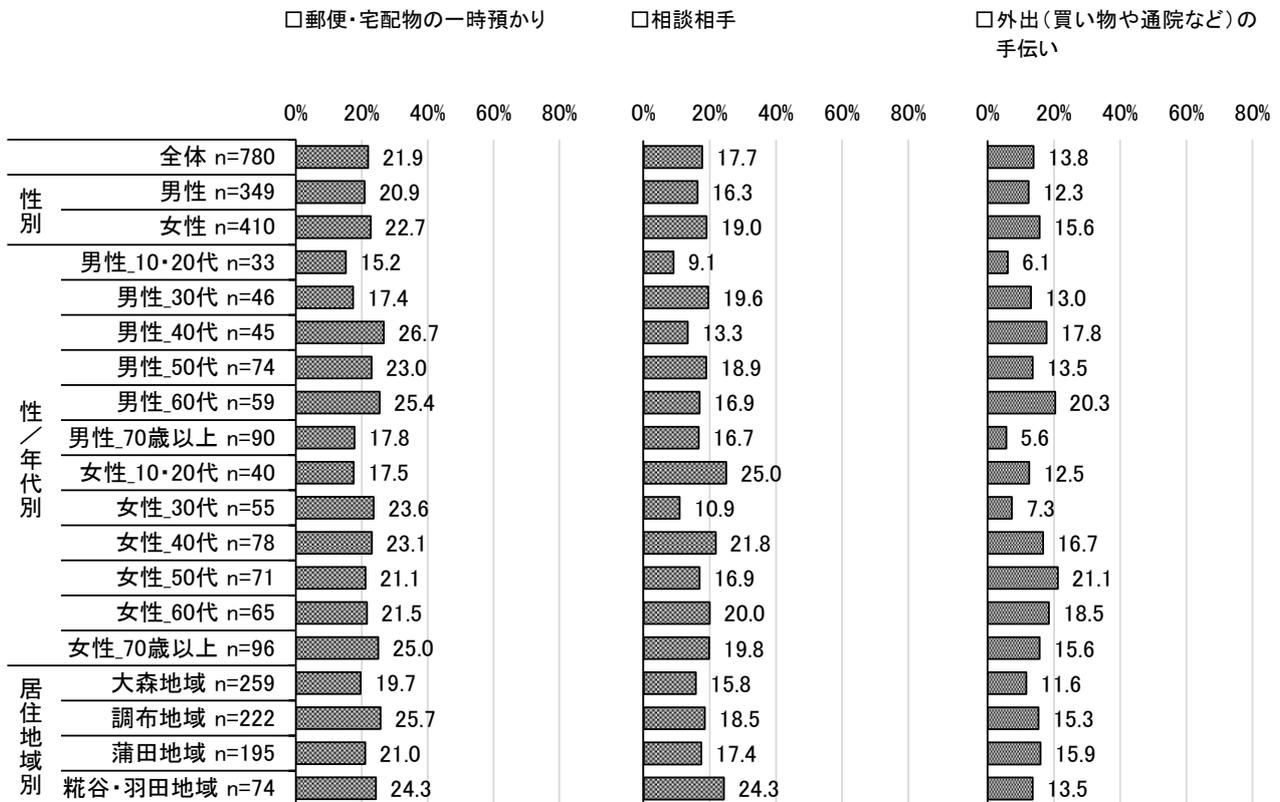
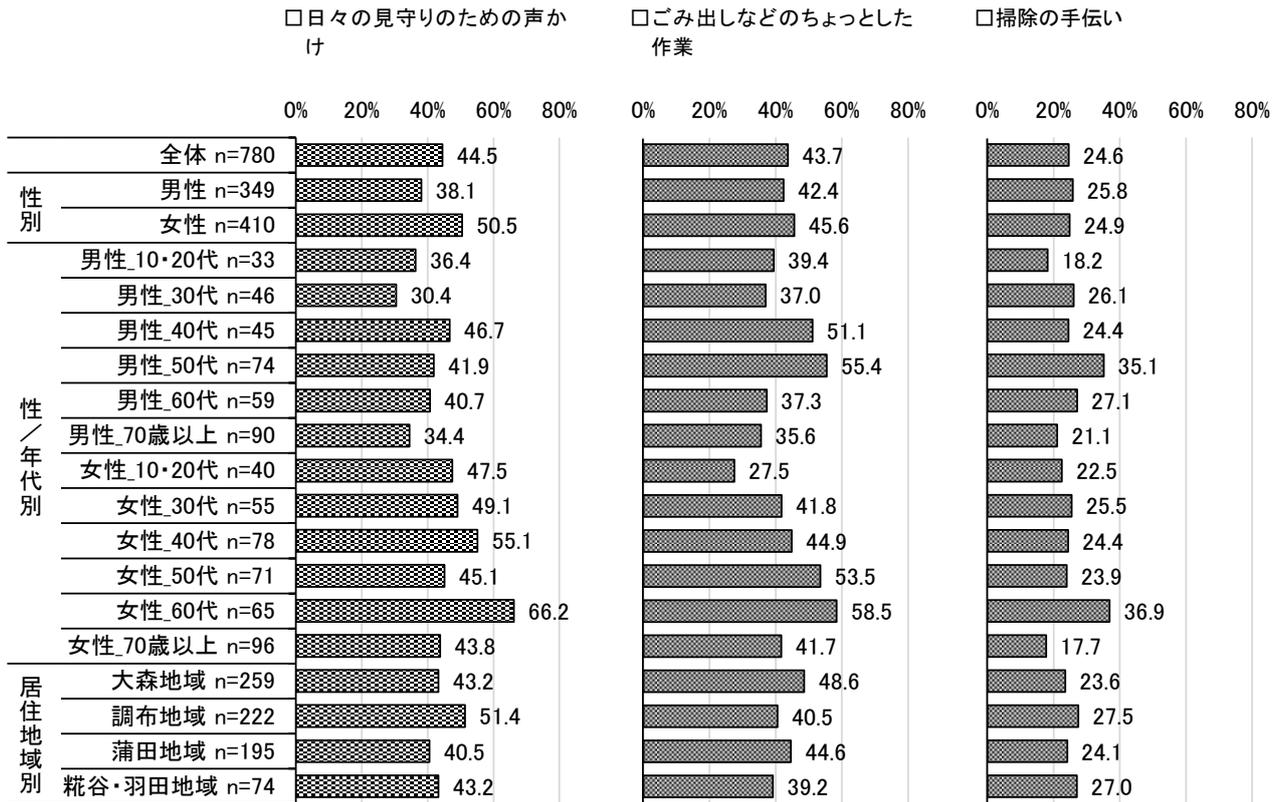
◇「日々の見守りのための声かけ」が4割半ばで最も高くなっている

問 17 あなたが近所の方への手助けとして、できると思うことを教えてください。(いくつでも)

近所の方への手助けとしてできることについては、「日々の見守りのための声かけ」が44.5%で最も高く、次いで「ごみ出しなどのちょっとした作業」が43.7%、「掃除の手伝い」が24.6%となっている。
 なお、「手助けできることはない」は21.7%となっている。



■性別・性／年代別・居住地域別（上位6項目）



性別で見ると、男性では「ごみ出しなどのちょっとした作業」が最も高く、女性では「日々の見守りのための声かけ」が最も高くなっている。「日々の見守りのための声かけ」は男性が38.1%、女性が50.5%と、女性が12.4ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「日々の見守りのための声かけ」はすべての年代で女性が男性を上回っている。「ごみ出しなどのちょっとした作業」は男性40代、男性50代、女性50代、女性60代で5割台と高くなっている。「掃除の手伝い」は男性50代、女性60代で3割台と高くなっている。

居住地域別で見ると、大森地域、蒲田地域では「ごみ出しなどのちょっとした作業」が、調布地域、糀谷・羽田地域では「日々の見守りのための声かけ」が最も高くなっている。

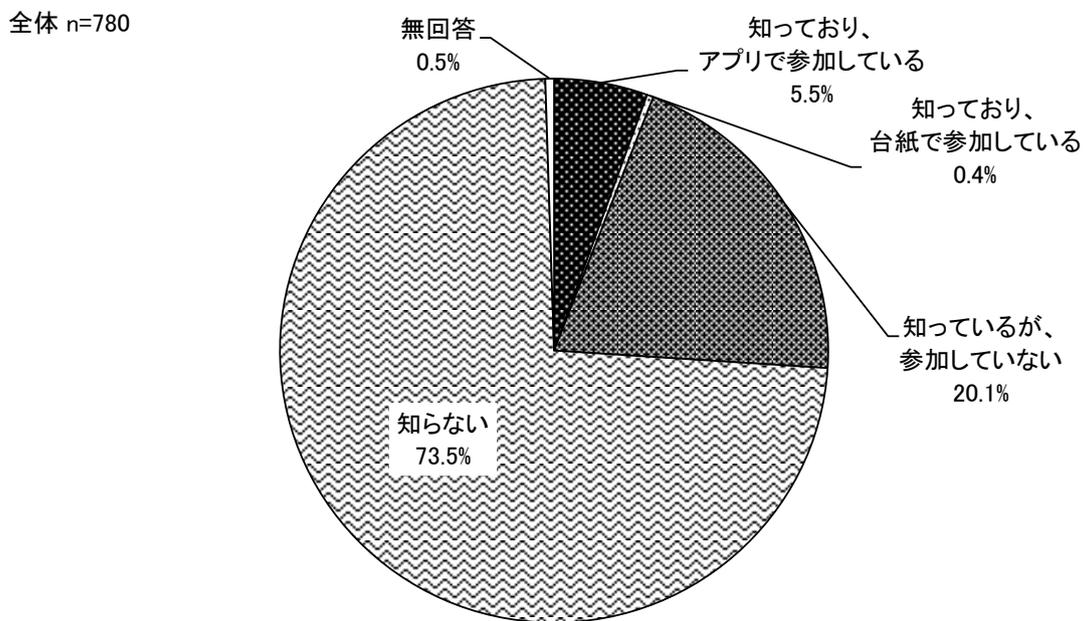
8 健康づくりについて

(1) 「はねびよん健康ポイント」の認知度

◇ 《知っている》（「知っており、アプリで参加している」、「知っており、台紙で参加している」、「知っているが、参加していない」の合計値）は2割半ばとなっている

**問 18 大田区の健康づくりポイント事業「はねびよん健康ポイント」を知っていますか。
（1つのみ）**

“はねびよん健康ポイント”の認知度については、「知っており、アプリで参加している」、「知っており、台紙で参加している」、「知っているが、参加していない」の合計値《知っている》が26.0%である一方で、「知らない」は73.5%と、「知らない」が47.5ポイント上回っている。

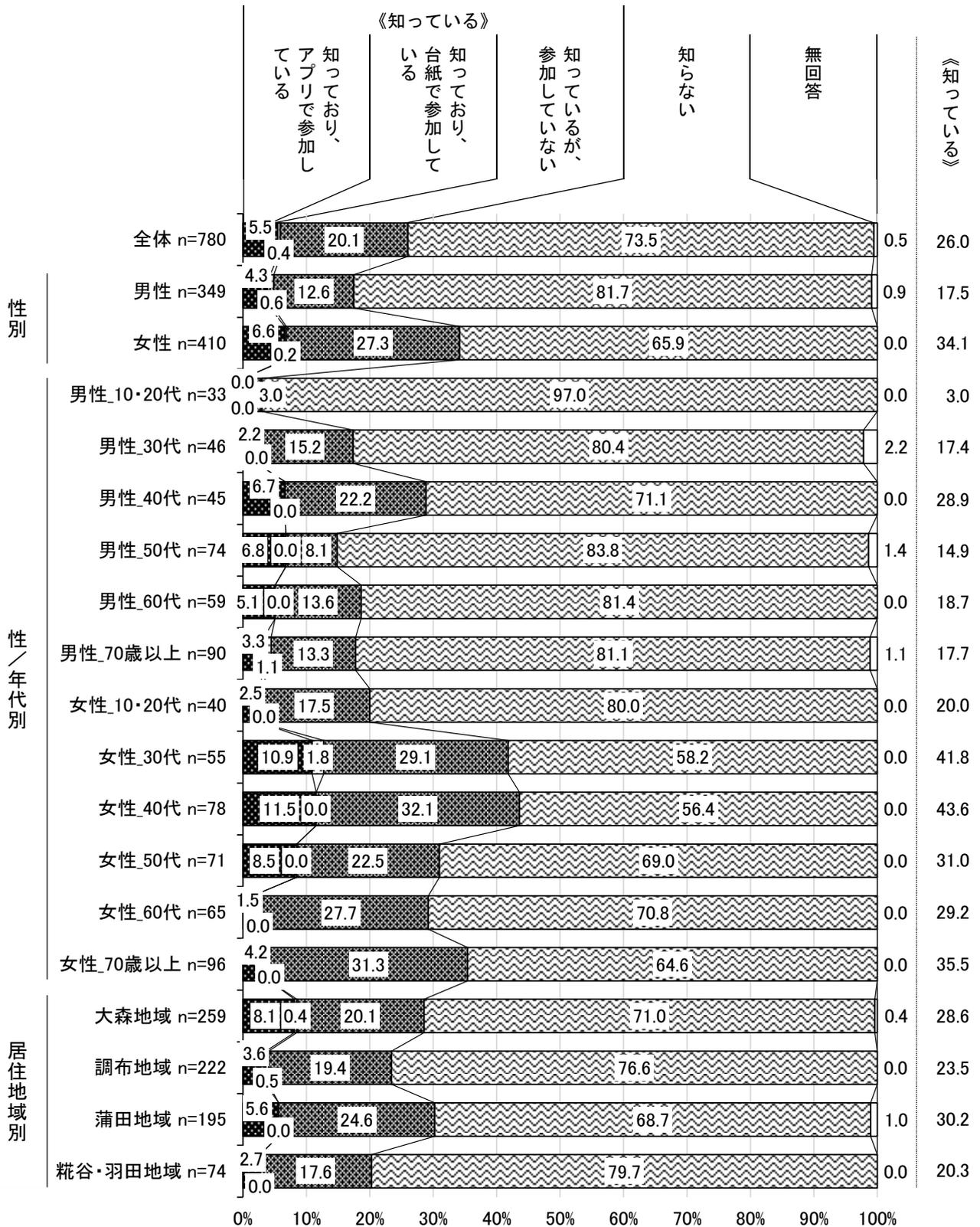


■性別・性/年代別・居住地域別

性別でみると、《知っている》は男性が17.5%、女性が34.1%と、女性が16.6ポイント上回っている。

性/年代別でみると、《知っている》は男性では40代で2割後半、女性では30代、40代で4割前半と高くなっている。

居住地域別でみると、《知っている》は蒲田地域で約3割と高くなっている。



9 喫煙について

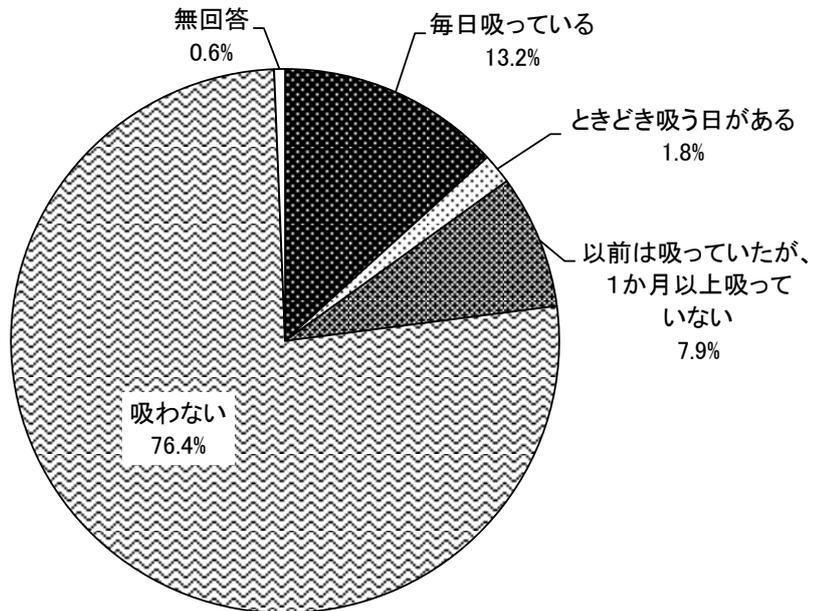
(1) 喫煙状況

◇「毎日吸っている」は1割前半となっている

問 19 あなたは、たばこを吸いますか。(1つのみ)

喫煙状況については、「吸わない」が76.4%で最も高く、次いで「毎日吸っている」が13.2%、「以前は吸っていたが、1か月以上吸っていない」が7.9%となっている。

全体 n=780

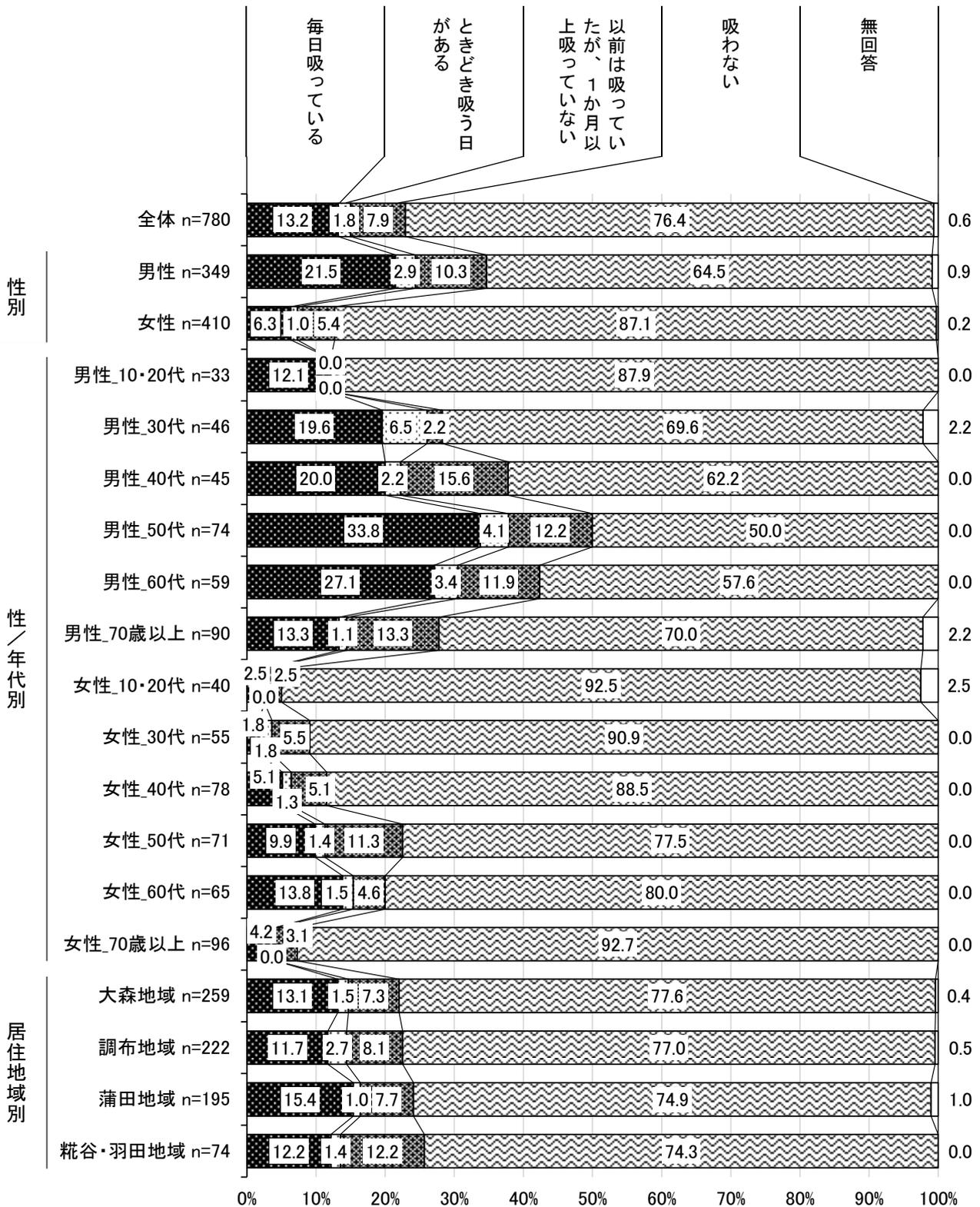


■性別・性/年代別・居住地域別

性別でみると、「毎日吸っている」は男性が21.5%、女性が6.3%と、男性が15.2ポイント上回っている。

性/年代別でみると、「毎日吸っている」は男性では50代で3割前半、女性では60代で1割前半と高くなっており、すべての年代で男性が女性を上回っている。

居住地域別でみると、「毎日吸っている」は蒲田地域で1割半ばと高くなっている。



(2) 喫煙の際に気をつけていること

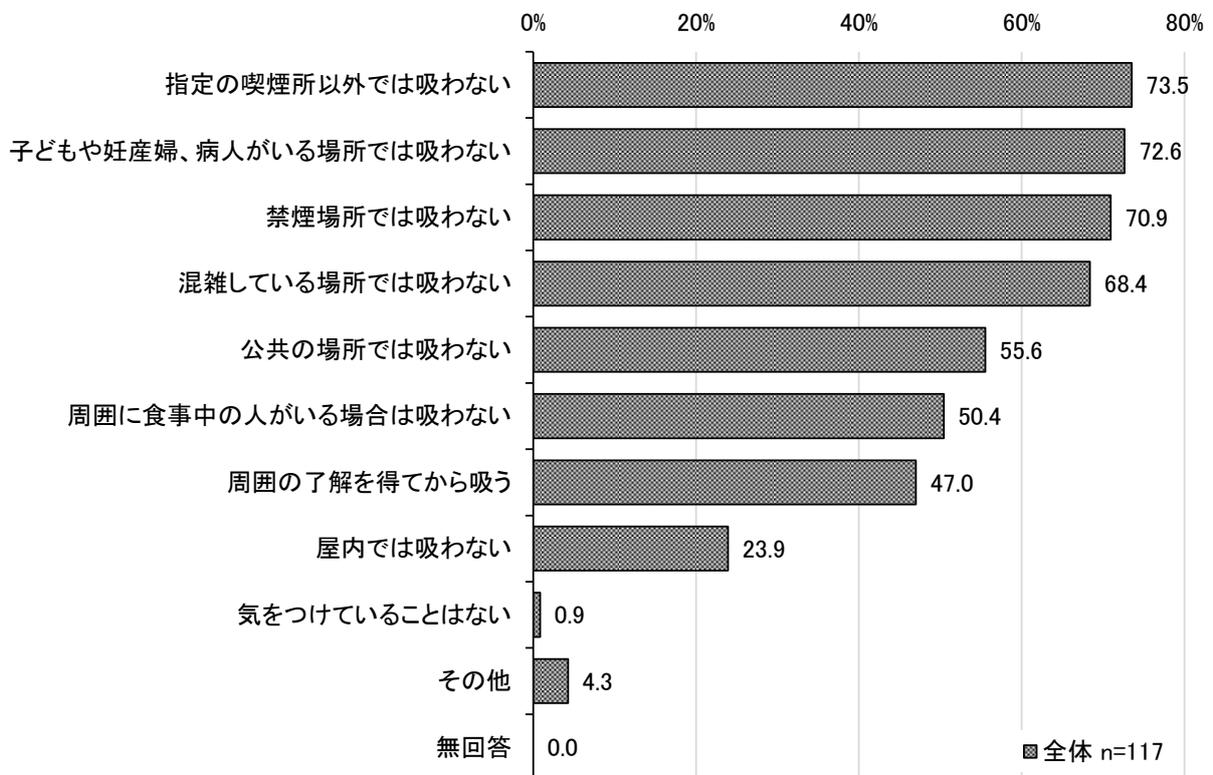
◇「指定の喫煙所以外では吸わない」が7割前半で最も高くなっている

【問 19 で「毎日吸っている」「ときどき吸う日がある」と回答した方に伺います。】

問 19-1 たばこを吸うときに気をつけていることはありますか。(いくつでも)

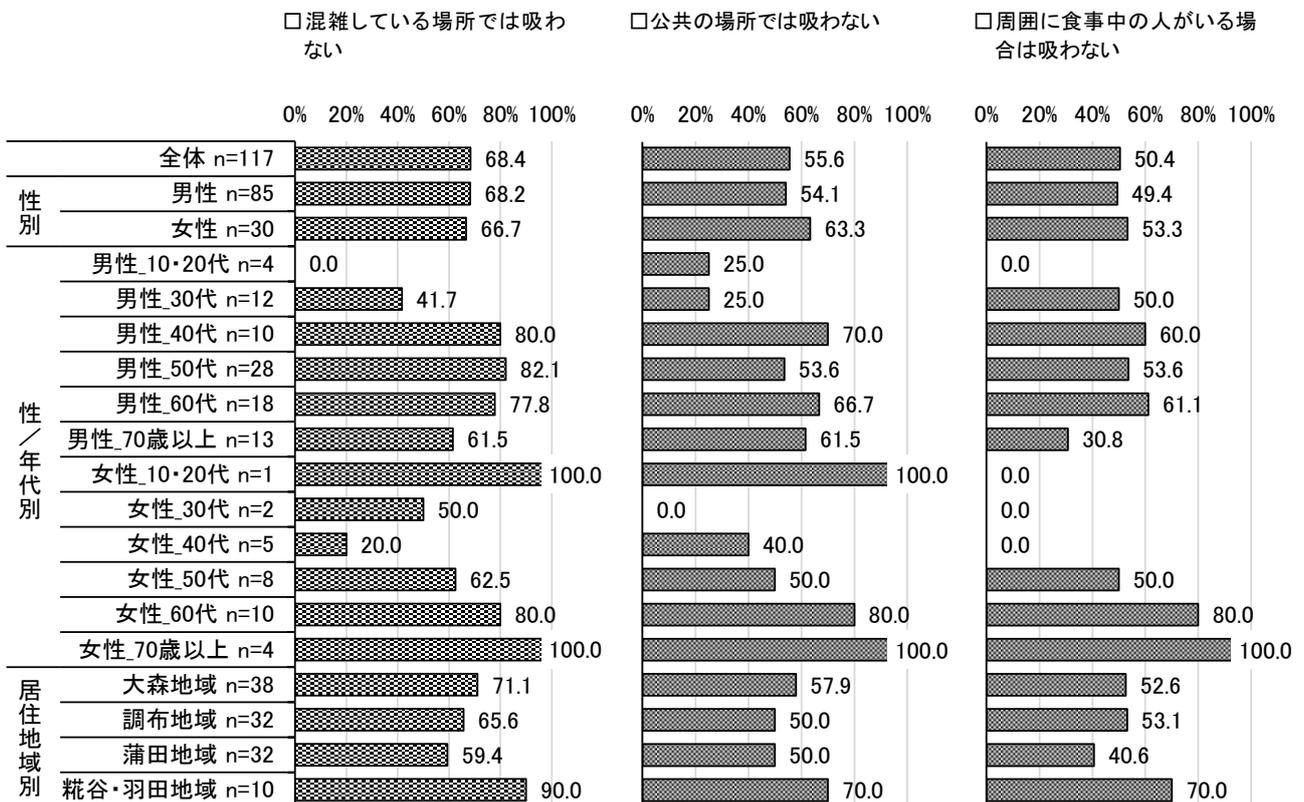
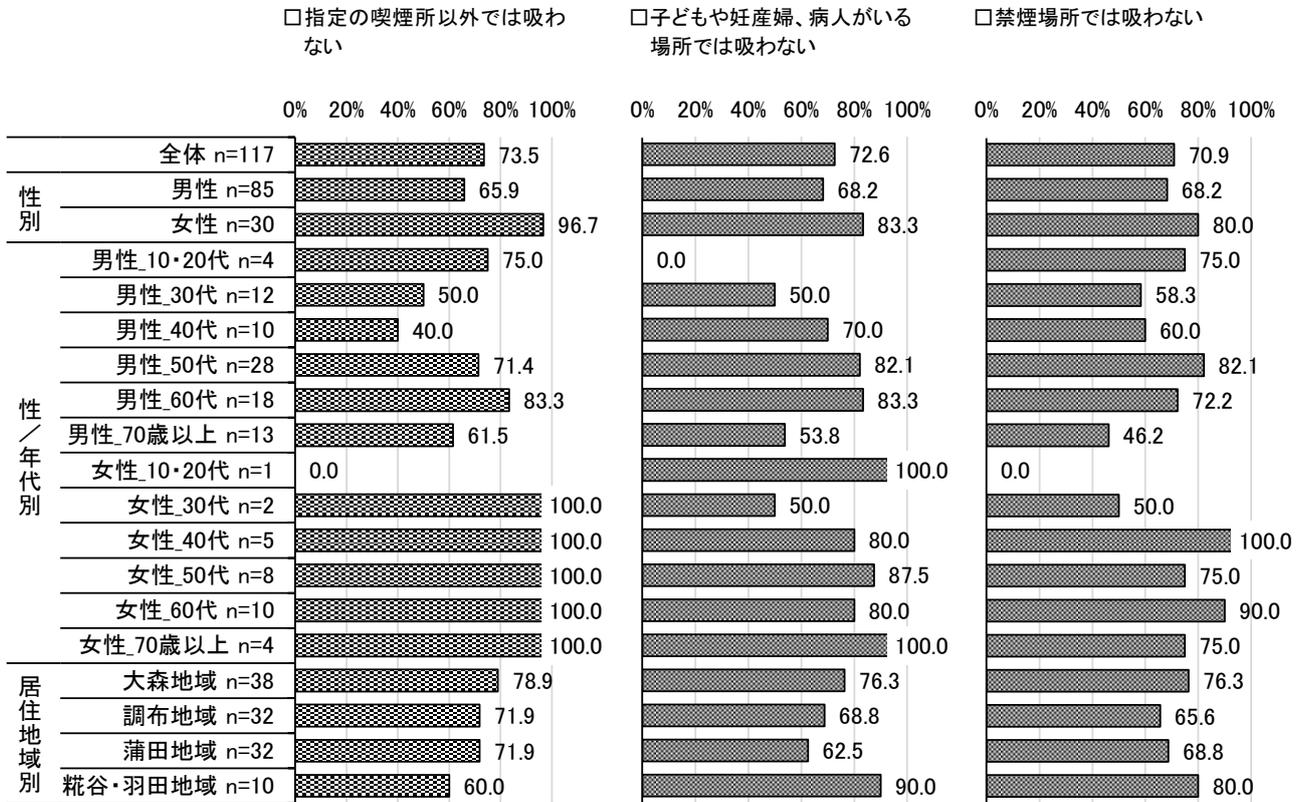
喫煙の際に気をつけていることについては、「指定の喫煙所以外では吸わない」が73.5%で最も高く、次いで「子どもや妊産婦、病人がいる場所では吸わない」が72.6%、「禁煙場所では吸わない」が70.9%となっている。

なお、「気をつけていることはない」は0.9%となっている。



■性別・性／年代別・居住地域別（上位6項目）

性別でみると、男性では「子どもや妊産婦、病人がいる場所では吸わない」、「禁煙場所では吸わない」、「混雑している場所では吸わない」がともに最も高く、女性では「指定の喫煙所以外では吸わない」が最も高くなっている。「指定の喫煙所以外では吸わない」は男性が65.9%、女性が96.7%と、女性が30.8ポイント上回っている。



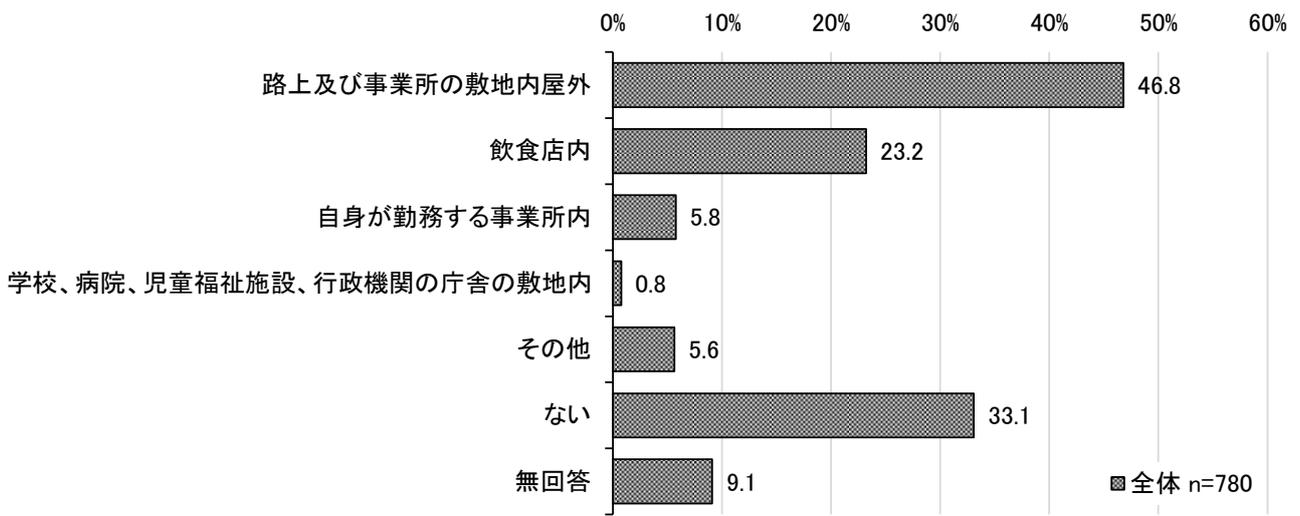
(3) 受動喫煙を経験した場所

◇「路上及び事業所の敷地内屋外」が4割後半で最も高くなっている

問 20 1年以内に、受動喫煙を経験された場所があれば教えてください。(いくつでも)

受動喫煙を経験した場所については、「路上及び事業所の敷地内屋外」が46.8%で最も高く、次いで「飲食店内」が23.2%、「自身が勤務する事業所内」が5.8%となっている。

なお、「ない」は33.1%となっている。

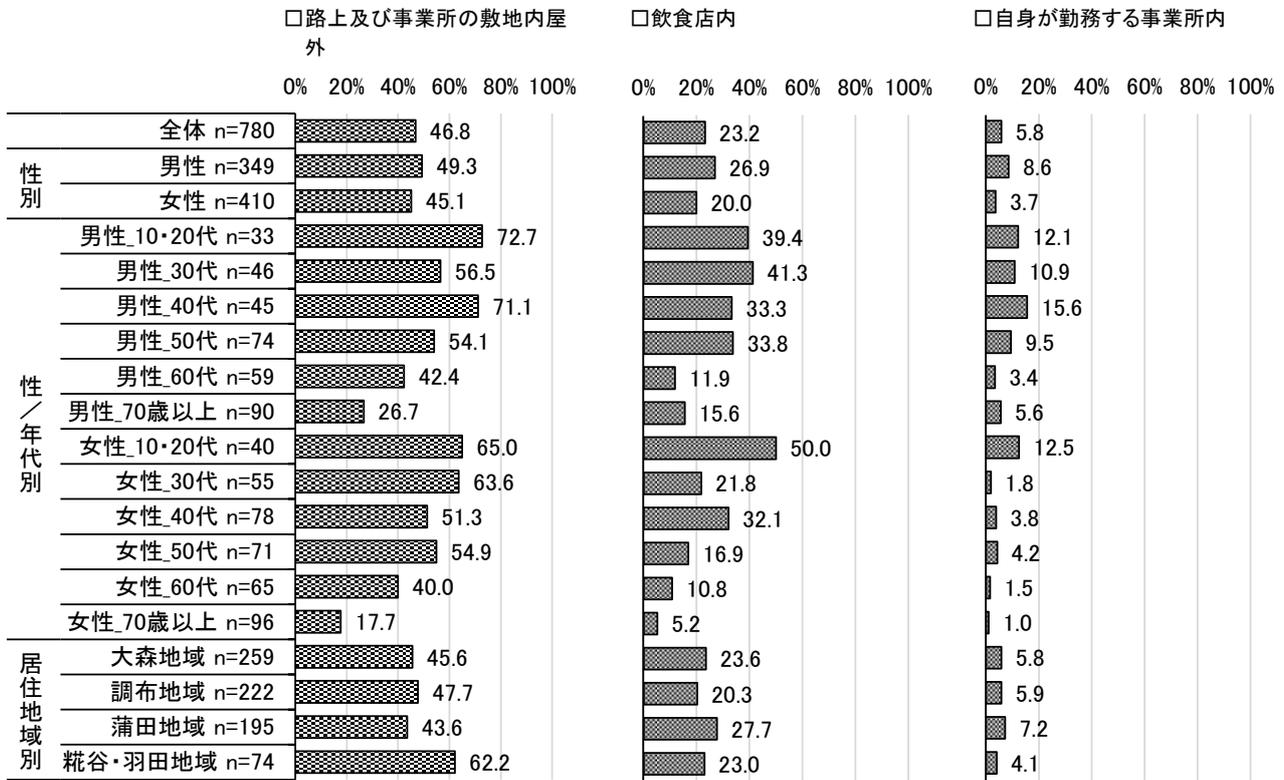


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、男性、女性ともに「路上及び事業所の敷地内屋外」が最も高くなっている。

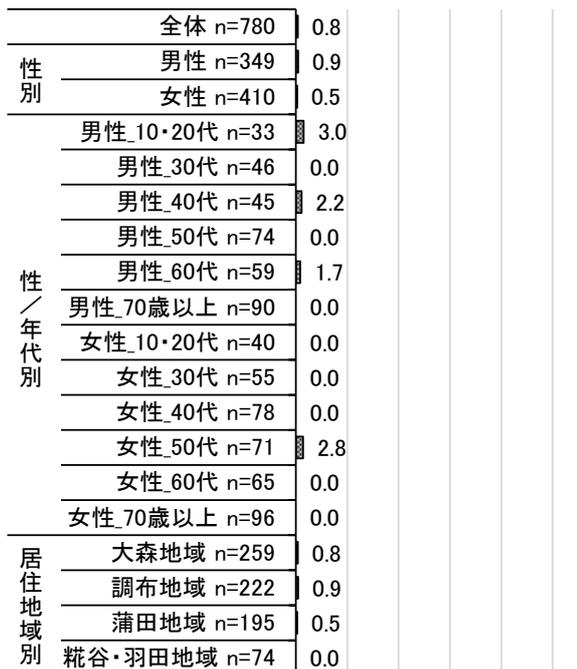
性／年代別でみると、「路上及び事業所の敷地内屋外」は男性10・20代、男性40代で7割台、女性10・20代、女性30代で6割台となっている。「飲食店内」は女性10・20代で5割と高くなっている。

居住地域別でみると、すべての地域で「路上及び事業所の敷地内屋外」が最も高く、糀谷・羽田地域で6割前半となっている。



□学校、病院、児童福祉施設、行政機関の庁舎の敷地内

0% 20% 40% 60% 80% 100%



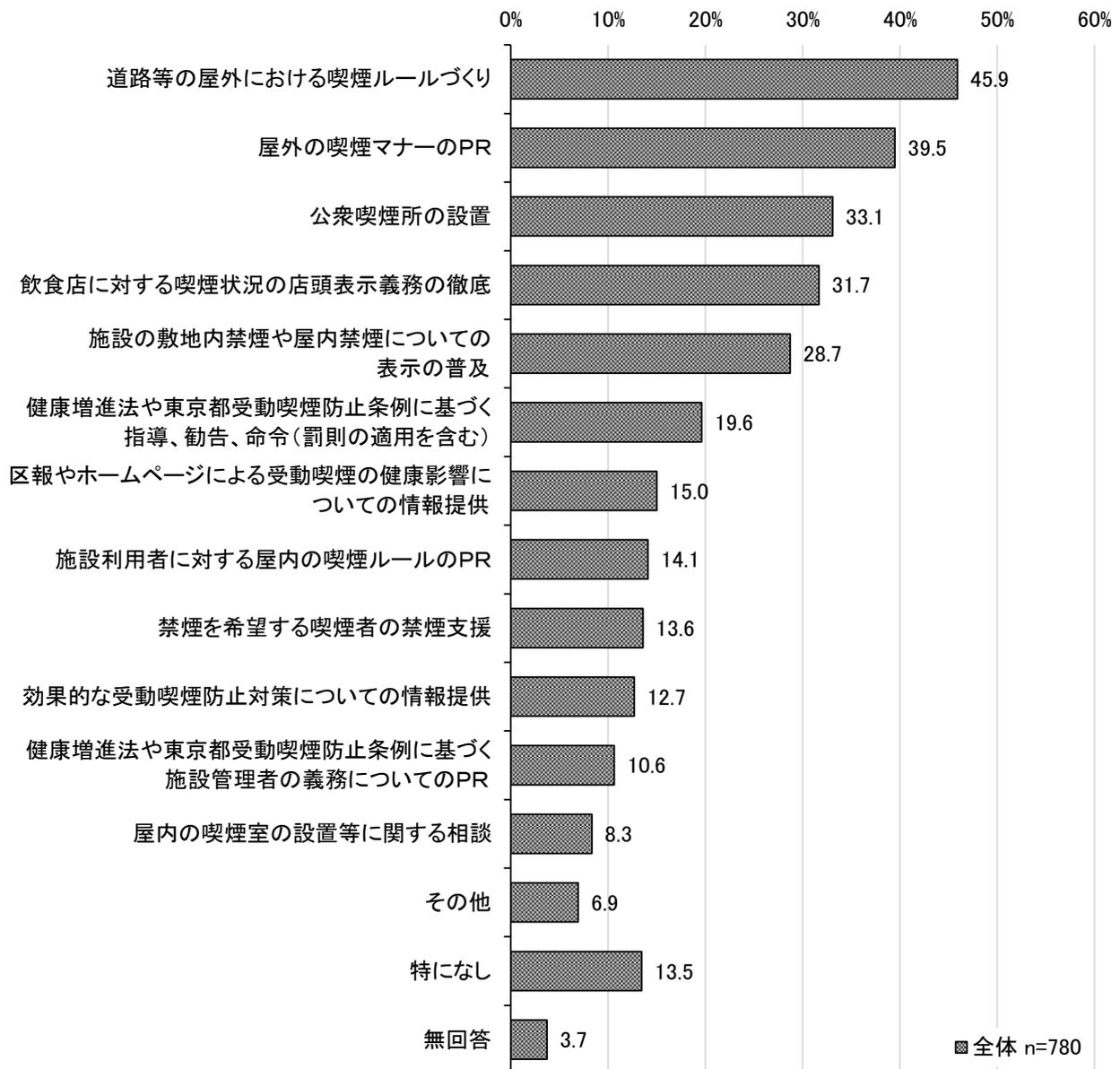
(4) 大田区が推進すべき、受動喫煙防止に向けた取組

◇「道路等の屋外における喫煙ルールづくり」が4割半ばで最も高くなっている

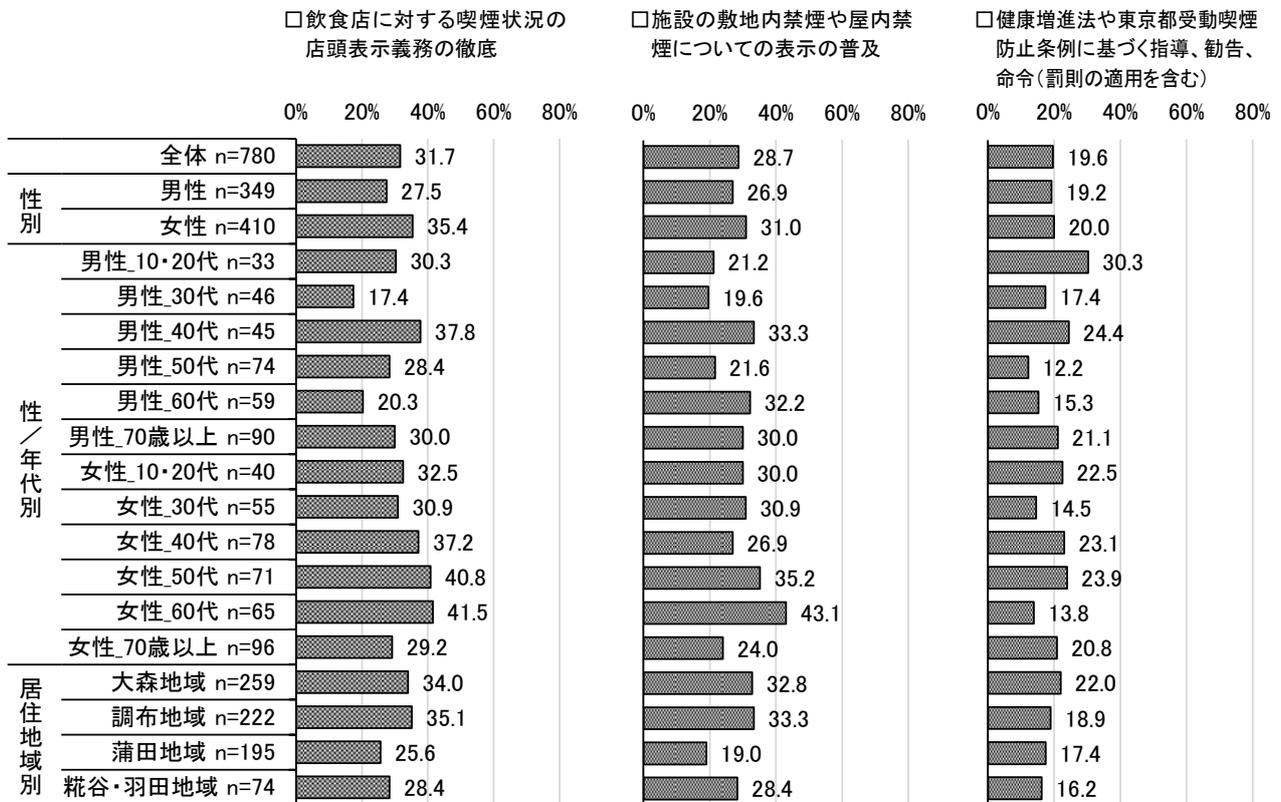
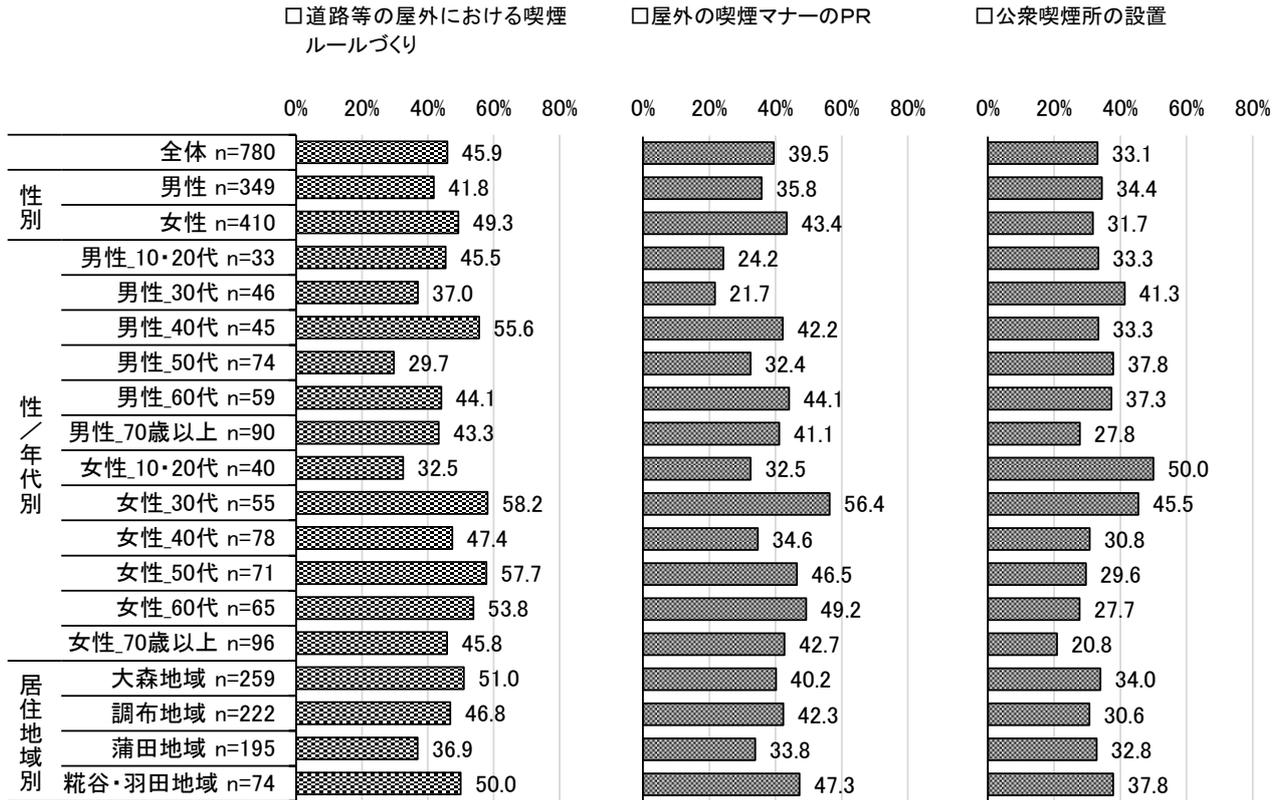
問 21 受動喫煙防止のために大田区に望むことは何ですか。(いくつでも)

大田区が推進すべき、受動喫煙防止に向けた取組については、「道路等の屋外における喫煙ルールづくり」が45.9%で最も高く、次いで「屋外の喫煙マナーのPR」が39.5%、「公衆喫煙所の設置」が33.1%となっている。

なお、「特になし」は13.5%となっている。



■性別・性／年代別・居住地域別（上位6項目）



性別で見ると、男性、女性ともに「道路等の屋外における喫煙ルールづくり」が最も高く、男性が41.8%、女性が49.3%と、女性が7.5ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「道路等の屋外における喫煙ルールづくり」は男性では40代で5割半ば、女性では30代、50代で5割後半と高くなっている。「屋外の喫煙マナーのPR」は女性30代で5割後半と高くなっている。

居住地域別で見ると、すべての地域で「道路等の屋外における喫煙ルールづくり」が最も高く、大森地域、糀谷・羽田地域で約5割となっている。

10 医療について

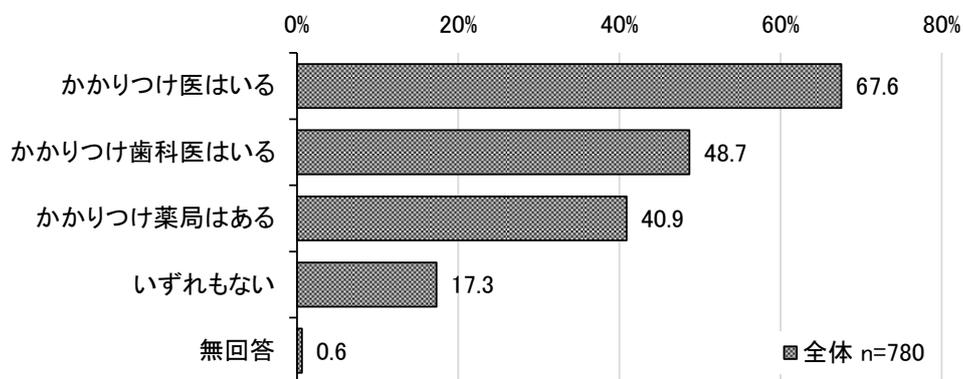
(1) かかりつけの医療機関

◇「かかりつけ医はいる」は6割後半となっている

問 22 かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局はありますか。(いくつでも)

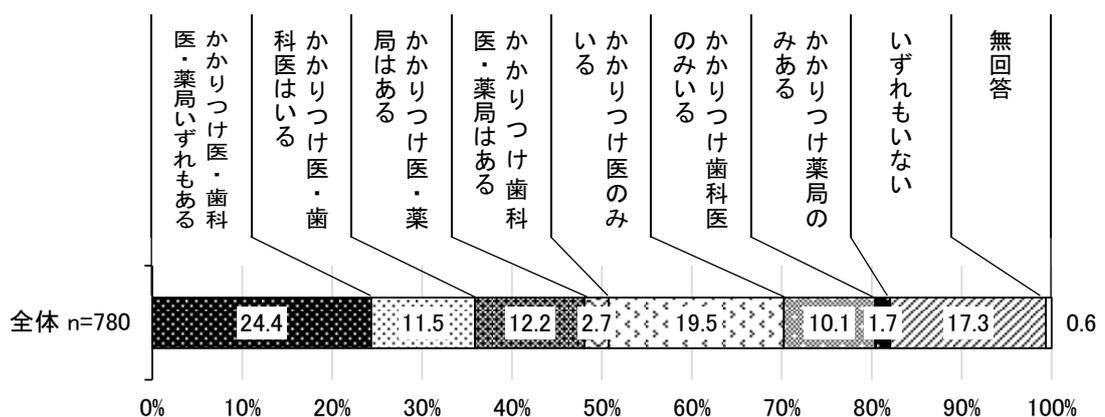
かかりつけの医療機関については、「かかりつけ医はいる」が67.6%で最も高く、次いで「かかりつけ歯科医はいる」が48.7%、「かかりつけ薬局はある」が40.9%となっている。

なお、「いずれもない」は17.3%となっている。



■ かかりつけの医療機関の状況

かかりつけの医療機関の状況については、「かかりつけ医・歯科医・薬局いずれもある」が24.4%、「かかりつけ医のみいる」が19.5%となっている。

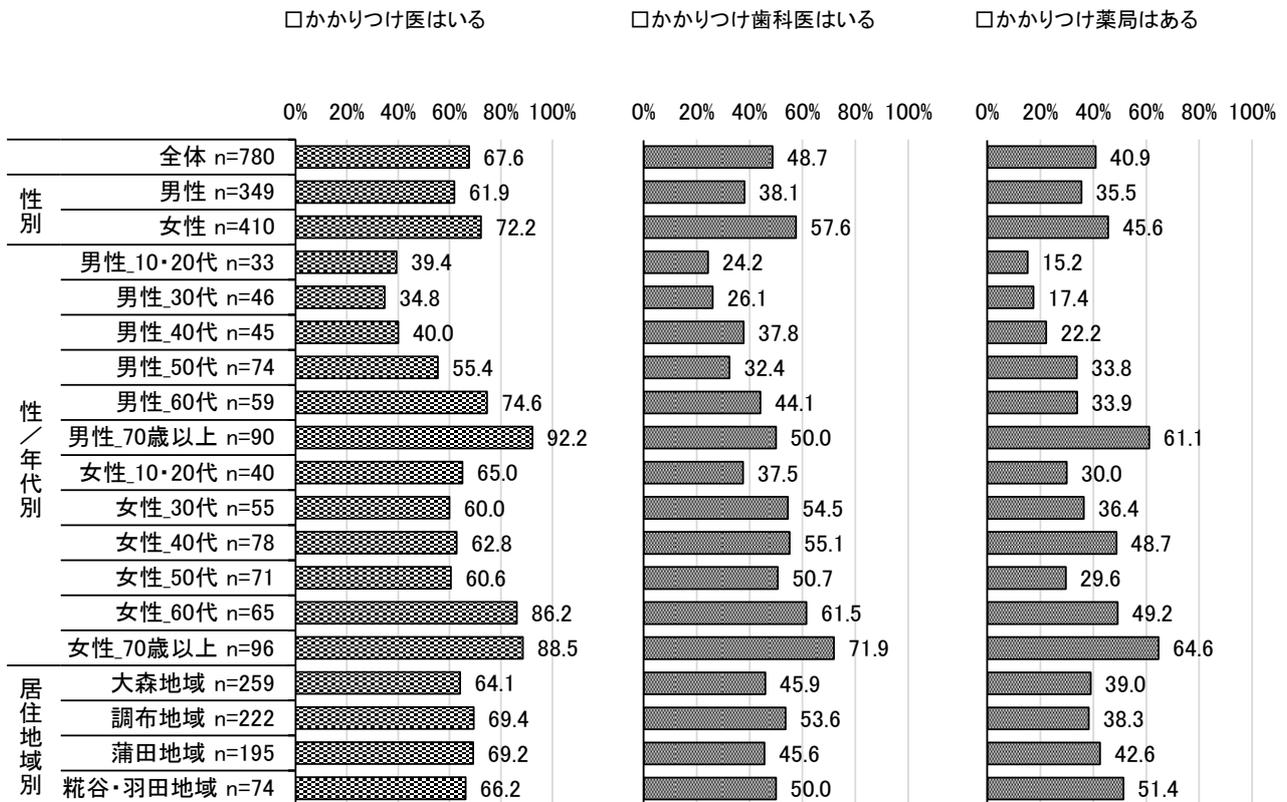


■性別・性／年代別・居住地域別

性別で見ると、「かかりつけ医はいる」は男性が61.9%、女性が72.2%と、女性が10.3ポイント上回っている。「かかりつけ歯科医はいる」は男性が38.1%、女性が57.6%と、女性が19.5ポイント上回っている。「かかりつけ薬局はある」は男性が35.5%、女性が45.6%と、女性が10.1ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「かかりつけ医はいる」は男性では70歳以上で9割前半、女性では60代、70歳以上で8割後半と高くなっている。「かかりつけ歯科医はいる」は男性では70歳以上で5割、女性では70歳以上で7割前半と高くなっている。「かかりつけ薬局はある」は男性では70歳以上で6割前半、女性では70歳以上で6割半ばと高くなっている。

居住地域別で見ると、すべての地域で「かかりつけ医はいる」が6割台となっている。



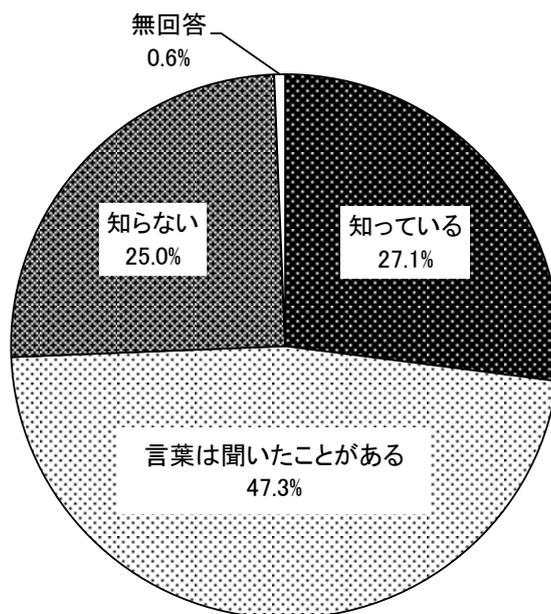
(2) 「在宅医療」の認知度

◇「知っている」は2割後半となっている

問 23 在宅医療の制度や仕組みについて知っていますか。(1つのみ)

“在宅医療”の認知度については、「言葉は聞いたことがある」が47.3%で最も高く、次いで「知っている」が27.1%、「知らない」が25.0%となっている。

全体 n=780

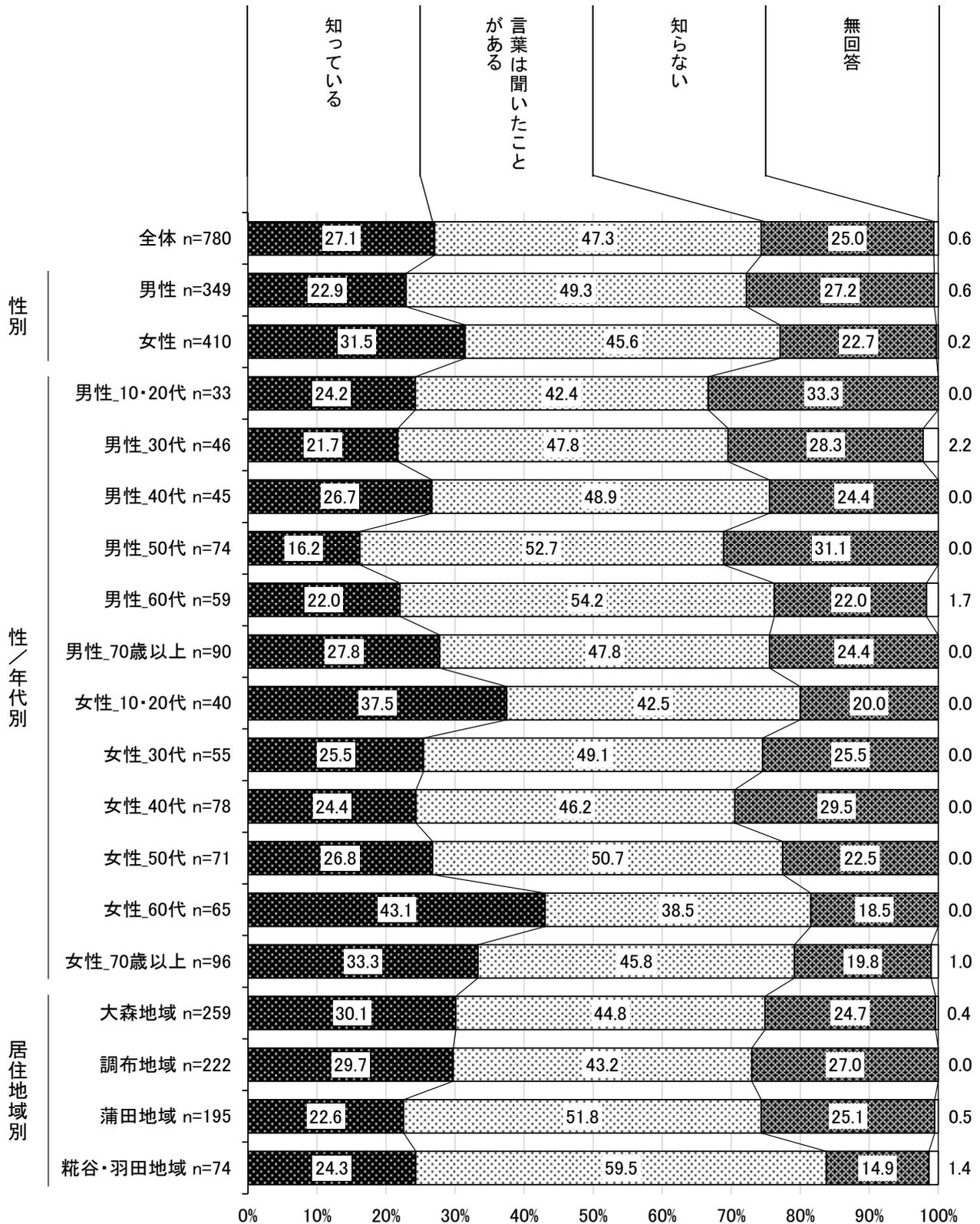


■性別・性/年代別・居住地域別

性別でみると、「知っている」は男性が22.9%、女性が31.5%と、女性が8.6ポイント上回っている。

性/年代別でみると、「知っている」は男性では50代を除いて2割台となっている。女性では60代で4割前半と高くなっている。

居住地域別でみると、「知っている」は大森地域、調布地域で約3割と高くなっている。



11 災害時の対応について

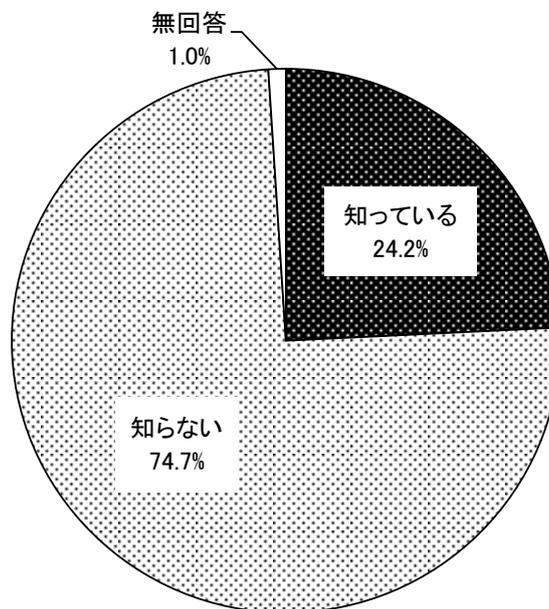
(1) 災害時の緊急医療救護所及び軽症者救護所の認知度

◇「知っている」は2割半ばとなっている

問 24 区内で震度6弱以上の地震が発生した場合、地域のクリニックや診療所は休診となり、災害発生後から概ね72時間、病院や学校の近接地に緊急医療救護所・軽症者救護所が開設されることを知っていますか。(1つのみ)

災害時の緊急医療救護所及び軽症者救護所の認知度については、「知っている」が24.2%、「知らない」が74.7%と、「知らない」が50.5ポイント上回っている。

全体 n=780

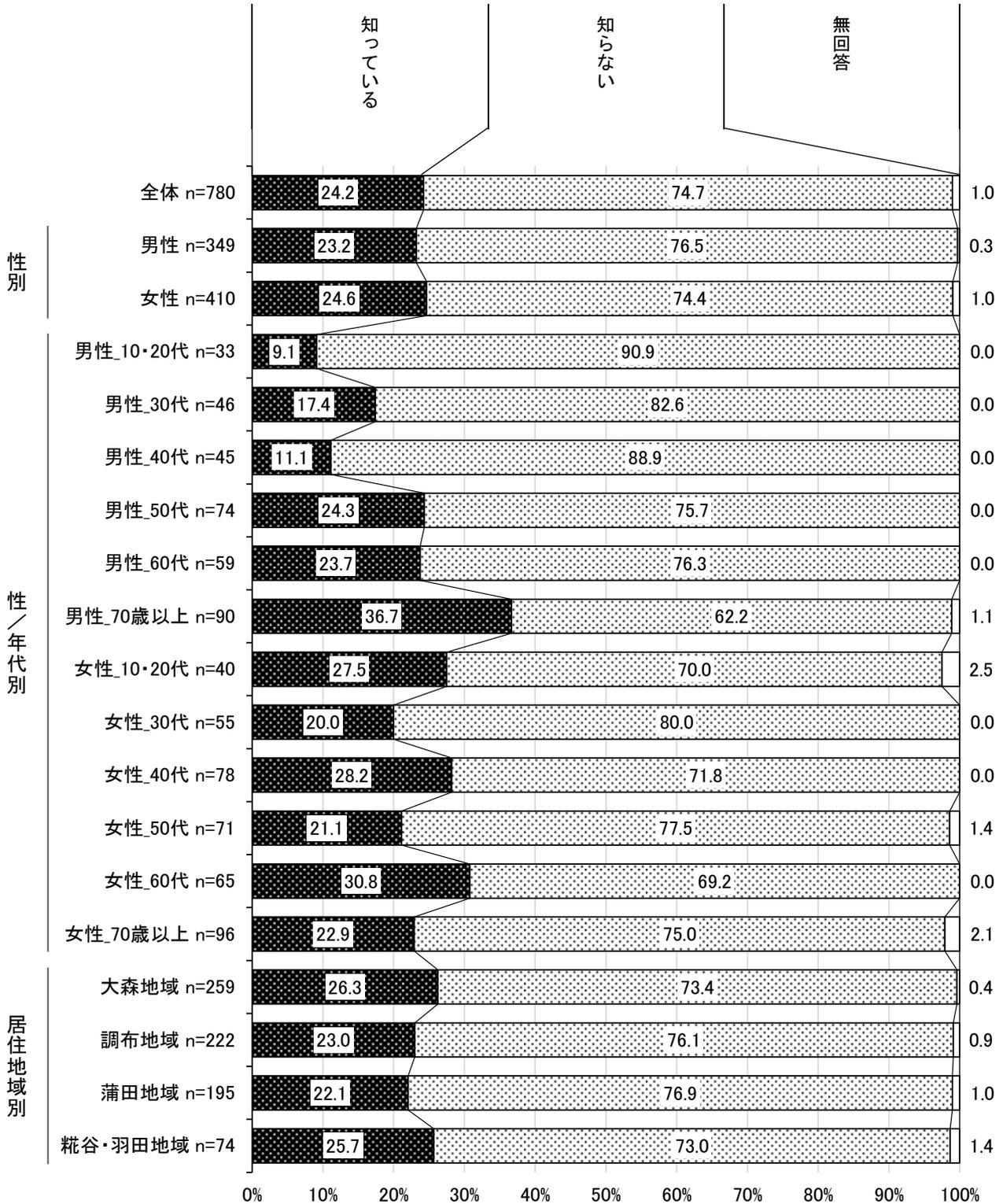


■性別・性／年代別・居住地域別

性別で見ると、大きな差はみられない。

性／年代別で見ると、「知っている」は男性では70歳以上で3割後半、女性では60代で約3割と高くなっている。

居住地域別で見ると、すべての地域で「知っている」は2割台となっている。



12 教育について

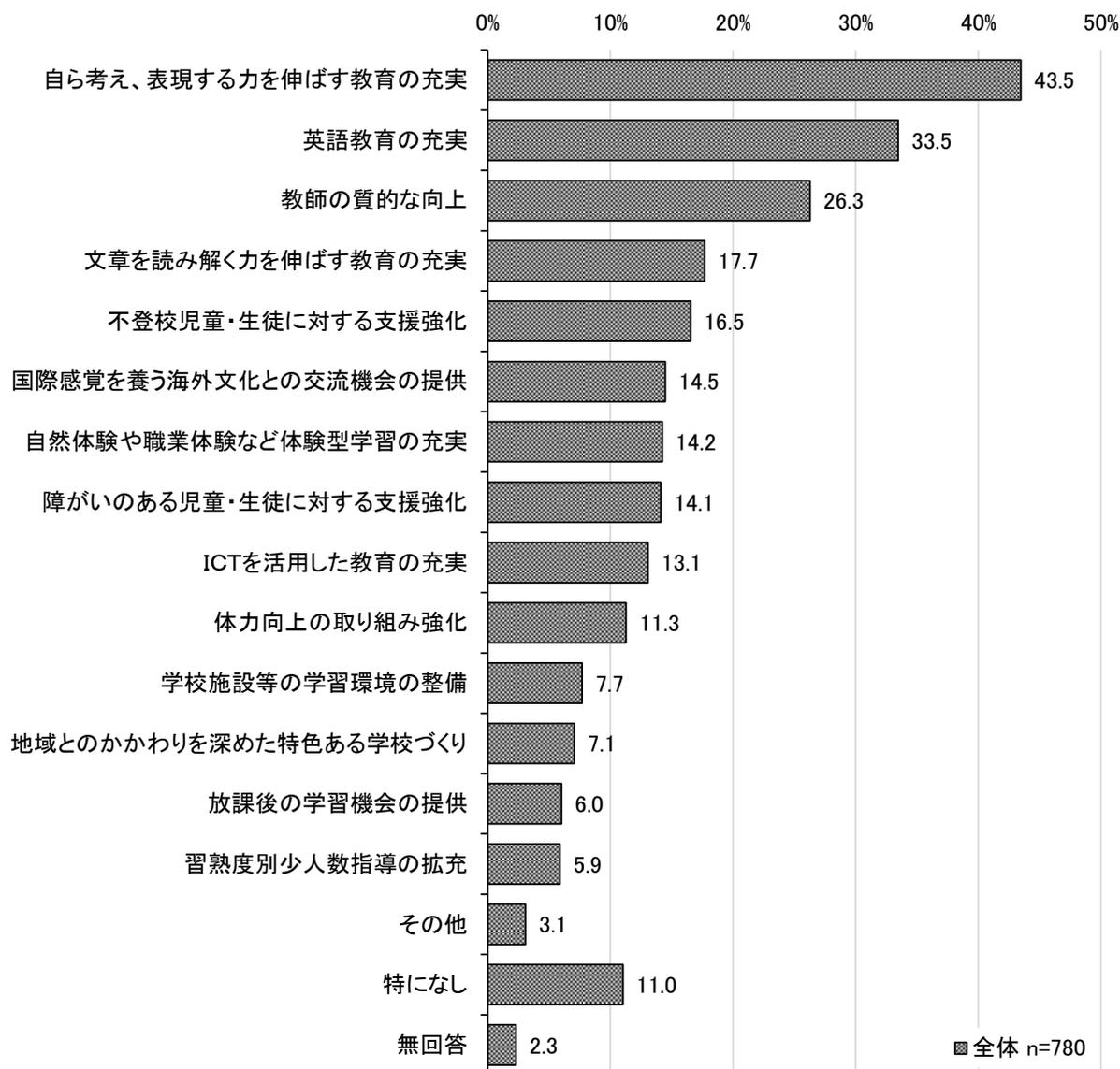
(1) 教育の充実に向けて、大田区が重点的に取り組むべきこと

◇「自ら考え、表現する力を伸ばす教育の充実」が4割前半で最も高くなっている

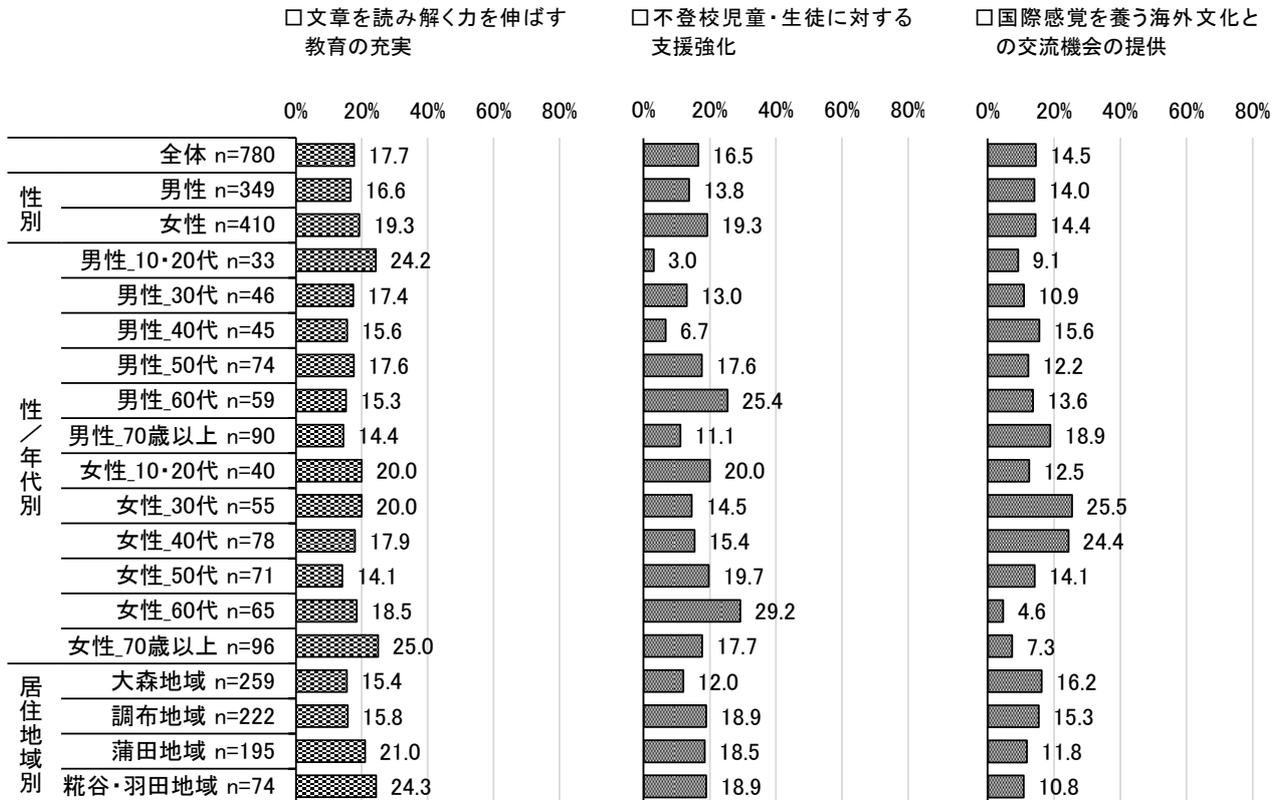
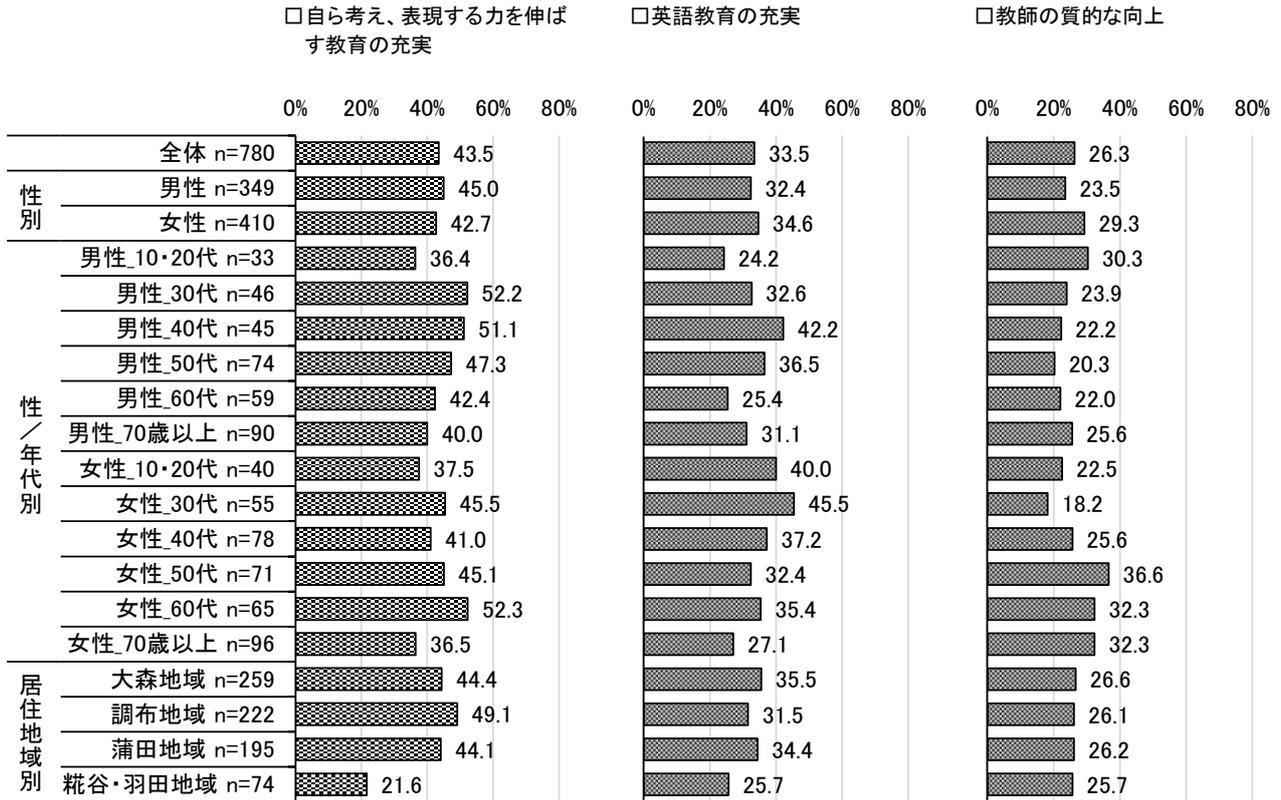
問 25 「教育の充実」に向けて、大田区はどのような課題に対して重点的に取り組むべきだと思いますか。(3つまで)

教育の充実に向けて、大田区が重点的に取り組むべきことについては、「自ら考え、表現する力を伸ばす教育の充実」が43.5%で最も高く、次いで「英語教育の充実」が33.5%、「教師の質的な向上」が26.3%となっている。

なお、「特になし」は11.0%となっている。



■性別・性／年代別・居住地域別（上位6項目）



性別でみると、男性、女性ともに「自ら考え、表現する力を伸ばす教育の充実」が最も高くなっている。

性／年代別でみると、「自ら考え、表現する力を伸ばす教育の充実」は男性30代、男性40代、女性60代で5割前半となっている。「英語教育の充実」は男性では40代で4割前半、女性では30代で4割半ばと高くなっている。

居住地域別でみると、大森地域、調布地域、蒲田地域では「自ら考え、表現する力を伸ばす教育の充実」が、糀谷・羽田地域では「英語教育の充実」、「教師の質的な向上」がともに最も高くなっている。

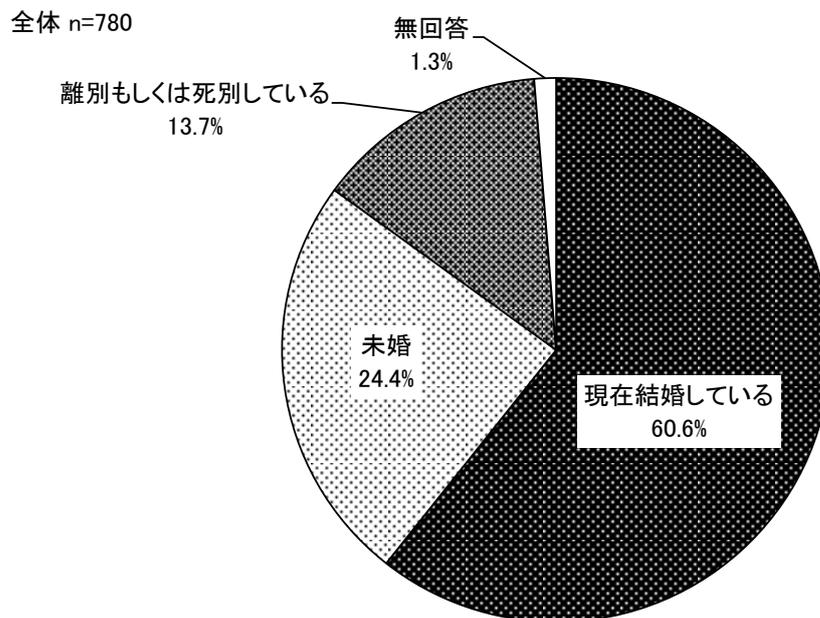
13 結婚について

(1) 婚姻状況

◇「現在結婚している」は約6割となっている

問 26 あなたの婚姻状況を教えてください。(1つのみ)

婚姻状況については、「現在結婚している」が60.6%で最も高く、次いで「未婚」が24.4%、「離別もしくは死別している」が13.7%となっている。

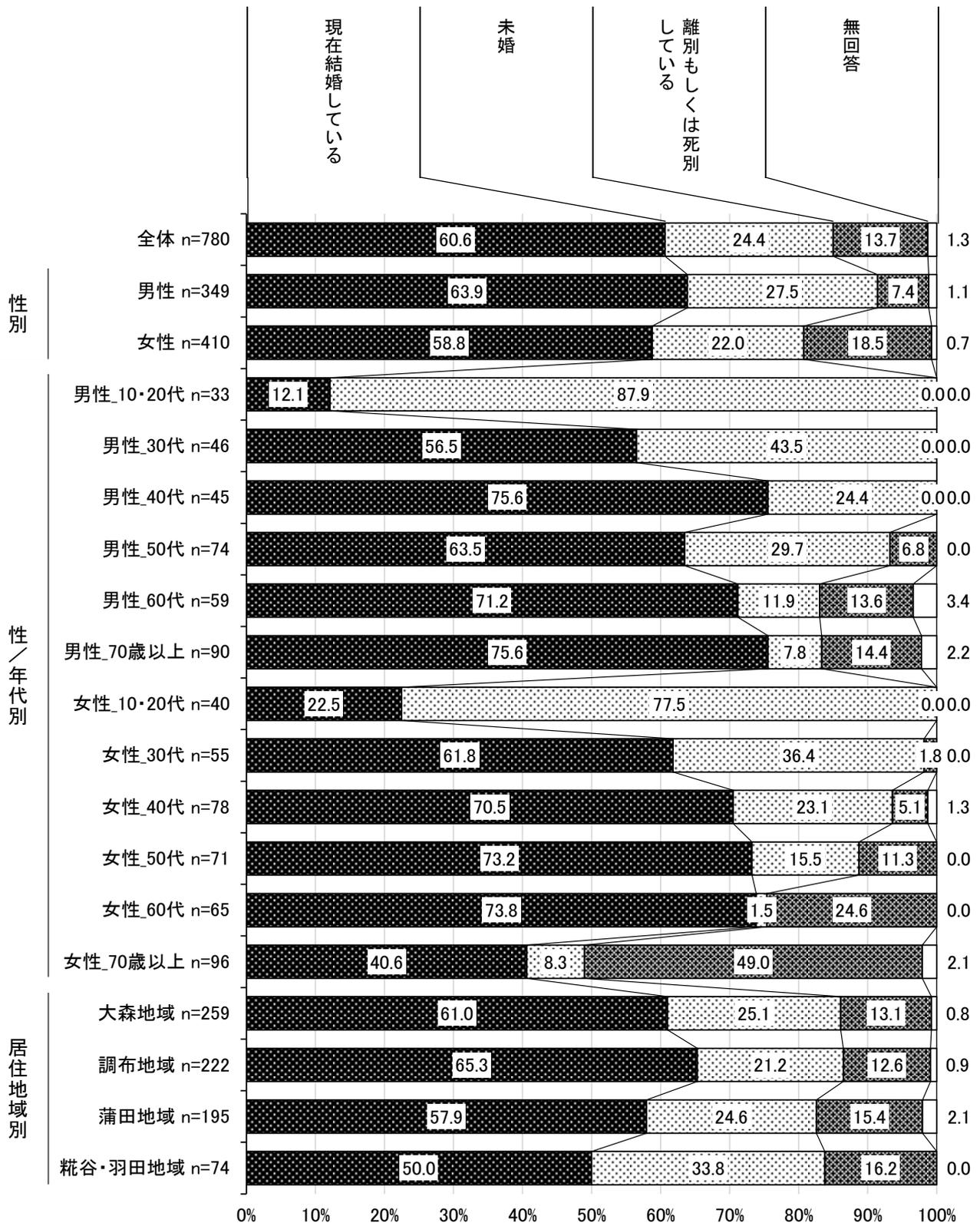


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、「現在結婚している」は男性が63.9%、女性が58.8%と、男性が5.1ポイント上回っている。「離別もしくは死別している」は男性が7.4%、女性が18.5%と、女性が11.1ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「現在結婚している」は男性40代、男性60代、男性70歳以上、女性40代から女性60代で7割台となっている。

居住地域別でみると、「現在結婚している」は調布地域で6割半ばと高くなっている。



(2) 結婚に対する考え方

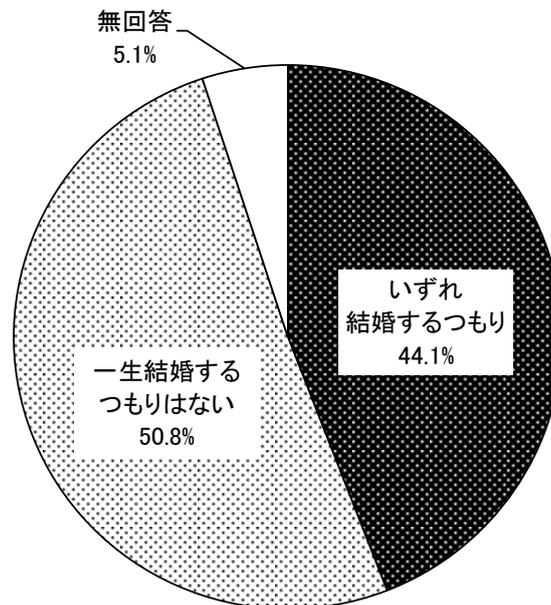
◇「いずれ結婚するつもり」は4割半ばとなっている

【問 26 で「未婚」「離別もしくは死別している」と回答した方に伺います。】

問 26-1 自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対する考えを教えてください。
(1つのみ)

結婚に対する考え方については、「いずれ結婚するつもり」が44.1%、「一生結婚するつもりはない」が50.8%と、「一生結婚するつもりはない」が6.7ポイント上回っている。

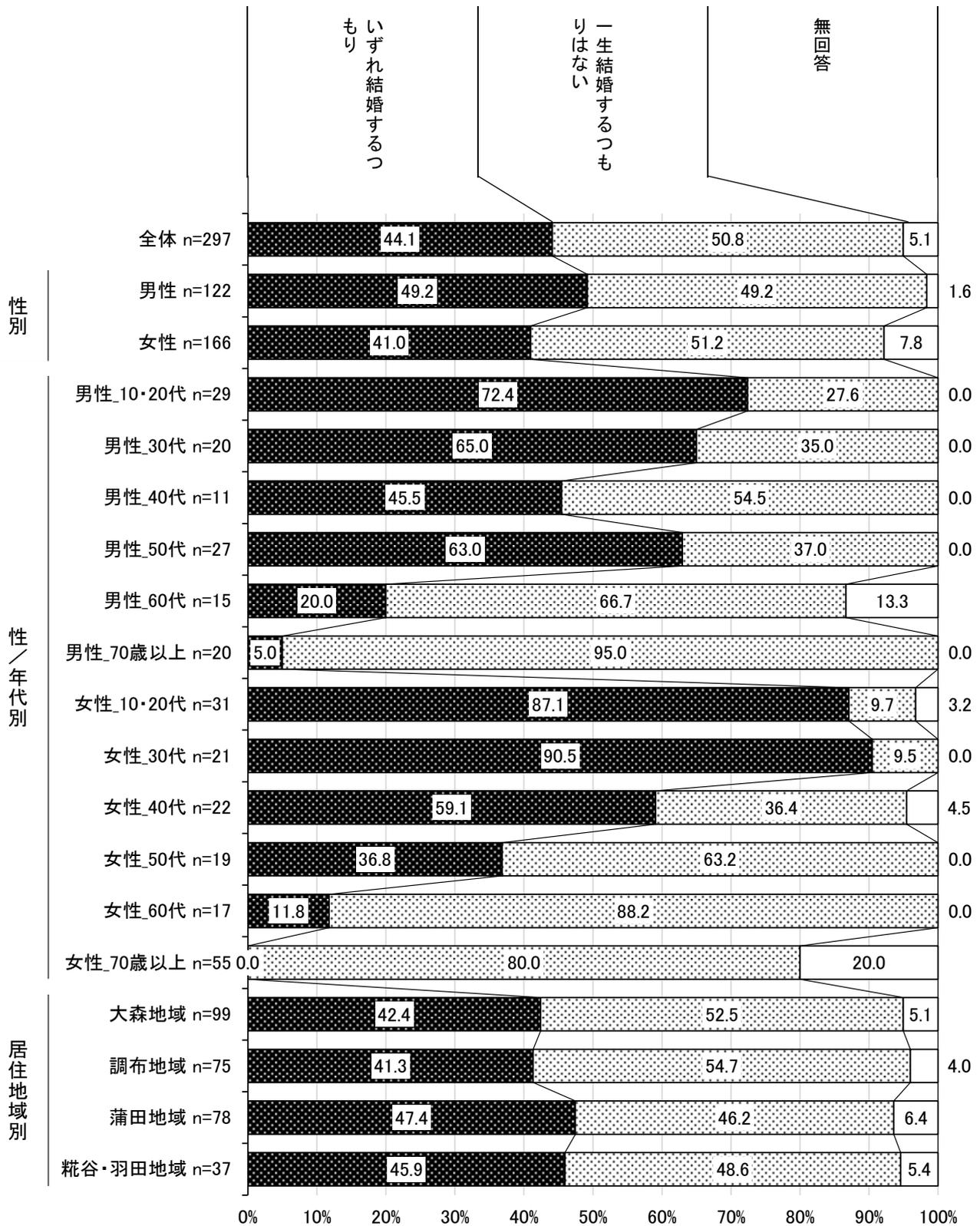
全体 n=297



■性別・性/年代別・居住地域別

性別でみると、「いずれ結婚するつもり」は男性が49.2%、女性が41.0%と、男性が8.2ポイント上回っている。

居住地域別でみると、「いずれ結婚するつもり」は蒲田地域で4割後半と高くなっている。



(3) 子どもの人数

問 26-2 問 26 で「現在結婚している」と回答した方は①と②についてお答えいただき、問 26-1 で「いずれ結婚するつもり」と回答した方は③についてお答えください。
(それぞれ1つのみ)

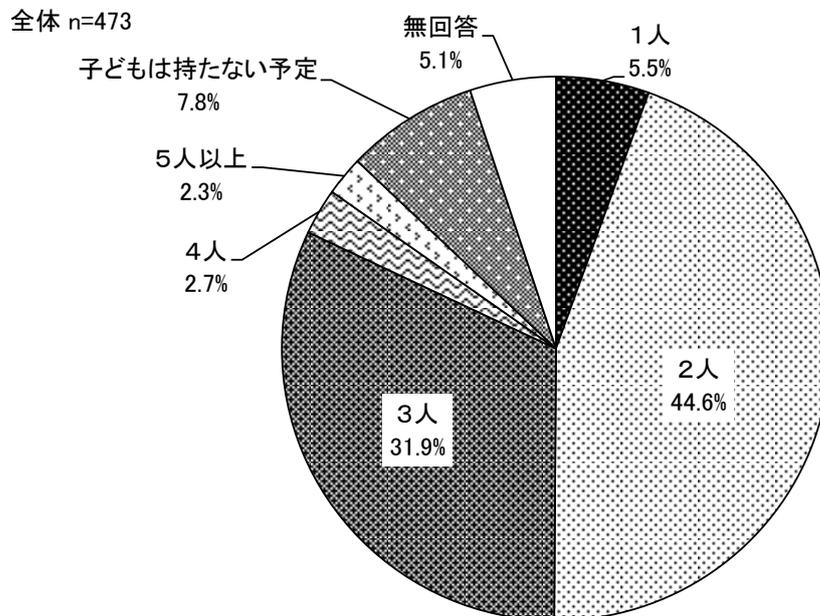
【問 26 で「現在結婚している」と回答した方に伺います。】

①理想的な子どもの数は何人ですか。

◇「2人」が4割半ばで最も高くなっている

理想的な子どもの数については、「2人」が 44.6%で最も高く、次いで「3人」が 31.9%、「1人」が 5.5%となっている。

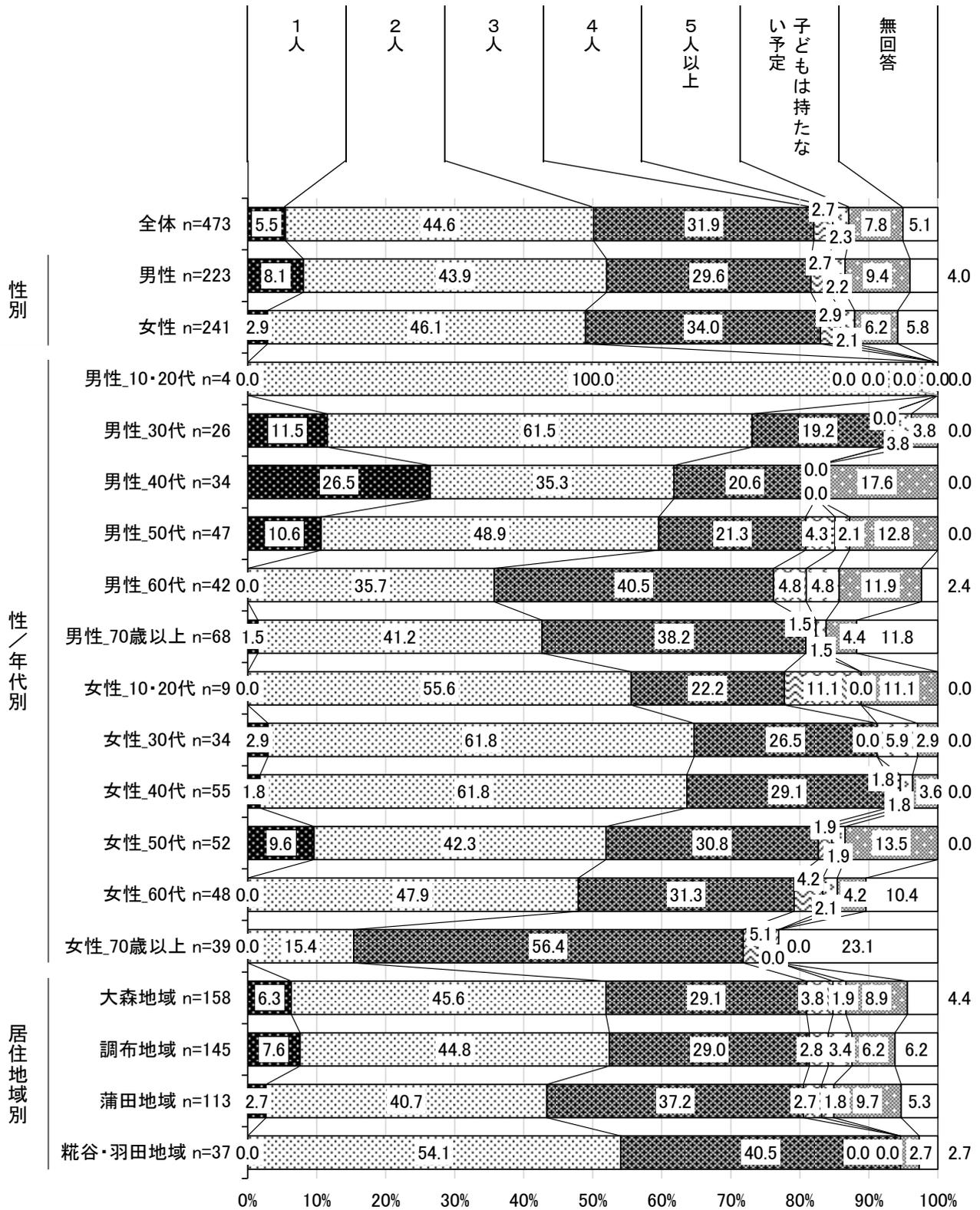
なお、「子どもは持たない予定」は 7.8%となっている。



■性別・性/年代別・居住地域別

性別でみると、男性、女性ともに「2人」が最も高くなっている。

居住地域別でみると、「2人」は糞谷・羽田地域で5割半ばと高くなっている。



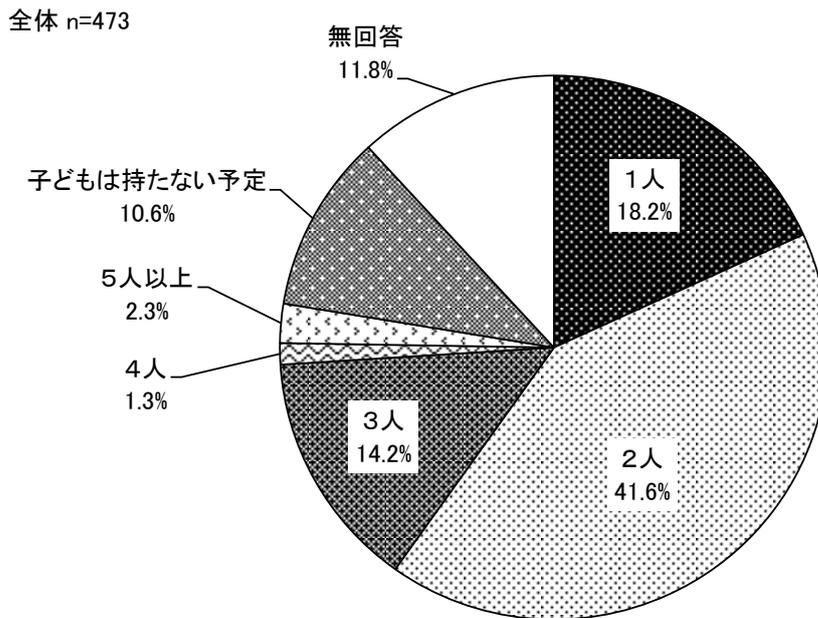
【問 26 で「現在結婚している」と回答した方に伺います。】

②全部で何人の子どもの持つつもりですか。

◇「2人」が4割前半で最も高くなっている

全部で何人の子どもの持つかについては、「2人」が41.6%で最も高く、次いで「1人」が18.2%、「3人」が14.2%となっている。

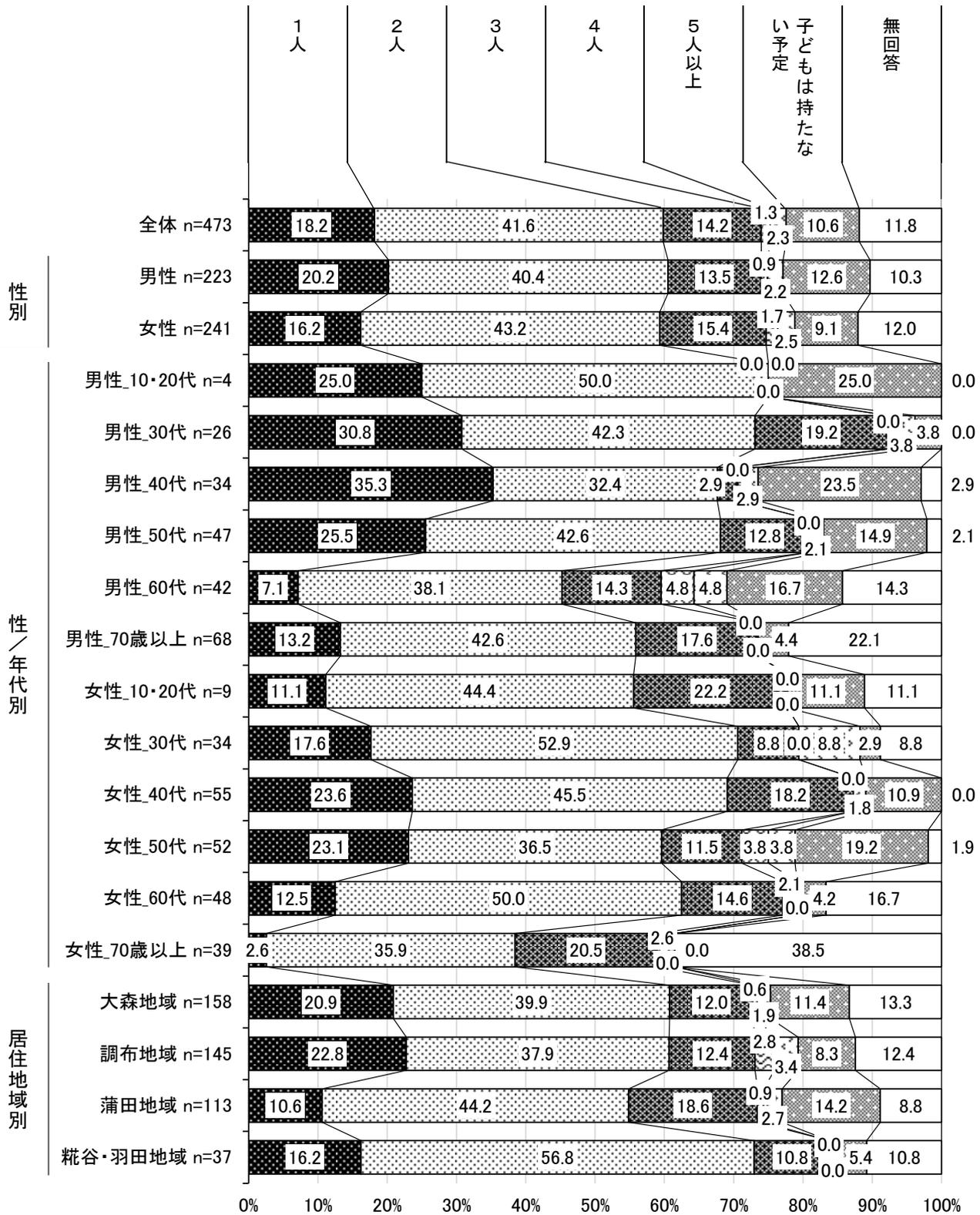
なお、「子どもは持たない予定」は10.6%となっている。



■性別・性/年代別・居住地域別

性別でみると、男性、女性ともに「2人」が最も高くなっている。

居住地域別でみると、「2人」は糞谷・羽田地域で5割後半と高くなっている。



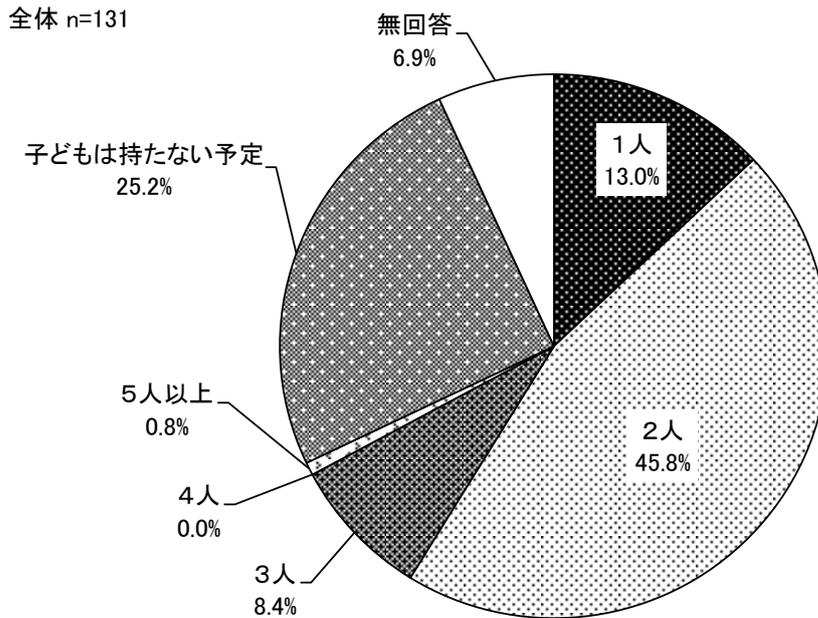
【問 26-1で「いずれ結婚するつもり」と回答した方に伺います。】

③今後結婚した場合、子どもは何人くらいほしいですか。

◇「2人」が4割半ばで最も高くなっている

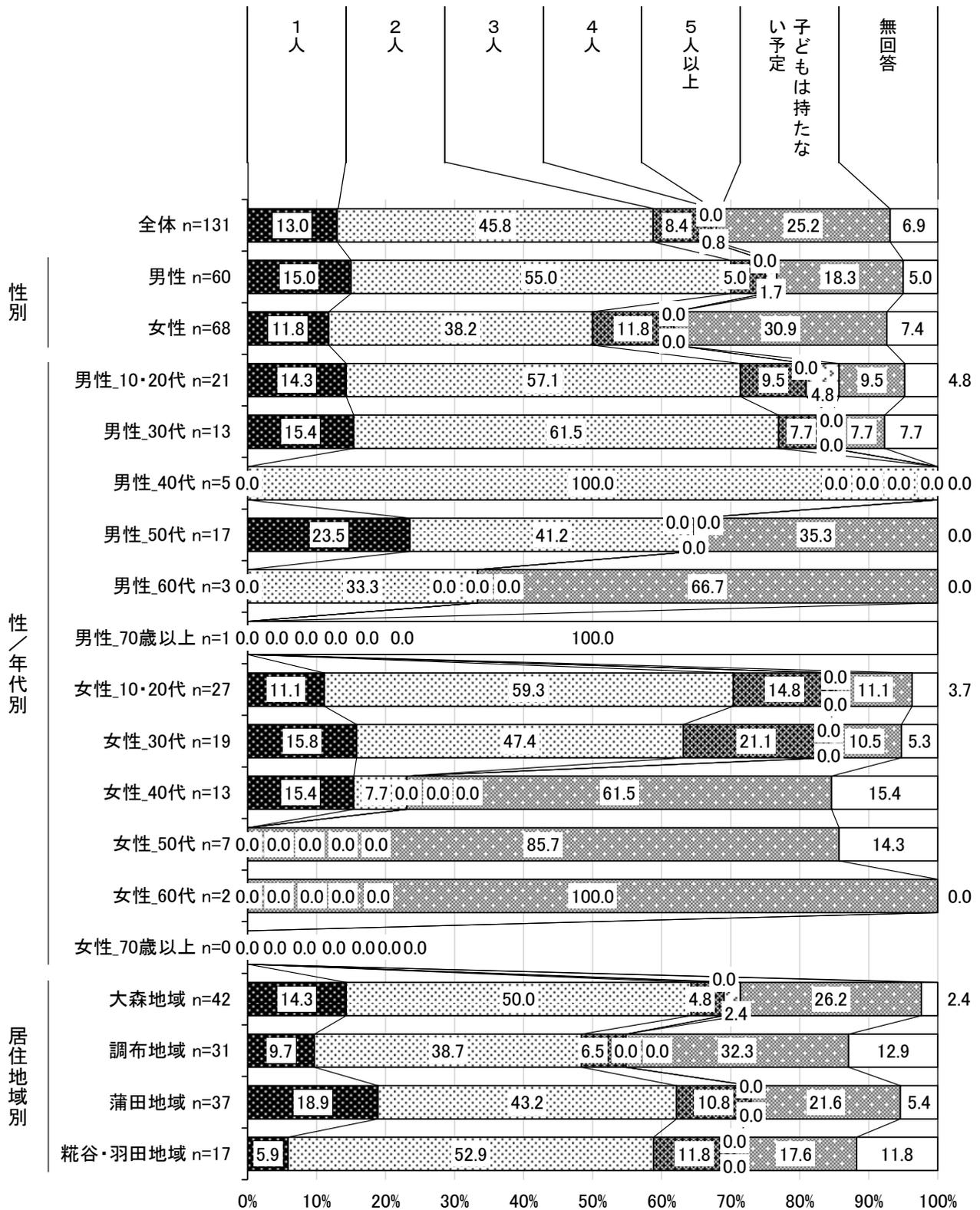
今後結婚した場合、何人の子どもがほしいかについては、「2人」が45.8%で最も高く、次いで「1人」が13.0%、「3人」が8.4%となっている。

なお、「子どもは持たない予定」は25.2%となっている。



■性別・性/年代別・居住地域別

性別でみると、男性、女性ともに「2人」が最も高くなっている。



14 食品ロス・フードドライブについて

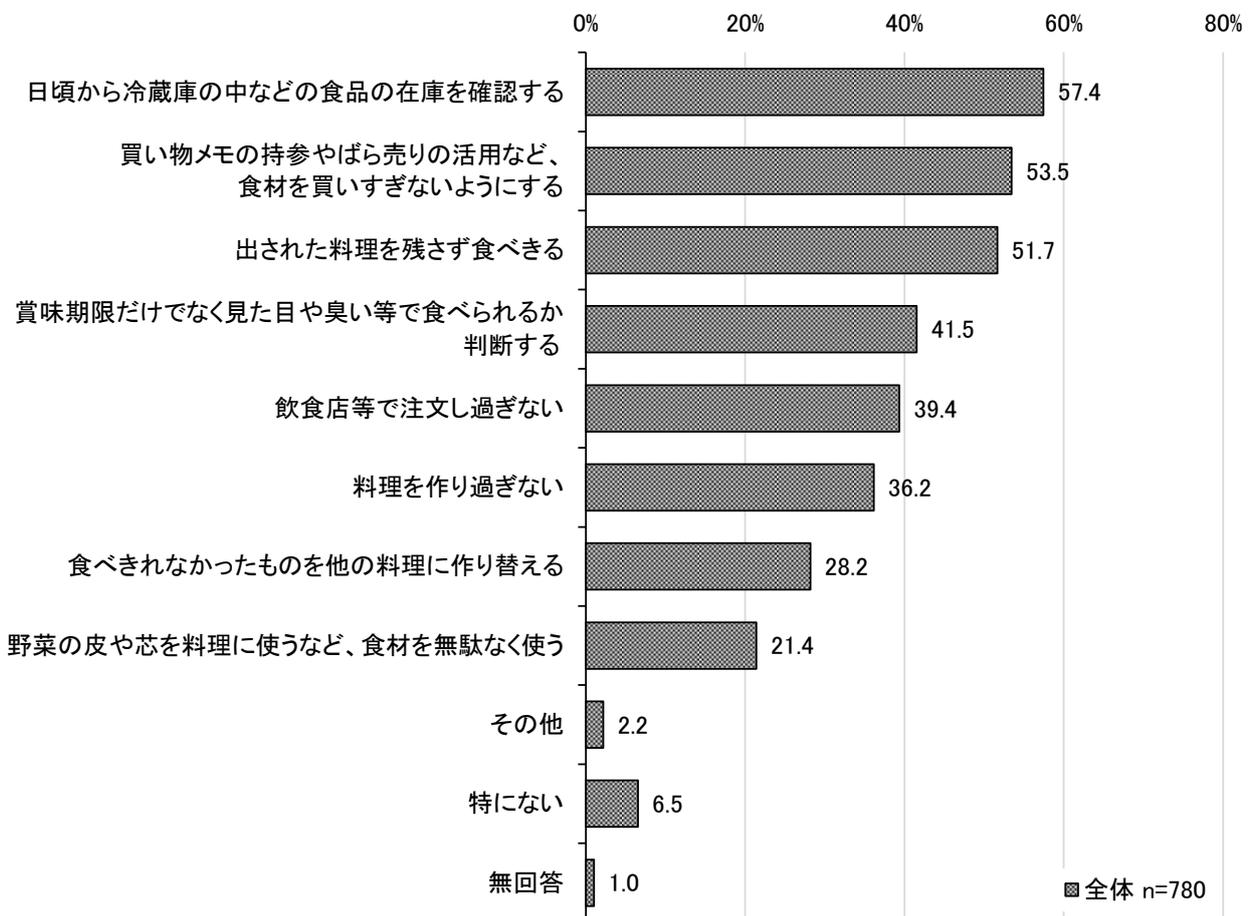
(1) 「食品ロス」を減らすための取組

◇「日頃から冷蔵庫の中などの食品の在庫を確認する」が5割後半で最も高くなっている

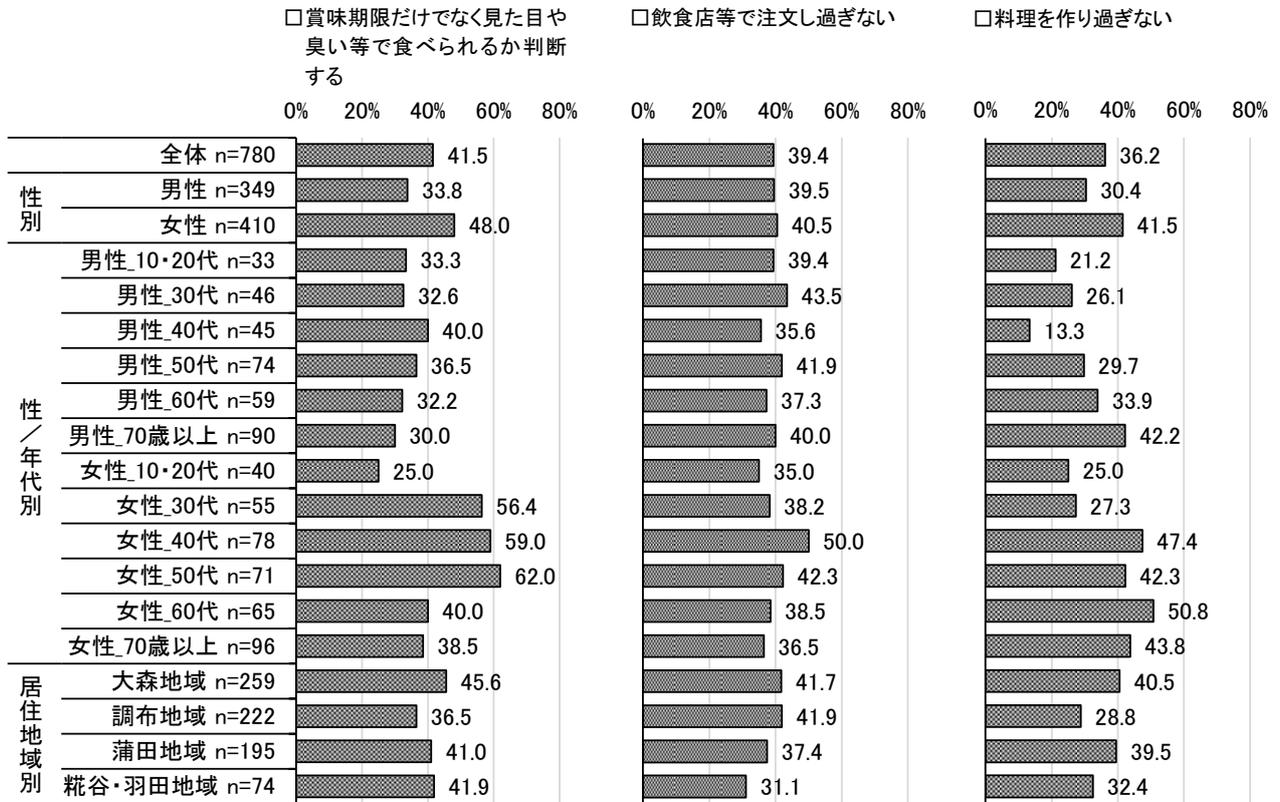
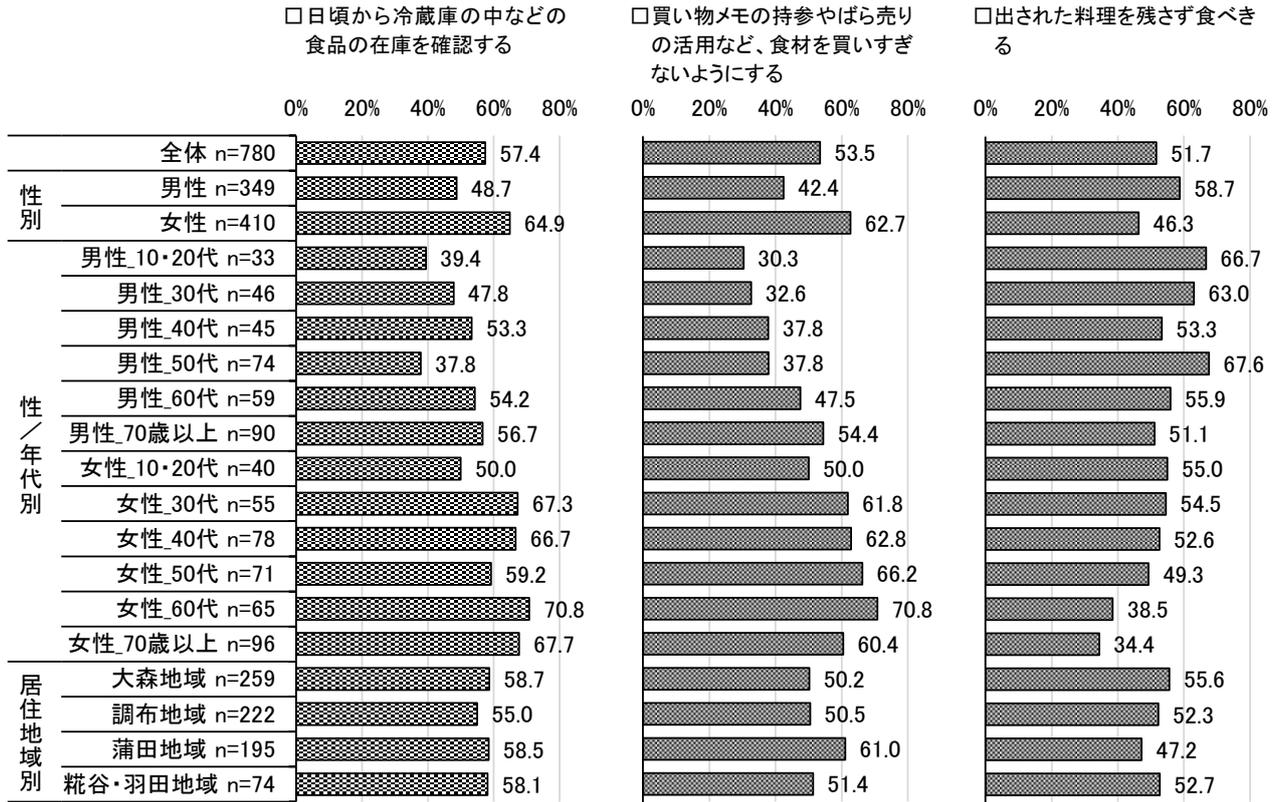
**問 27 あなたは、生活の中で「食品ロス」を減らすために取り組んでいることはありますか。
(いくつでも)**

食品ロスを減らすための取組については、「日頃から冷蔵庫の中などの食品の在庫を確認する」が57.4%で最も高く、次いで「買い物メモの持参やばら売りの活用など、食材を買いすぎないようにする」が53.5%、「出された料理を残さず食べきる」が51.7%となっている。

なお、「特にない」は6.5%となっている。



■性別・性／年代別・居住地域別（上位6項目）



性別でみると、男性では「出された料理を残さず食べきる」が最も高く、女性では「日頃から冷蔵庫の中などの食品の在庫を確認する」が最も高くなっている。「出された料理を残さず食べきる」は男性が58.7%、女性が46.3%と、男性が12.4ポイント上回っている。「日頃から冷蔵庫の中などの食品の在庫を確認する」は男性が48.7%、女性が64.9%と、女性が16.2ポイント上回っている。

性／年代別でみると、女性60代では「日頃から冷蔵庫の中などの食品の在庫を確認する」、「買い物メモの持参やばら売りの活用など、食材を買いすぎないようにする」がともに約7割と高くなっている。「賞味期限だけでなく見た目や臭い等で食べられるか判断する」は女性50代で6割前半と高くなっている。

居住地域別でみると、大森地域、調布地域、糀谷・羽田地域では「日頃から冷蔵庫の中などの食品の在庫を確認する」が、蒲田地域では「買い物メモの持参やばら売りの活用など、食材を買いすぎないようにする」が最も高くなっている。

(2) 「フードドライブ」への提供意向

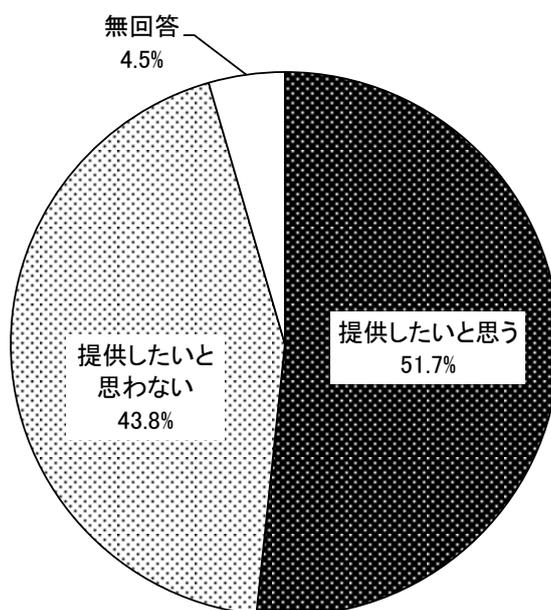
◇「提供したいと思う」は5割前半となっている

問 28 ご家庭の未利用食品を集めて、必要としている団体等に提供する活動を「フードドライブ」といいます。

あなたの家で未利用食品が出た際、フードドライブに提供したいと思いますか。(1つのみ)

フードドライブへの提供意向については、「提供したいと思う」が51.7%、「提供したいと思わない」が43.8%と、「提供したいと思う」が7.9ポイント上回っている。

全体 n=780

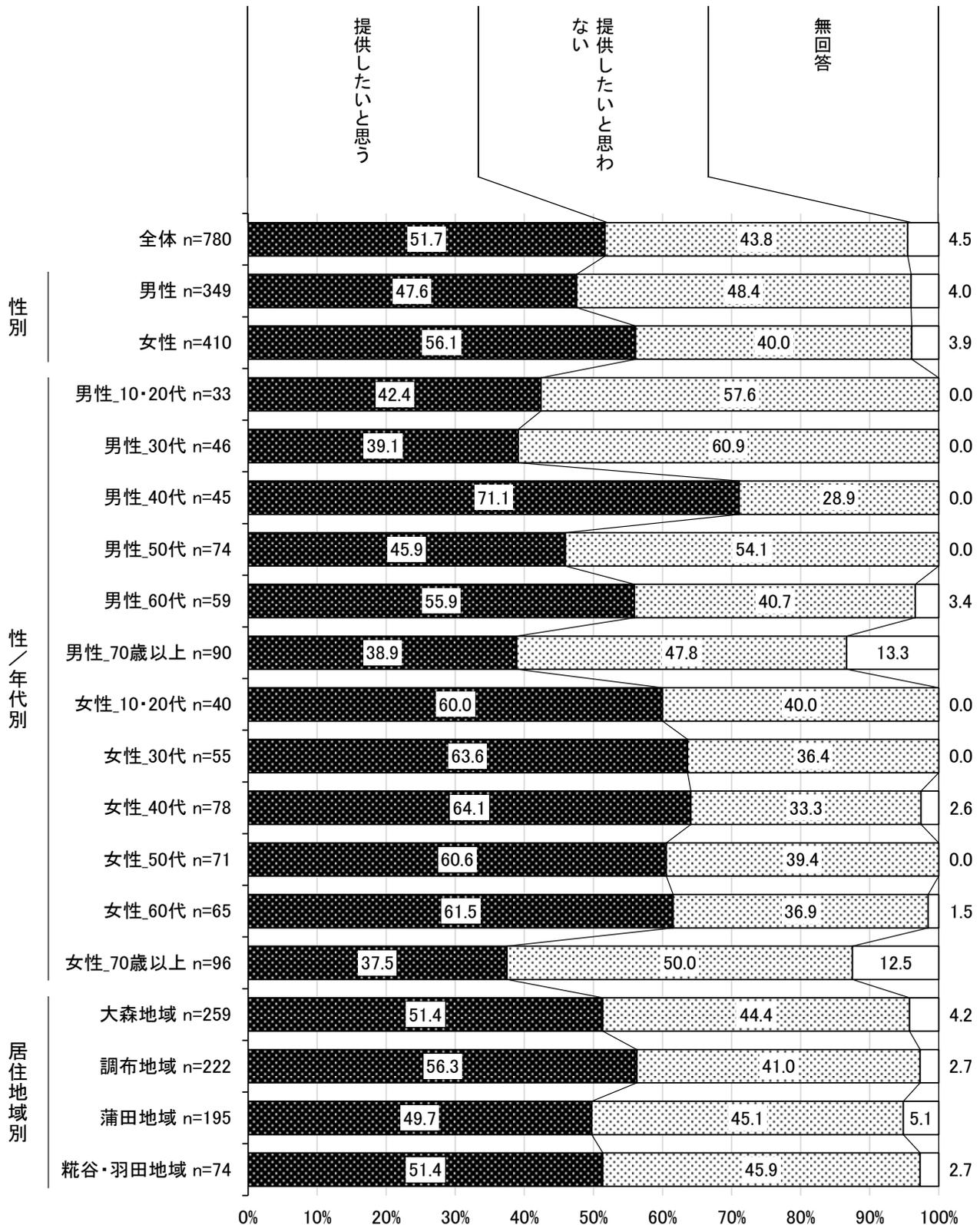


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、「提供したいと思う」は男性が47.6%、女性が56.1%と、女性が8.5ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「提供したいと思う」は男性では40代で7割前半と高くなっている。女性では70歳以上を除いて6割台となっている。

居住地域別でみると、「提供したいと思う」は調布地域で5割後半と高くなっている。



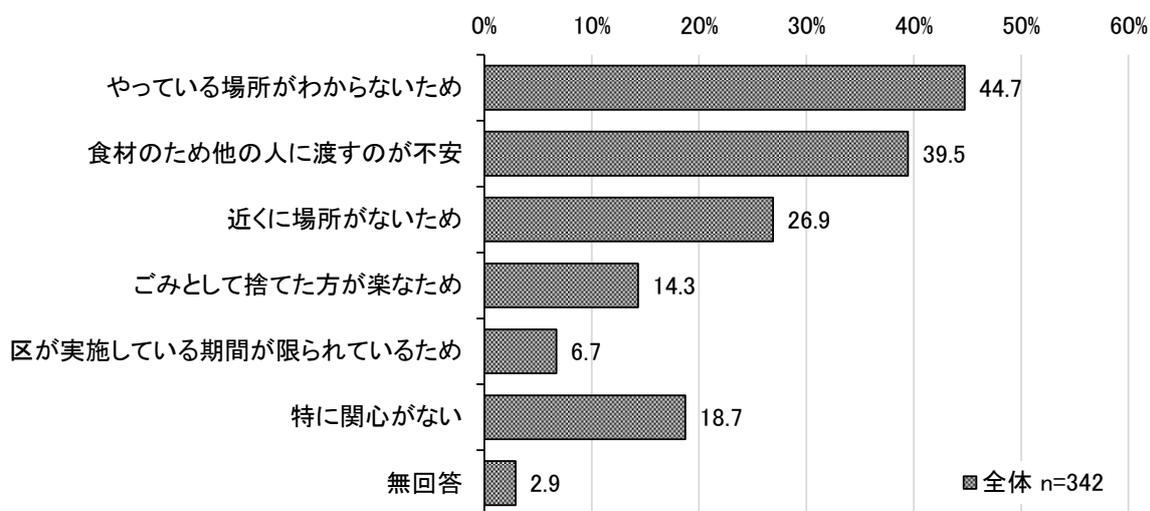
(3) 提供したいと思わない理由

◇「やっている場所がわからないため」が4割半ばで最も高くなっている

【問 28 で「提供したいと思わない」と回答した方に伺います。】

問 28-1 提供したいと思わない理由は何ですか。(いくつでも)

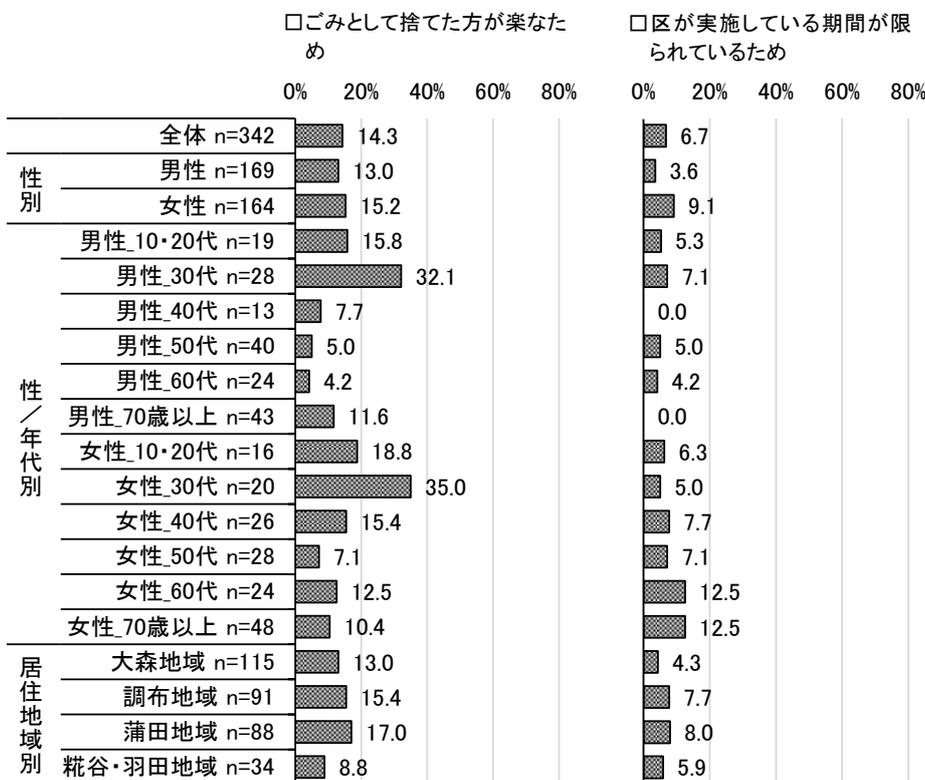
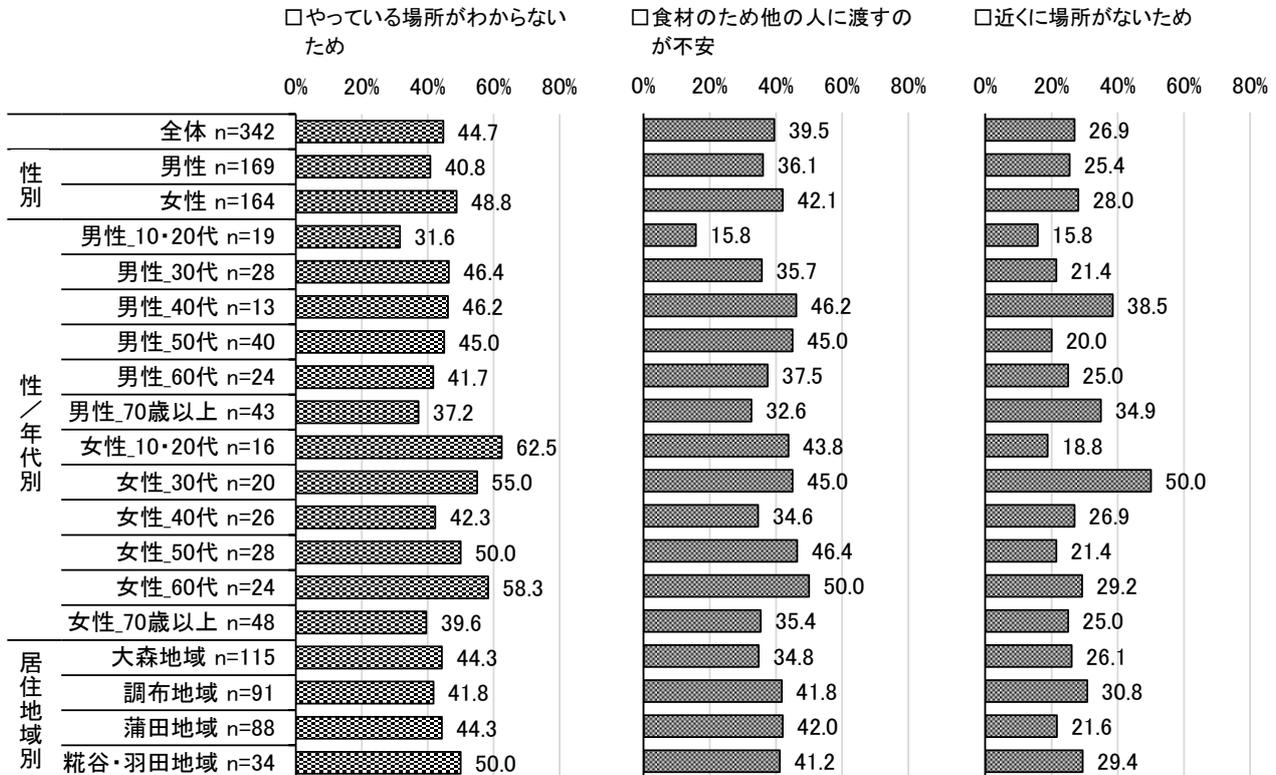
提供したいと思わない理由については、「やっている場所がわからないため」が 44.7%で最も高く、次いで「食材のため他の人に渡すのが不安」が 39.5%、「近くに場所がないため」が 26.9%となっている。なお、「特に関心がない」は 18.7%となっている。



■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、男性、女性ともに「やっている場所がわからないため」が最も高く、男性が40.8%、女性が48.8%と、女性が8.0ポイント上回っている。

居住地域別でみると、すべての地域で「やっている場所がわからないため」が最も高く、調布地域では「食材のため他の人に渡すのが不安」も最も高くなっている。



15 地球環境について

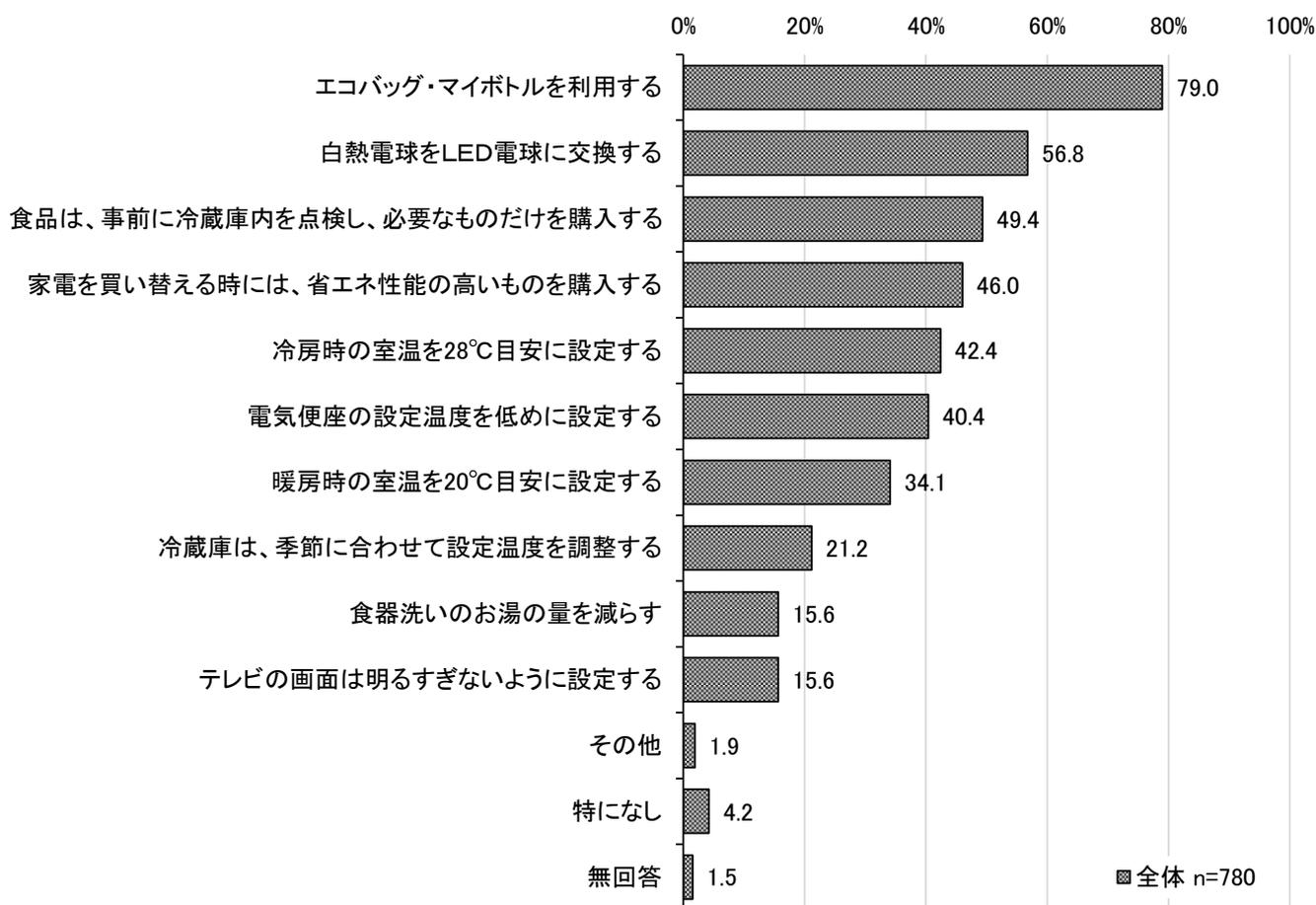
(1) 家庭で実施している環境配慮行動

◇「エコバッグ・マイボトルを利用する」が7割後半で最も高くなっている

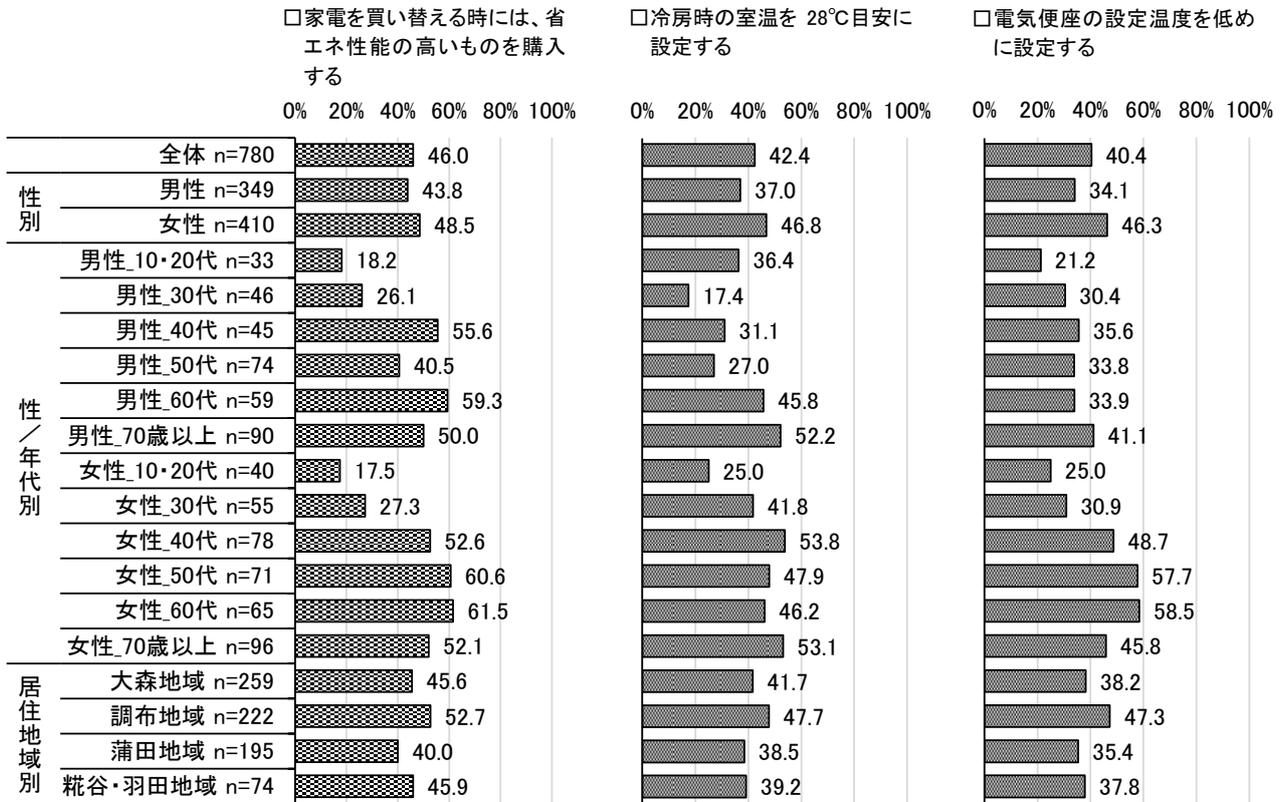
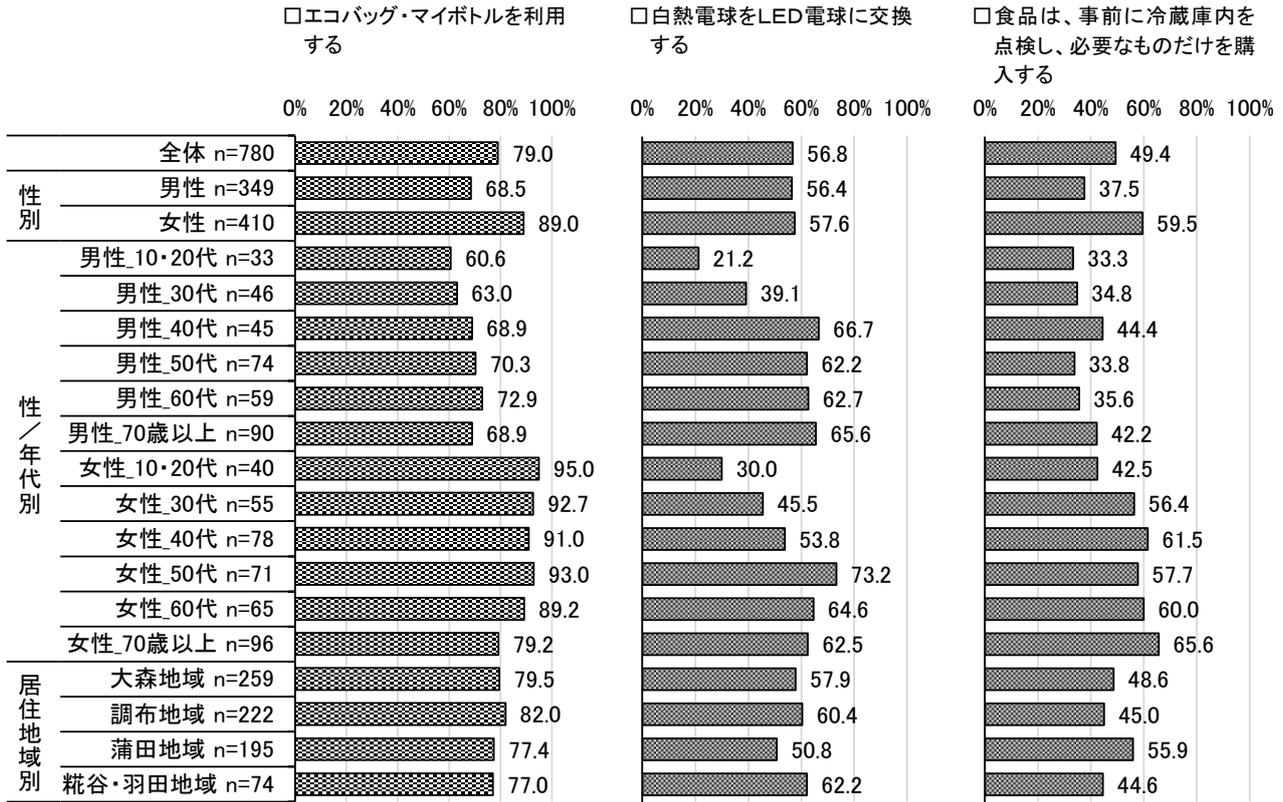
**問 29 あなたのご家庭で実践している省エネなどの環境配慮行動を教えてください。
(いくつでも)**

家庭で実施している環境配慮行動については、「エコバッグ・マイボトルを利用する」が79.0%で最も高く、次いで「白熱電球をLED電球に交換する」が56.8%、「食品は、事前に冷蔵庫内を点検し、必要なものだけを購入する」が49.4%となっている。

なお、「特になし」は4.2%となっている。



■性別・性／年代別・居住地域別（上位6項目）



性別で見ると、男性、女性ともに「エコバッグ・マイボトルを利用する」が最も高く、男性が68.5%、女性が89.0%と、女性が20.5ポイント上回っている。「食品は、事前に冷蔵庫内を点検し、必要なものだけを購入する」は男性が37.5%、女性が59.5%と、女性が22.0ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「エコバッグ・マイボトルを利用する」は女性10・20代から女性50代では9割台と高くなっている。「白熱電球をLED電球に交換する」は女性50代で7割前半と高くなっている。「食品は、事前に冷蔵庫内を点検し、必要なものだけを購入する」は女性70歳以上で6割半ばと高くなっている。

居住地域別で見ると、すべての地域で「エコバッグ・マイボトルを利用する」が最も高く、調布地域で8割前半となっている。

(2) 地球温暖化防止のために、関心のある実践行動や学んでみたいこと

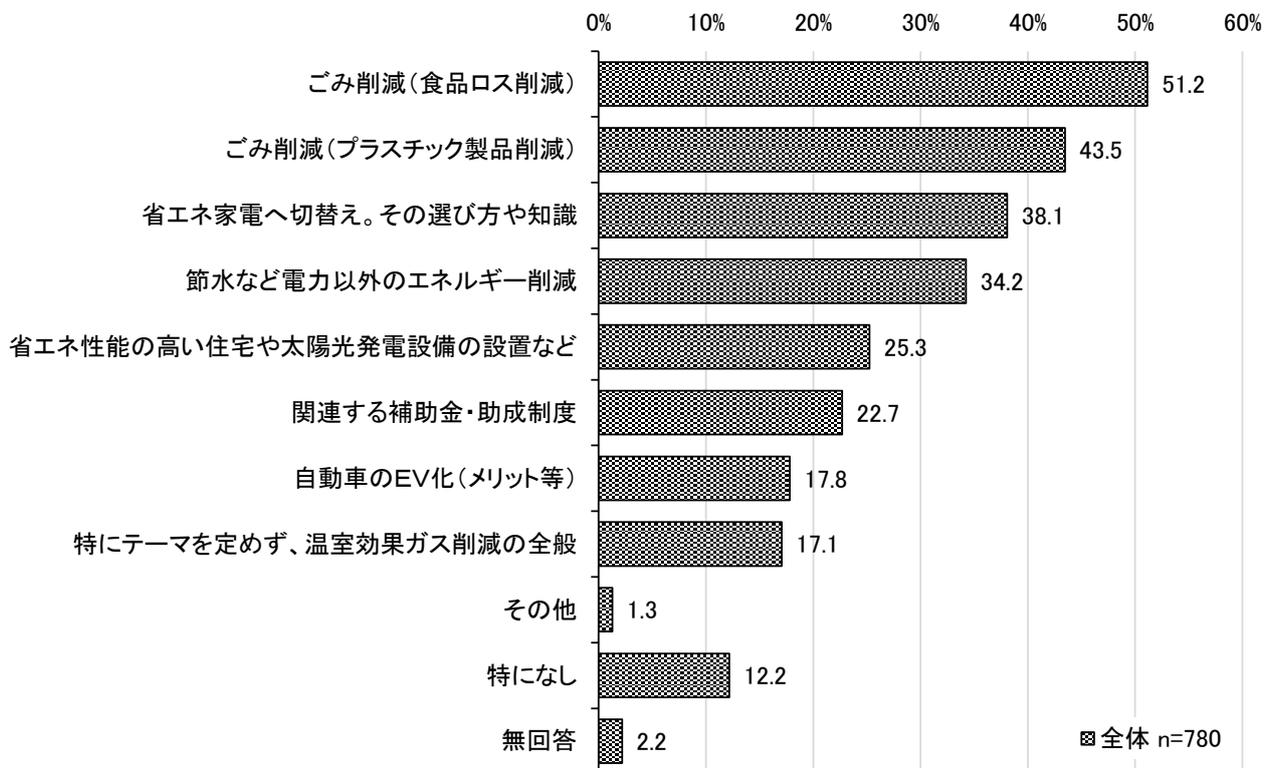
◇「ごみ削減（食品ロス削減）」が5割前半で最も高くなっている

問 30 地球温暖化防止のためには、温室効果ガス削減が有効となります。

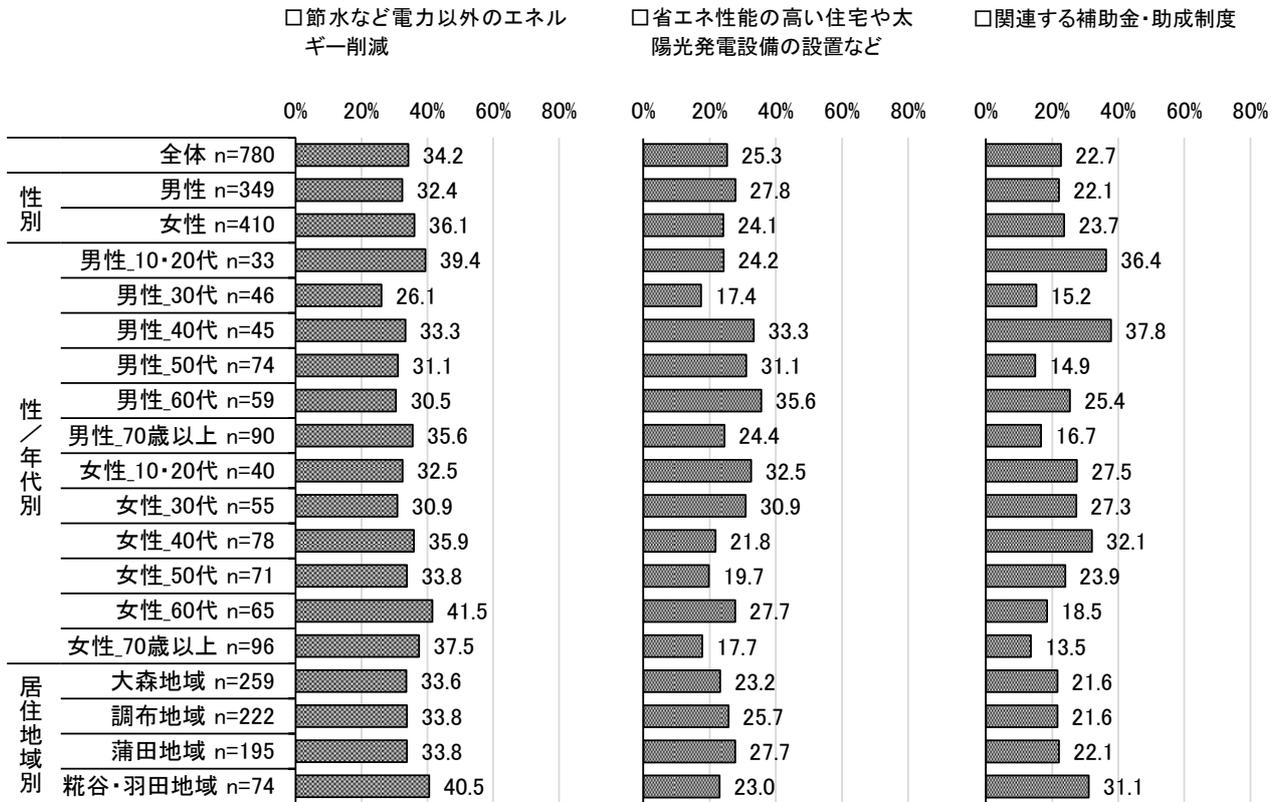
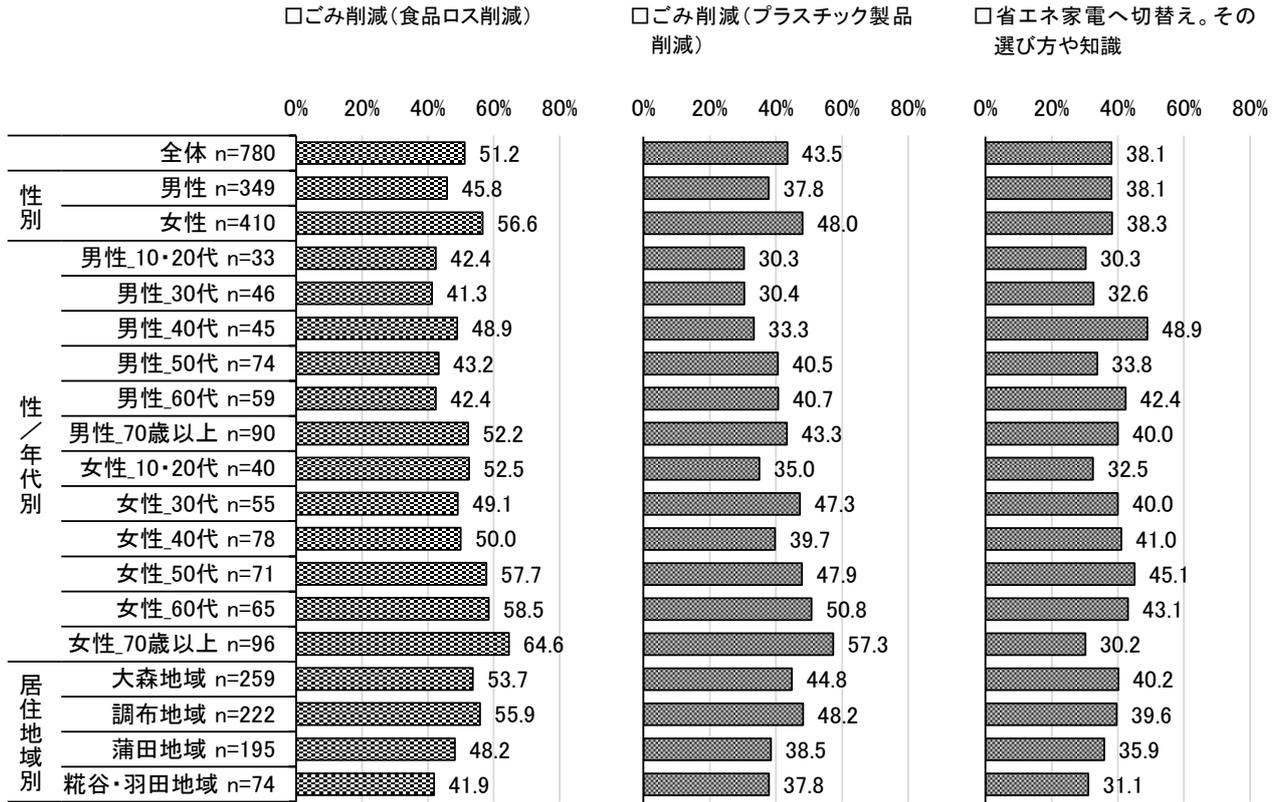
関心のある実践行動や、学んでみたいと思われる内容を教えてください。（いくつでも）

地球温暖化防止のために、関心のある実践行動や学んでみたいことについては、「ごみ削減（食品ロス削減）」が51.2%で最も高く、次いで「ごみ削減（プラスチック製品削減）」が43.5%、「省エネ家電へ切替え。その選び方や知識」が38.1%となっている。

なお、「特になし」は12.2%となっている。



■性別・性／年代別・居住地域別（上位6項目）



性別で見ると、男性、女性ともに「ごみ削減（食品ロス削減）」が最も高く、男性が45.8%、女性が56.6%と、女性が10.8ポイント上回っている。「ごみ削減（プラスチック製品削減）」は男性が37.8%、女性が48.0%と、女性が10.2ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「ごみ削減（食品ロス削減）」は女性70歳以上で6割半ばと高くなっている。「ごみ削減（プラスチック製品削減）」は女性70歳以上で5割後半と高くなっている。「省エネ家電へ切替え。その選び方や知識」は男性40代で4割後半と高くなっている。

居住地域別で見ると、すべての地域で「ごみ削減（食品ロス削減）」が最も高く、調布地域で5割半ばとなっている。

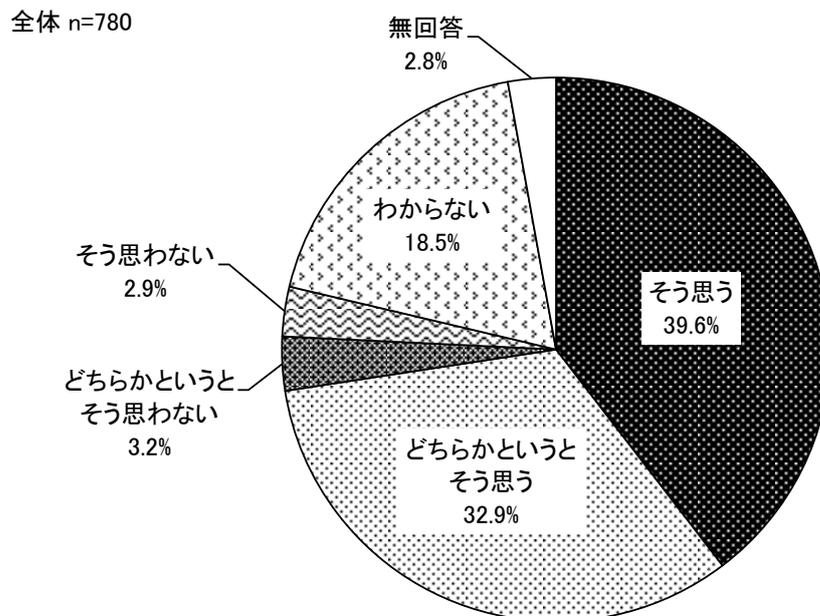
16 行政経営について

(1) 公民連携を推進していくべきか

◇ 《思う》（「そう思う」、「どちらかというと思う」の合計値）は7割前半となっている

問 31 区は、公の持つ強み（地域におけるネットワーク力や広報力など）と民間企業等の持つ強み（独自のノウハウやスピード感など）を掛けあわせ、地域課題の解決などにつなげていく公民連携を進めています。公民連携の手法をより積極的に進めていくべきだと思いますか。（1つのみ）

公民連携を推進していくべきかについては、「そう思う」、「どちらかというと思う」の合計値《思う》が72.5%である一方で、「どちらかというと思わない」、「そう思わない」の合計値《思わない》が6.1%と、《思う》が66.4ポイント上回っている。

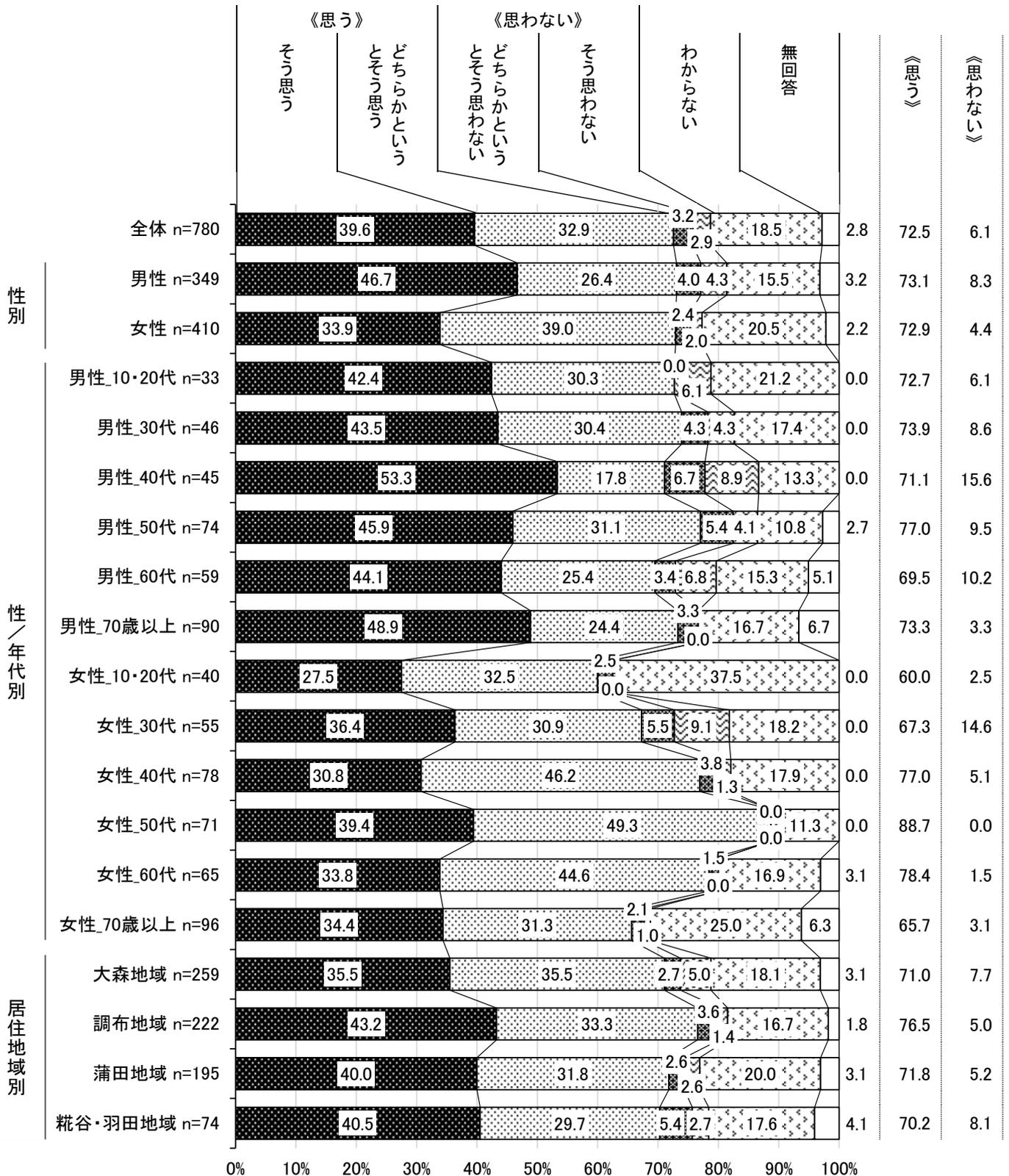


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、大きな差はみられない。

性／年代別でみると、《思う》は男性では50代で7割後半、女性では50代で8割後半と高くなっている。

居住地域別でみると、すべての地域で《思う》が7割台となっている。



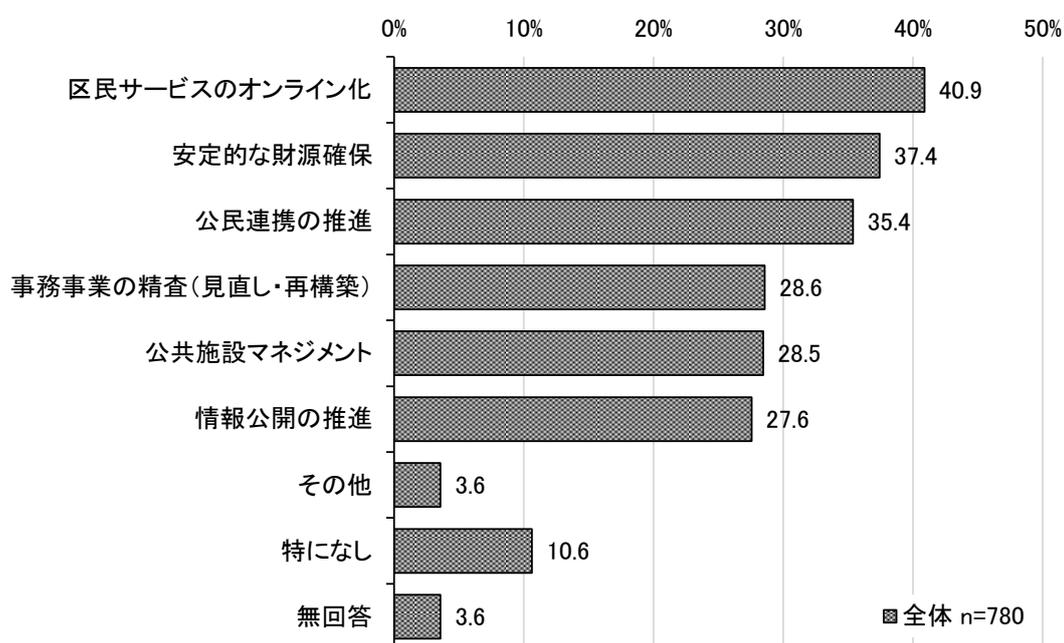
(2) 持続可能な自治体経営を進めるため、力をいれていくべきこと

◇「区民サービスのオンライン化」が約4割で最も高くなっている

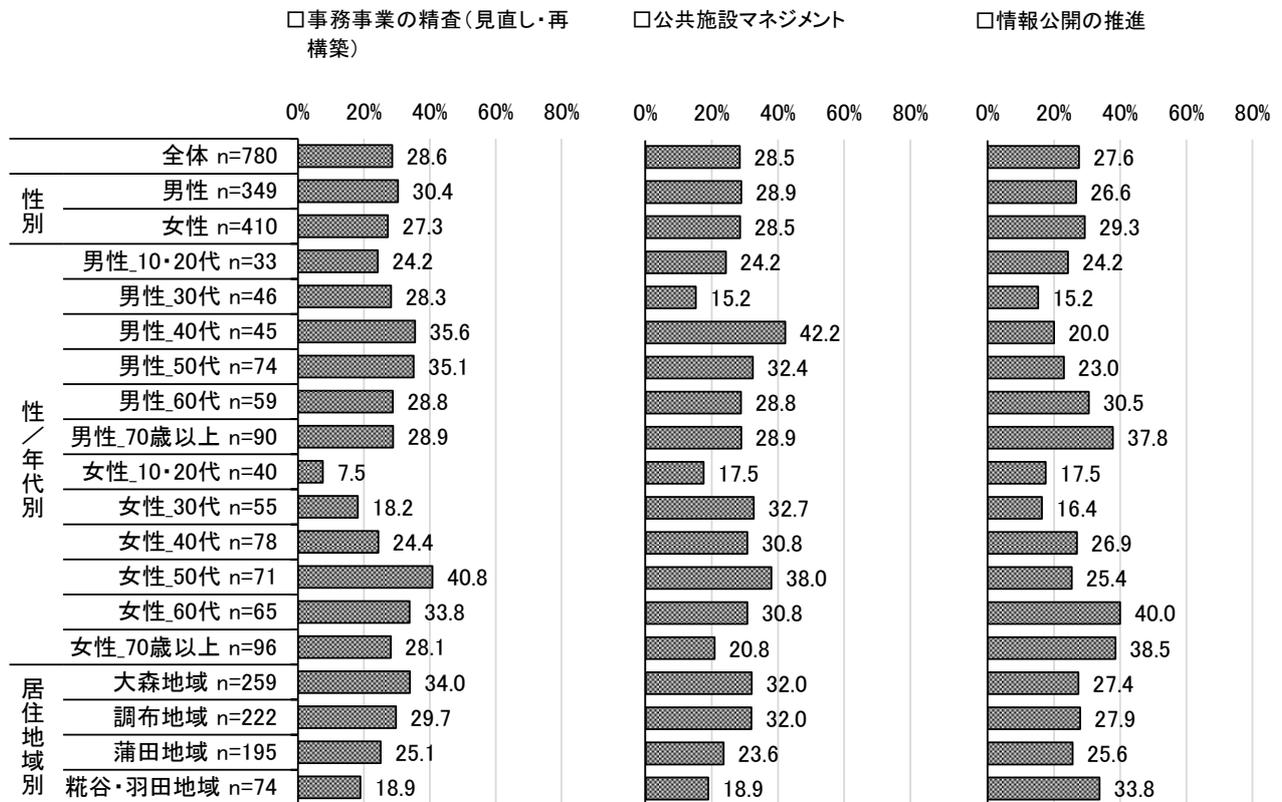
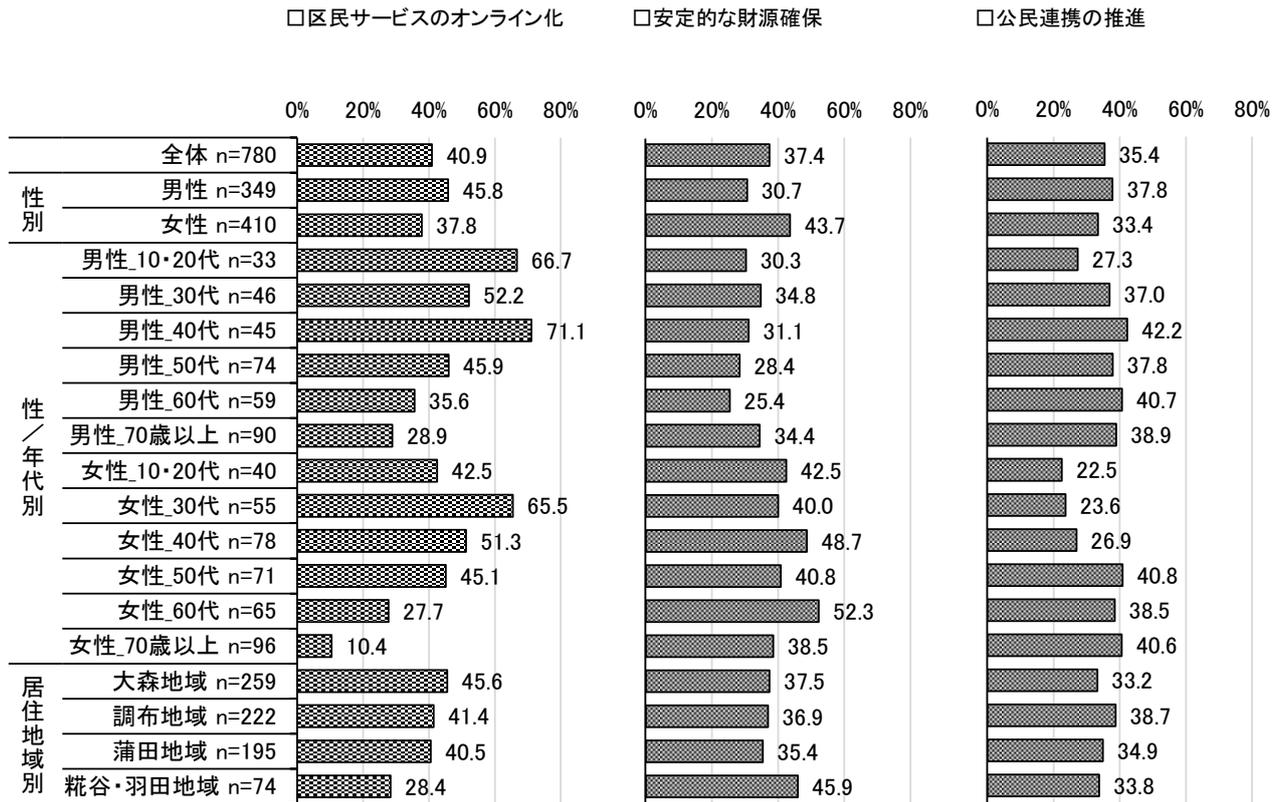
**問 32 区は質の高い区民サービスを提供する、持続可能な自治体経営を進めています。
あなたが、今後さらに力をいれていくべきだと思うことは何ですか。(いくつでも)**

持続可能な自治体経営を進めるため、力をいれていくべきことについては、「区民サービスのオンライン化」が40.9%で最も高く、次いで「安定的な財源確保」が37.4%、「公民連携の推進」が35.4%となっている。

なお、「特になし」は10.6%となっている。



■性別・性／年代別・居住地域別



性別で見ると、男性では「区民サービスのオンライン化」が最も高く、女性では「安定的な財源確保」が最も高くなっている。「区民サービスのオンライン化」は男性が45.8%、女性が37.8%と、男性が8.0ポイント上回っている。「安定的な財源確保」は男性が30.7%、女性が43.7%と、女性が13.0ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「区民サービスのオンライン化」は男性40代で7割前半と高くなっている。「安定的な財源確保」は女性60代で5割前半と高くなっている。「事務事業の精査（見直し・再構築）」は女性50代で約4割と高くなっている。

居住地域別で見ると、大森地域、調布地域、蒲田地域では「区民サービスのオンライン化」が、糀谷・羽田地域では「安定的な財源確保」が最も高くなっている。

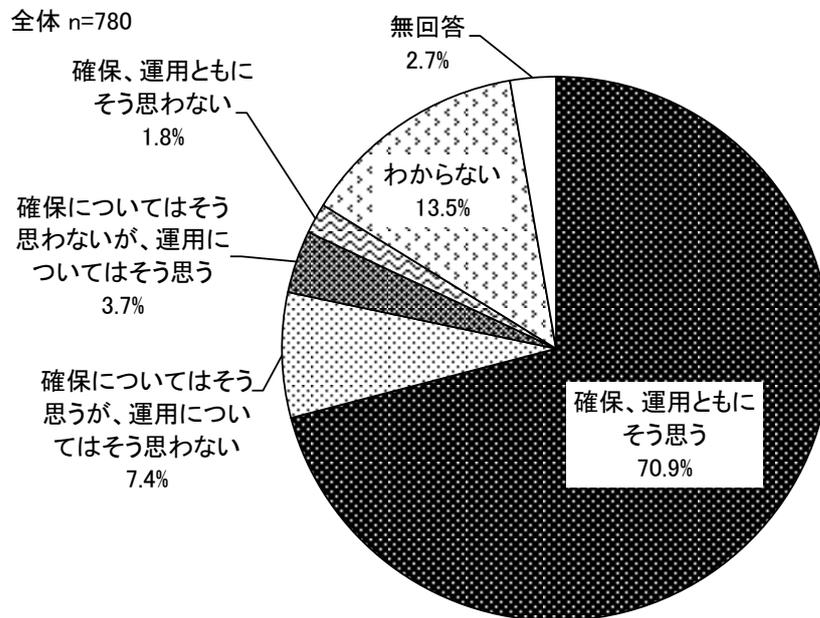
(3) 基金の確保及び運用をしていくべきか

◇「確保、運用ともにそう思う」が約7割で最も高くなっている

問 33 区は、税金が落ち込んだ時への備えや公共施設の更新、防災、福祉、子育て等の行政需要に対応するため、計画的に基金（貯金）を積み立て、活用しています。また、必要な事業が行われるまで、安全に資金運用し、区民福祉に還元できる財源をできる限り増やすよう努めています。

今後も将来に備え、基金（貯金）を確保、運用していくべきだと思いますか。（1つのみ）

基金の確保及び運用をしていくべきかについては、「確保、運用ともにそう思う」が70.9%で最も高く、次いで「わからない」が13.5%、「確保についてはそう思うが、運用についてはそう思わない」が7.4%となっている。



■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、大きな差はみられない。

性／年代別でみると、「確保、運用ともにそう思う」は男性では30代で8割半ば、女性では30代で8割前半と高くなっている。

居住地域別でみると、「確保、運用ともにそう思う」は調布地域で7割半ばと高くなっている。

